



資料編 各種調査からみる状況

I 今治市多文化共生社会調査

I 調査概要

目的

市内に居住する外国人が暮らしやすい多文化共生社会を実現するために、日常生活での困りごとや今後の滞在意向、日本語の対応状況、地域社会との交流の状況等についてアンケート形式で調査することを通じて、外国人居住者の日々の生活や今治市内での暮らしやすさの満足度を指標化すると共に、行政が気付かない潜在的なニーズについても明らかにすることにより、「瀬戸内の世界都市として誰もが住み続けたい輝くまち」を創るための基礎的データを収集・分析することを目的とする。

対象

令和7年7月1日現在、満18歳以上であり、令和6年12月末から引き続き本市に外国人登録を置く3,585名を対象とした。

調査方法

方法① 市職員によるアンケート票配布
留学、技能実習生、特定技能の滞在資格を有する外国人のうち約2,800人に対して、市職員の訪問によるアンケート票（QRコード）配布によるWEB回答方式

方法② 郵送

方法①以外の滞在資格を有する外国人のうち約800人に対して、郵送によるアンケート票（QRコード）送付、回答はWEB回答方式

アンケート依頼文書は、やさしい日本語のほか、英語、中国語（簡体字）、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語で表記900人から回答を得た。

時期

2025年8月～9月

調査項目

回答者の属性(7問) 国籍 / 年代 / 性別 / 在留資格 / 在留家族 / 在留期間 / 居住地

日本語に関すること(4問)

ヒアリング能力 / スピーキング能力 / 読み取り能力 / 検定試験の受験・科目 / 現在の日本語学習の状況 / 日本語教室での学習意思

生活・行政サービスに関すること(11問)

生活で困ったこと / 医療・福祉サービスを利用する際に困ったこと / 子どものことで困ったこと / 困った時の相談相手 / 今治市ホームページの閲覧頻度 / よく使うSNS / 日本で生活するうえで欲しい情報 / 今治市からの情報提供の希望 / 今治市に住んで良かったこと⇔よくなかったこと / 今治市での居住継続希望

コミュニケーション・ルールに関すること(9問)

近隣住民とのコミュニケーション / 祭りや地域行事への参加状況 / 日本人と仲良くなりたいか / 普段付き合うことが多い相手 / ごみ出しルールの理解度 / 自転車に乗る時のルールの理解度 / “マナー”の認知度

移動手段に関すること(4問)

市内でよく使う移動手段 / 車・バイクの運転時に困ったこと / バスや電車を使う時に困ったこと / 公共交通に対する満足度

休日の過ごし方(4問)

出かける頻度 / 出かける地域 / 休日の主な活動 / あればうれしいイベント

ヒアリング調査への協力の可否(1問)

アンケート結果の妥当性

回答者900名の属性が、住民基本台帳に基づく外国人住民の構成とほぼ一致しているため、統計学的にも偏りの少ない、信頼性の高い結果として活用できる

本調査は、外国人住民3,585名を母集団とし、900名（25.1%）から回答を得た。

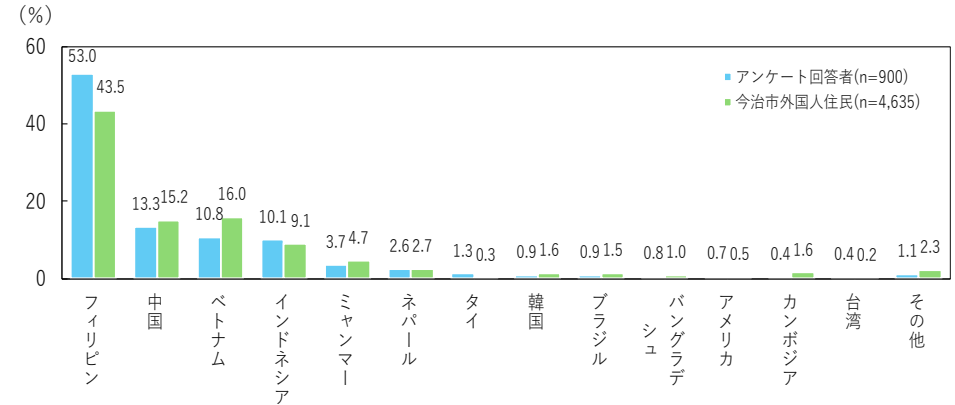
一般に、社会調査において20%を超える回収率は、非回答バイアスの影響を一定程度抑制できる水準とされる。また、回答者属性が母集団の属性分布と統計的に整合しているかは、代表性を評価するうえで重要な指標である。

本調査では、国籍構成比、性別比、在留資格区分等の主要属性が、住民基本台帳に基づく母集団の分布と高い一致度を示した。これは、標本が母集団を偏りなく反映していることを示唆し、サンプリングバイアスが極めて低いことを意味する。

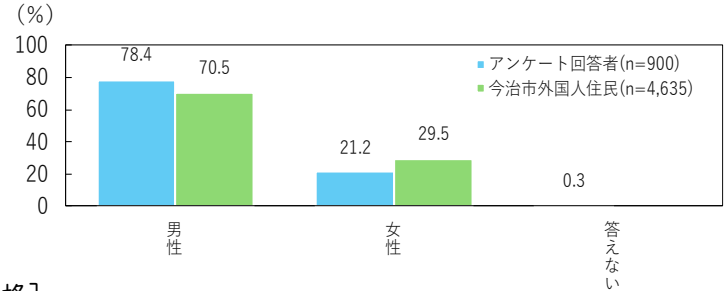
さらに、回答者の属性分布に顕著な偏差が認められないことから、統計学的には「無作為抽出に近似した標本が得られている」と評価でき、推計結果の外的妥当性（generalizability）は十分に確保されていると考えられる。

以上より、本調査データは母集団の実態を適切に反映する信頼性の高いデータセットであり、政策立案に資する統計基盤として利用可能であると判断される。

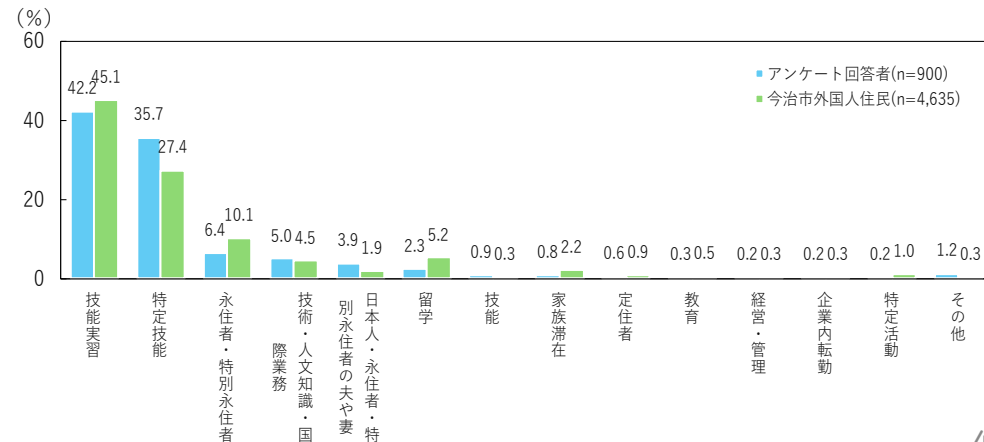
[国籍]



[性別]



[在留資格]



2 分析

(いよぎん地域経済研究センターによる分析)

🏠 今治市に住みたい (72.2%)

《今治に住んで良かったこと》
 ◎まちが清潔できれい (67.9%)
 ◎周りの日本人が親切 (53.3%)
 ○自然や文化が豊か (44.9%) etc...
 《今治に住んでよくなかったこと》
 ▲遊びに行くところが少ない (28.6%)
 ▲買い物や公共交通が不便 (22.2%)
 ▲言葉が通じず寂しい (17.3%) etc...

【地域住民 (自治会) ・企業の視点】
 《今後外国人が増えたときの状況》
 ◎労働力の拡充 (48.1%)
 ○外国人は地域の一員 (36.5%)
 ○地域活性化 (34.6%)
 ○外国文化・風習に触れる機 (30.8%)
 ○日本文化の発信 (9.6%)
 ▲治安や社会秩序の乱れへの不安 (28.8%)
 ▲住民とのトラブル (25.0%) etc...

🏠 日本人と仲良くなりたい (79.5%)

《日本人と仲良くなってやりたいこと》
 ◎祭りなどイベントと一緒に参加 (51.2%)
 ○母国文化の紹介 (40.7%)
 ○食事などの気軽な交流 (38.6%) etc...
 《あればうれしいイベント》
 ◎おいしいグルメが楽しめる (41.8%)
 ○スポーツなどのアクティビティ (16.6%) etc...

【地域住民 (自治会) ・企業の視点】
 《外国人住民との関わり》
 ◎積極的に深めた方がいい (32.7%)
 △必要最低限はした方がいい (55.8%)

《仲良くなろうと思わない理由》
 ▲日本語が分からない (33.8%)
 ▲忙しい (32.4%)
 ▲必要性を感じない (23.0%) etc...

match

gap

障壁

🏠 日本語能力 (コミュニケーション力) に不安 (62.5%)

影響① 日本語能力 (コミュニケーション力) の伸び悩み

《現在の日本語学習の状況》
 ▲一人で勉強 (48.6%)
 →わからなくなると勉強をやめる
 《困った時の相談相手》
 《普段付き合うことが多い相手》
 ▲同国人・職場等限られた範囲の交流
 《生活で困ったこと》
 ▲病院で言葉が通じない (14.2%)
 ▲災害時の対応が分からない (9.9%)
 ▲日本の文化や習慣が理解できない (8.6%)
 ▲必要な行政手続きができない (5.8%)
 《近隣住民とのコミュニケーション》
 ▲挨拶のみ (43.6%)
 《外出頻度、出かける地域》
 ▲外出頻度が少ない (25.3%)
 (行動範囲も限定的)

【地域住民 (自治会) の視点】
 《外国人と顔を合わせる機会》
 ▲あまりない、全くない (61.5%)
 《外国人との交流活動》
 ▲あまりない、全くない (84.6%)
 《自分から外国人に話しかけたこと》
 ▲話しかけたことはない (63.5%)
 【地域企業の視点】
 《地域の問題点》
 ▲外国人相談窓口の整備不足
 ▲通訳の不足
 ▲借家契約拒否等地域受入の壁 etc...

match

match

影響② サービス・支援情報の不足

《ごみ出し・自転車ルール、マナー》
 ○生活ルール、日本ならではのマナーは理解
 《市HPの閲覧頻度》
 ▲ほとんど/全く利用しない (62.1%)
 《市からの情報提供》
 ○希望する (69.1%)
 《生活するうえで欲しい情報》
 ▲災害等緊急時情報 (39.4%)
 ▲医療情報 (39.2%)
 ▲自治体からのお知らせ (36.7%)
 《日本語教室での学習意思》
 ▲日本語教室の存在を知らない (66.6%)
 →「参加したい」33.5%
 《バス・電車の利用時に困ったこと》
 ▲路線や乗換が分かりにくい (18.0%) etc...

gap

gap

match

【地域住民 (自治会) の視点】
 《外国人住民に求めること》
 ▲生活ルール (ごみの分別など) 遵守 (65.4%)
 ▲挨拶などの基本 (53.8%)
 ▲地域活動への参加 (44.2%) etc...
 《外国人が居住するのに必要なこと》
 ◎生活ルールの周知 (71.2%)
 ◎日本の習慣・文化の周知 (50.0%)
 ○日本語の習得への支援 (42.3%) etc...

【アンケートからみえること】

- ☞ 長期にわたって今治市に住み続けたい、日本人と仲良くなりたいたいと考えている外国人が7～8割いる
- ☞ 6割超の外国人が日本語能力に不安を抱えているため、実際には日本人との交流が限定的（仲良くなりたいたい思いとのギャップ）
- ☞ 外国人と日本人とのコミュニケーションにおいて、共通する思い、意識のギャップがみられる

【共通する思い】

- 交流を深めたい
- 言葉が通じない→日本語習得や通訳、相談窓口の支援が必要

【意識のギャップ】

- 仲良くなりたいたい／必要最低限
↳人間関係（コミュニケーションの活発化）が必要
- 情報が欲しい／HP等で発信している
↳多言語・やさしい日本語表記、SNS等での効果的な発信が必要
- ルールやマナーは守っている／守ってほしい（守れていない）
↳”守る”という基準の明確化、啓発が必要

- ☞ コミュニケーションが難しい外国人は「相談相手がいらない→一人で悩む→外出しない→地域に溶け込めない→住み続けたいと思えない」という負のスパイラルに陥る可能性

⇒外国人と日本人がお互いにコミュニケーションを取れる環境づくり（施策）が必要

【施策の方向性】

【人が元気になるまちへ】

- 日本語が苦手な層へ行政サービス・生活情報を届ける専用窓口や支援体制を強化する
- 多言語相談窓口や通訳・生活支援人材を拡充し、相談体制の周知を図る
- 生活情報、災害時の避難情報を含むサービス案内を多言語でわかりやすく提供し、アクセスの促進を図る
- 交通利用案内や運転教室、多言語説明資料を充実させる
- 免許取得や公共交通機関利用に関する相談窓口を設ける

【しなやかで強靱なまちに】

- ごみ出しや自転車などの生活ルールの理解促進のため、図解や動画等で視覚的にわかりやすく啓発する

【産業に活力を与えるまちに】

- 自治体ホームページや生活案内を多言語化しつつ、「やさしい日本語」への理解や周知も行き、受け皿を広げる

【輝くまちに】

- 学習意欲に応じた日本語教室の拡充・周知を強化し、多様な学習スタイル（対面、オンライン）を整備することで、日本語習得のレベルアップを図る
- SNSや多様なコミュニケーションツールを活用し、生活ルールや地域情報をわかりやすく発信する。情報を提供する際は、それぞれの国でよく使われるSNSでプッシュ通知を行う
- 地域行事への参加促進プログラムを企画し、日本人住民と外国人住民の交流機会を拡充する
- 地域イベントでの多文化交流を促進し、休日の過ごし方の多様化を支援する

2 分析

(いよぎん地域経済研究センターによる分析)

要旨 本市に住み続けたいと思う外国人住民は7割。日本語支援や生活ルールの理解促進、地域住民との交流機会拡充が今後の多文化共生推進には不可欠。

日本語に関すること

【まとめ】

- 日本語能力はヒアリング能力やスピーキングに課題を持つ人が多く、読み取りの理解度はさらに低くなる。
- 技術実習生や特定技能の在留資格者で日本語習得差が目立つ。
- 日本語能力が高い人ほど行政情報や生活ルールの理解が進むものの、多くが一人での独学に頼っており、体系的な日本語学習機会や教室利用が十分ではない。
- 日本語教室について「知らない」人が多く、特にインドネシアやミャンマー出身者で高い。このことは日本語能力向上の障壁となっている。

【今後の方向性】

- 学習意欲に応じた日本語教室の拡充・周知を強化し、多様な学習スタイル（対面、オンライン）を整備することで、日本語習得のレベルアップを図る。
- 自治体ホームページや生活案内を多言語化しつつ、「やさしい日本語」への理解や周知も行い、受け皿を広げる。
- 日本語が苦手な層へ行政サービス・生活情報を届ける専用窓口や支援体制を強化する。

生活・行政サービスに関すること

【まとめ】

- 生活で困ったことは「病院で言葉が通じない」「地域の人とのコミュニケーション不足」が上位。日本語の聴く・話す能力が低いと不安が大きい。
- 医療・福祉サービス利用時も言語の問題が最も障壁として顕著だが、通訳がいれば一定程度不安が解消できる可能性がある。
- 子育て面では「学校でのいじめ」や「日本語学習支援の不足」などの不安を持つ家庭が見られる。
- ホームページでの情報提供は行われているが、閲覧される頻度は高くない。読み手（外国人）の言語力や理解度でも利用頻度に差がある。

【今後の方向性】

- 多言語相談窓口や医療通訳・生活支援人材の拡充、相談体制の周知を図る。
- 学校や保育園、行政間の連携強化により子育て情報発信と相談体制を整備し、不安払拭に努める。
- 生活情報、災害時の避難情報を含むサービス案内を多言語でわかりやすく提供し、アクセスの促進を図る。

コミュニケーション・ルールに関すること

【まとめ】

- 近隣住民とのコミュニケーションは「挨拶のみ」や「時々話をする」程度で、積極的な地域交流はあまり行われていないことがうかがえる。
- SNSはFacebookが最も多く利用されるツールだが、国籍や年代で利用傾向に差がある。
- 地域のごみ出しルールや自転車ルールの理解は全体的に高いものの、ある程度の説明や啓発は依然として重要と思われる。
- 祭りや地域行事の参加経験は半数程度で、特に日本語力が高い層に参加が多い。日本人と仲良くなったなら、「祭りなど近所のイベントと一緒に参加したい」とする回答が多いことから、祭りやイベントは多文化交流の契機になり得る。

【今後の方向性】

- SNSや多様なコミュニケーションツールを活用し、生活ルールや地域情報をわかりやすく発信する。また、市が情報を提供する際は、国籍にあわせたSNSでプッシュ通知を行う。
- 地域行事への参加促進プログラムを企画し、日本人住民と外国人住民の交流機会を拡充する。
- ごみ出しや自転車などの生活ルールの理解促進のため、図解や動画等で視覚的にわかりやすく啓発する。

移動手段に関すること / 休日の過ごし方

【まとめ】

- 今治市内で最も使われるのは自転車で、利用率は約70%。バスや電車の利用は限られ、不便さの指摘も多い。特に在留資格別や地域によって交通手段の使い勝手に差がある。
- 車・バイク運転時の手続きやルールの理解で困る人は多く、日本国内の免許取得や交通ルールの周知・支援が求められる。
- 休日の過ごし方は「買い物」や「公園散策」が多い。あればうれしいイベントは、グルメやサイクリングの声が多い。
- 外出頻度は月に数回程度が多いが、在留期間や日本語能力によって異なる。出かける地域は市内中心部が多い傾向。

【今後の方向性】

- 交通利用案内や運転教室、多言語説明資料を充実させる。
- 免許取得や公共交通利用に関する相談対応窓口を設ける。
- 地域イベントでの多文化交流を促進し、休日の過ごし方の多様化を支援する。

3 分析と論点整理

(本市職員による分析)

論点①「問題はない」と答える“物言わぬ多数派”の存在

アンケート事実

- ・「生活で困ったこと」に対し、50.1%が「困ったことは ありません」と回答。
- ・「病院や生活の助けで困ったこと」でも、43.8%が「困ったことはありません」と回答。
- ・「今治市に住んでよくなかったこと」では、27.7%が「『よくなかった』とおもうことはありません」と回答。

深掘り分析による隠れた論点の掘り起こし

この「問題なし」という回答は、必ずしも「満足している」とイコールではない可能性がある。

自己完結型コミュニティの可能性

困りごとが発生しても、市の公式な窓口（計画が支援しようとしている対象）ではなく、職場の同僚や監理団体、あるいは出身国のコミュニティ内で解決しているため、「市の生活では困っていない」と認識している層。Q13「相談相手」で「自国の家族・友人」(43.1%)や「会社の同僚」(34.0% + 24.0%)が上位である点がこれを裏付けている。

遠慮や諦めの可能性

「言っても仕方がない」「迷惑をかけたくない」という遠慮や、言葉の壁から相談自体を諦めている層が「問題なし」と回答している可能性。

プランへの反映

本プランでは、「1-1 必要な人に必要なサービスや情報が届く仕組みの構築」や「1-2 外国人住民の生活相談体制の充実」によるほか、今後も“物言わぬ多数派”の「見えざるニーズ」を掘り起こすため、「1-1-2 企業や団体、外国人コミュニティと連携したニーズ把握」を最重要施策と位置づけ、引き続き、「なぜ市の窓口に相談しないのか」という根本的な問いを投げかけるヒアリングを重視していくこととする。

論点② 欲しい情報は「防災」と「医療」

アンケート事実

- 「ほしい情報」のトップは「防災」(39.6%)と「医療」(39.2%)。これらは生命と安全に直結する根源的なニーズである。
- 「困ったこと」のトップは「病院での言葉の問題」(26.1%)。

プランへの反映

- 基本方針1に「保健・医療・介護等に関する支援」、基本方針2に「防災、交通安全・防犯の推進」が明確に位置づけられている。
- 具体的施策として1-5-7「医療分野における多言語対応」、2-1-1「災害時及び災害発生後の対応の充実」が盛り込まれている。
- 特に、生活支援アプリ(1-1-3)の構想に防災・医療情報が組み込まれている点は、住民の情報収集手段(Q15 Facebook利用率73.1%)の実態に即している。

論点③ 交流意欲と「現実」の間に存在するギャップ

アンケート事実

- ・「近所の日本人となかよくなりたいですか」に対し、77.9%が「そう思う(とても+すこし)」と回答。極めて高い交流意欲が見られる。
- ・しかし、「ふだん一緒にいることが多い相手」では「同じ国籍の友人や会社の人」(57.5%)が断トツで、「近所の日本人」(4.3%)は非常に低い。
- ・日本人との関係は「あいさつだけ」(42.2%)が最多である。

深掘り分析による隠れた論点の掘り起こし

アンケート結果は、「交流意欲はあるが、実現できていない」可能性を示唆している。

これは、次の二つの可能性を示唆しており、市が良かれと思って「交流イベント」を多数企画しても、これらの根本的な障壁が解消されなければ、参加者はいつも同じ顔ぶれになり、本当に交流を求めている層に届かない可能性がある。

①時間的・物理的制約

回答者の73.9%を占める技能実習生・特定技能人材は、労働時間が長く、平日の夜や週末に地域のイベントに参加する余裕がない可能性がある。(アンケートでは直接尋ねていないが、一般的な傾向として想定される。)

②心理的・情動的障壁

イベント情報が届いていない(16.0%が「イベントがあることを知らない」)、言葉に自信がなく参加をためらう、「誘われれば行すが、自分から一歩を踏み出す方法がわからない」といった障壁。

プランへの反映

本プランでは、外国人住民を含む地域住民自らが「お誘い」により仲間を増やす取組1-3-3「『お誘い』から始まる交流の促進」をにて示すことで、自発的・自律的な交流を図る取組を示すこととした。

論点④ 日本語独学者の潜在的ニーズ

アンケート事実

「日本語教室に参加したことがある外国人の割合」(9.6%)である。
学習者の主流は「独学」(48.4%)である。

深掘り分析による隠れた論点の掘り起こし

日本語学習の主流派は「独学」であることに鑑みると、地域日本語教室の開催や参加者数のみを追い求めると、大多数を占める「独学層」をサポートするという視点が抜け落ちる危険性がある。

①時間的または地理的制約のある学習意欲層

彼らは時間や地理的な制約で教室に通えないが、学習意欲はある層かもしれない。

②現在は市内で実施していない「JLPT対策」の待望層

本市では「日本語教育の推進に関する法律」の趣旨に基づき、「4-1-1 地域日本語教室の充実」を図ることを基本的な施策としているが、最近、日本語能力試験(JLPT)対策を求める声が多く、この層が「独学」によるほかにない状況となっている可能性がある。

プランへの反映

日本語学習支援において、教室の充実に加え、独学者向けのオンライン教材の提供や、学習相談ができるオンラインメンター制度などを「4-1-1 地域日本語教室の充実」としてプランに追加した。

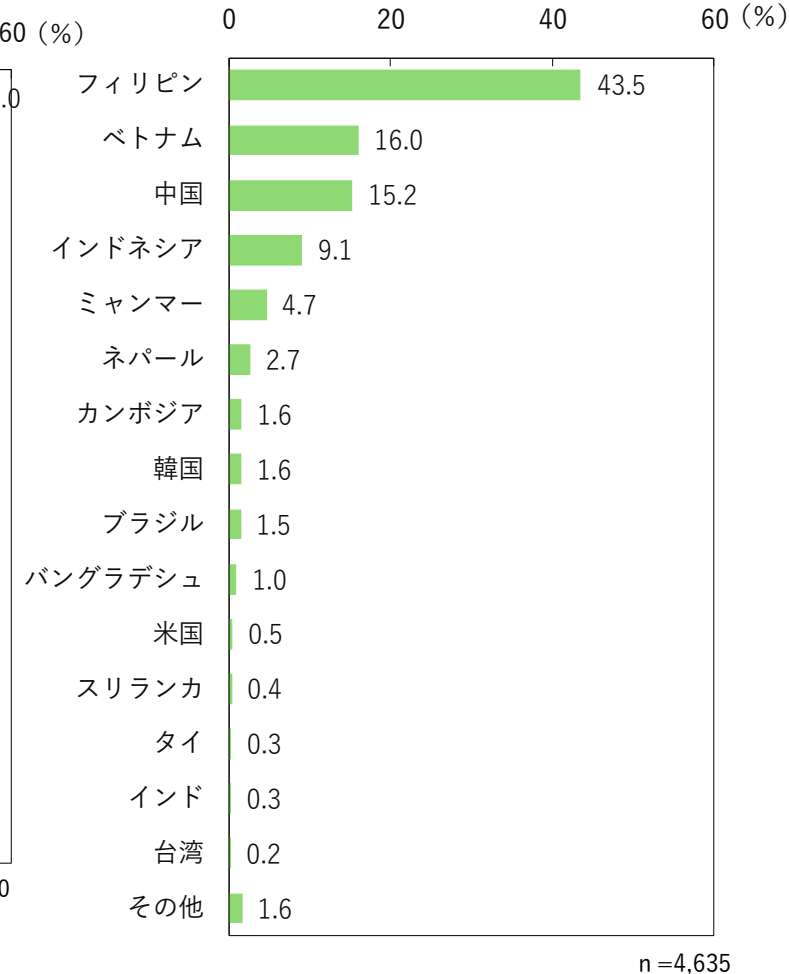
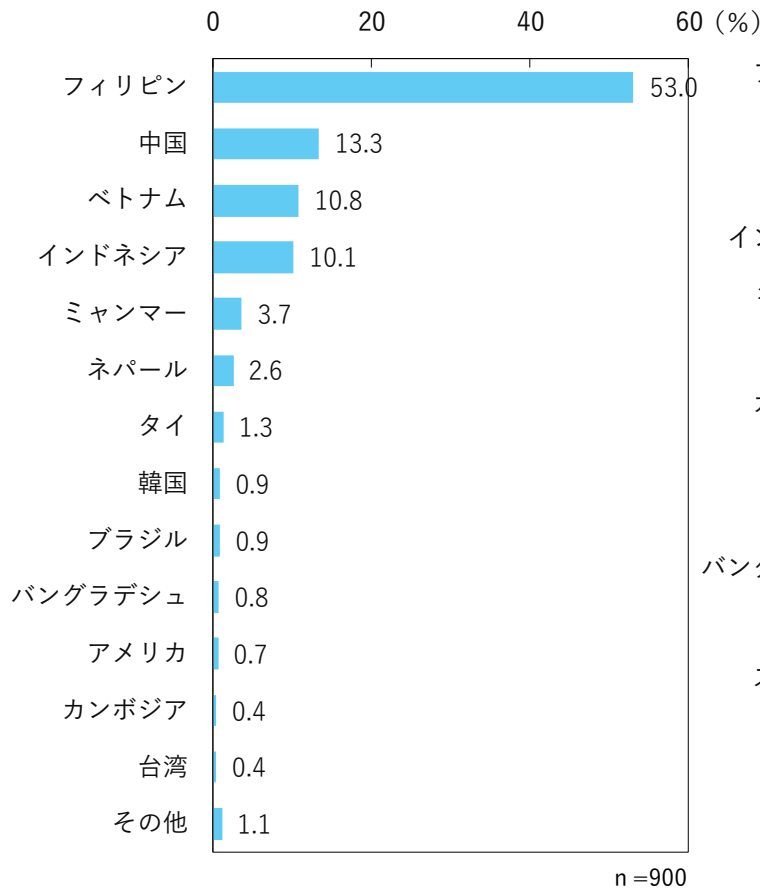
また、日本語能力試験(JLPT)は、就職や転職に有利であり、特定技能の在留資格取得等の際や就労ビザの取得の要件となっていることから、本人または企業等が費用負担し実施することが適切であるとの考えのもと、プランにおいては、「3-2-1(4-1-4) 職場や地域経済界が実施する日本語学習への支援」の項目を設け、企業や団体、業界団体による実施を促すものとした。

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

属性

国籍

- 出身国はフィリピンが最も多く、大きく開いて中国、ベトナム、インドネシアと続く。
- 「住民基本台帳」によると2025年10月末時点での今治市の在留外国人は4,635人で、国籍別にみるとフィリピン、ベトナム、中国、インドネシア、ミャンマー、ネパールの順に多く、上位6か国のうち中国・ベトナム以外は本調査の回答者の国籍と同じ順位になっている。本調査ではフィリピン国籍の回答者が実際の割合よりやや高くなっているものの、ほぼ実態を反映した回答となっている。



参考：2025年10月末時点の今治市在留外国人
出所：今治市「住民基本台帳」

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

年代

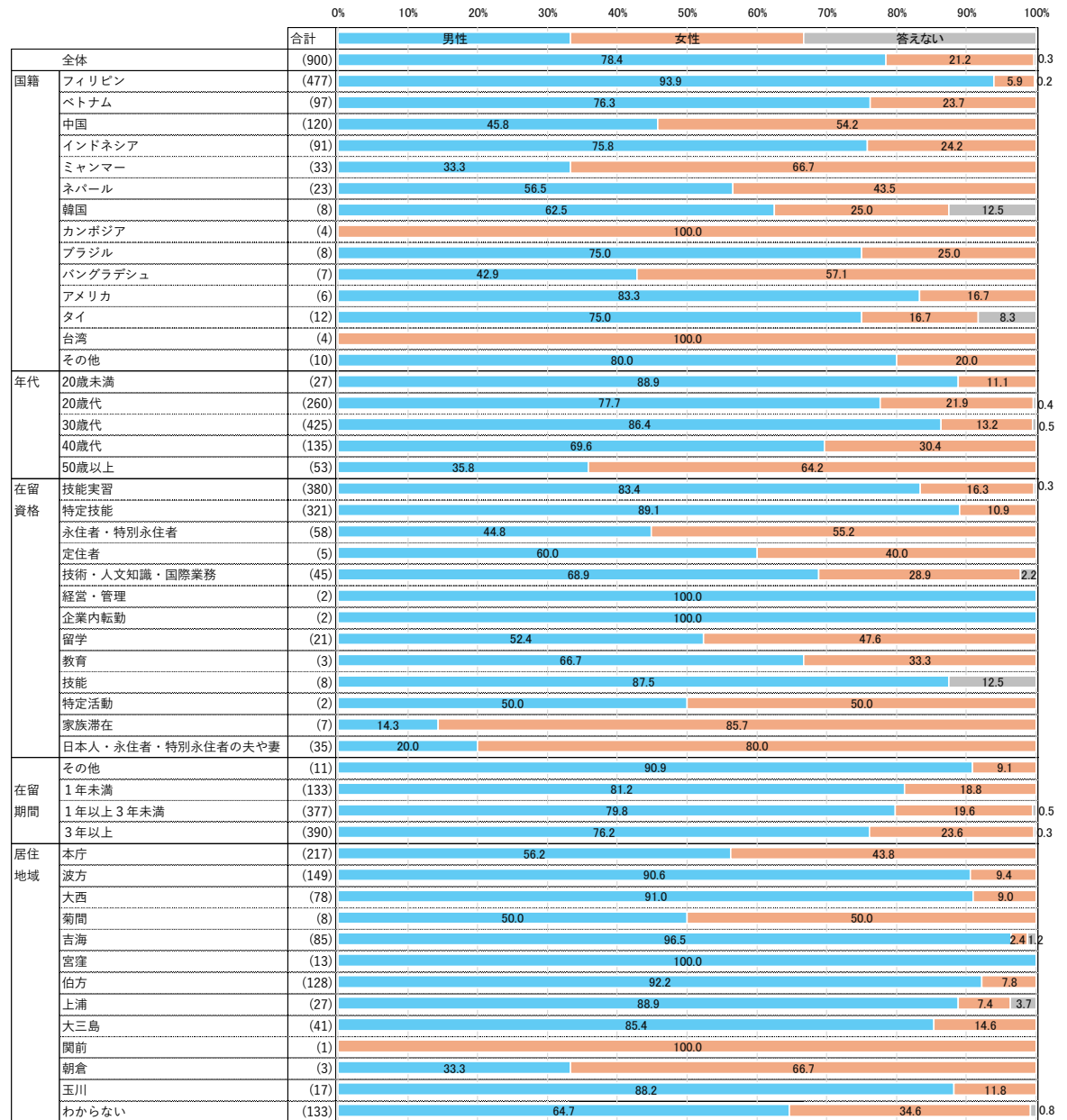
- 30歳代が47.2%で最も多く、20歳代(28.9%)が続く。
- 国籍別では、フィリピン人とベトナム人は30歳代が最も多く、20歳代が続く。中国人は40歳代以上が35.0%と最も多く、30歳代の30.8%が続く。インドネシア、ミャンマー、ネパールは20歳代以下の若い層が過半数を占める。ネパール人回答者に若年層が多いのは、6割以上が留学生であることが影響している。
- 性別では、男性は30歳代が52.0%と過半数を占め、20歳代の28.6%が続く。女性は、20歳代と30歳代がいずれも約3割と並んでいる。
- 在留資格別でみると、技能実習は20歳代が最も多く45.5%で、30歳代の40.3%が続く。特定技能の資格は、技能実習を経て取得されるケースが多いため、30歳代が過半数(66.0%)を占める。
- 居住地域別でみると、本庁エリアでは最も割合が高い30歳代でも35.9%となっており、40歳代(21.2%)や50歳以上(12.9%)の割合がやや高い。

		合計	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
			20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上						
全体	(900)	3.0	28.9	47.2	15.0	5.9							
国籍	フィリピン (477)	3.8	21.6	59.7	12.4	2.5							
	ベトナム (97)	5.2	36.1	46.4	12.4								
	中国 (120)	1.7	8.3	30.8	35.0	24.2							
	インドネシア (91)					68.1	24.2	5.5					
	ミャンマー (33)					60.6	39.4						
	ネパール (23)	4.3					78.3	17.4					
	韓国 (8)	12.5	12.5	37.5	37.5								
	カンボジア (4)					50.0	25.0						
	ブラジル (8)	25.0					50.0	25.0					
	バングラデシュ (7)	28.6					57.1	14.3					
	アメリカ (6)					50.0	50.0						
	タイ (12)	33.3					41.7	25.0					
	台湾 (4)	25.0	25.0	50.0									
その他 (10)	20.0	30.0	30.0	20.0									
性別	男性 (706)	3.4	28.6	52.0	13.3	2.7							
	女性 (191)	1.6	29.8	29.3	21.5	17.8							
在留資格	技能実習 (380)	4.2	45.5	40.3	6.8	3.2							
	特定技能 (321)	1.9	13.4	66.0	18.7								
	永住者・特別永住者 (58)	1.7	27.6	37.9	32.8								
	定住者 (5)	20.0	60.0	20.0									
	技術・人文知識・国際業務 (45)	4.4	31.1	37.8	11.1	15.6							
	経営・管理 (2)	50.0	50.0										
	企業内転勤 (2)	50.0	50.0										
	留学 (21)	9.5	85.7	4.8									
	教育 (3)	66.7	33.3										
	技能 (8)	12.5	62.5	12.5	12.5								
	特定活動 (2)	50.0	50.0										
	家族滞在 (7)	71.4	28.6										
	日本人・永住者・特別永住者の夫や妻 (35)	11.4	20.0	34.3	34.3								
その他 (11)	27.3	45.5	27.3										
在留期間	1年未満 (133)	4.5	39.8	45.1	9.8	1.0							
	1年以上3年未満 (377)	4.0	41.4	42.4	8.8	3.4							
	3年以上 (390)	1.5	13.1	52.6	22.8	10.0							
居住地域	本庁 (217)	1.8	28.1	35.9	21.2	12.9							
	波方 (149)	1.3	32.9	51.0	11.4	3.4							
	大西 (78)	5.1	32.1	50.0	12.8								
	菊間 (8)	12.5	62.5	25.0									
	吉海 (85)	5.9	17.6	69.4	5.9	1.2							
	宮窪 (13)	38.5	46.2	15.4									
	伯方 (128)	3.1	28.9	48.4	14.1	5.5							
	上浦 (27)	7.4	3.7	63.0	22.2	3.7							
	大三島 (41)	7.3	22.0	56.1	14.6								
	関前 (1)	100.0											
	朝倉 (3)	33.3	66.7										
	玉川 (17)	23.5	58.8	11.8	5.9								
	わからない (133)	2.3	39.1	36.1	16.5	6.0							

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

性別

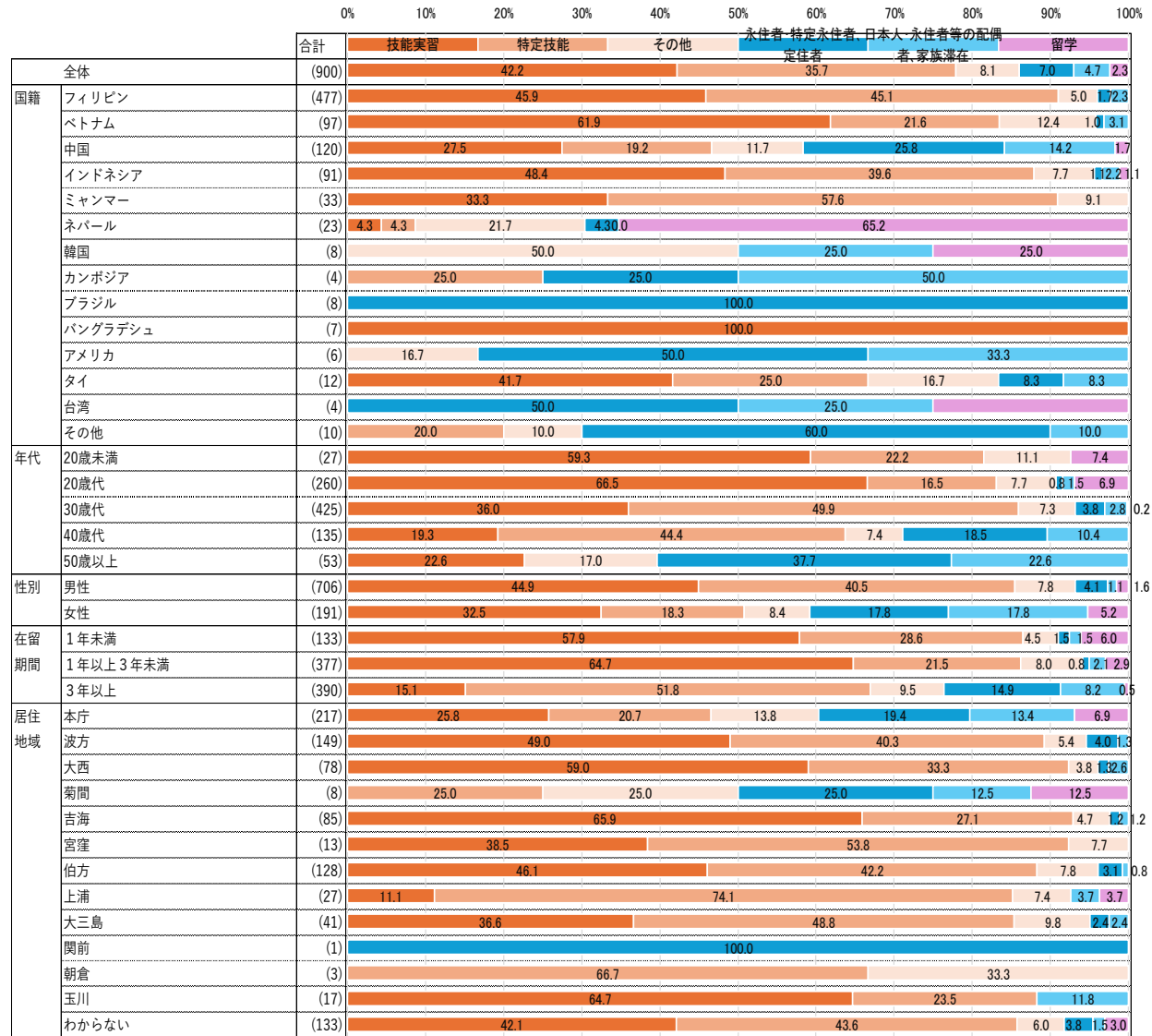
- 男性が78.4%と4分の3を超える。
- 国籍別では、フィリピン人で男性の割合が特に高い（93.9%）が、これは造船業など重労働を担っていることによるものと推察される。
- 中国、ミャンマー人は男性よりも女性が多い。タオル業界や介護業界に従事している割合が高いことが影響していると考えられる。
- 年代別では、50歳代以上は女性の割合が高い。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

在留資格

- 技能実習と特定技能で7割超を占める。
- 国籍別では、フィリピン、ミャンマー人は特定技能の比率が他よりも高い。特定技能の対象職種から、フィリピン人は造船業、ミャンマー人は介護業界に従事する割合が高いと考えられる。
- 中国人は、技能実習の割合が高いものの27.5%。永住者・特定永住者、定住者の割合が他の国籍に比べると高い(25.8%)。
- ベトナム人は技能実習が61.9%と最も多い。近年、全国的にベトナム人の技能実習生が急増してきたことが影響している。
- ネパール人は、サンプル数は少ないが留学生が高い割合を占める。
- 年代別では、20歳代以下は技能実習が過半数を占め、30歳代は特定技能の割合が高い。技能実習期間を経て特定技能に移行する割合が高いことが考えられる。
- 性別で見ると、女性は永住者・特定永住者、定住者、家族滞在などの割合が男性よりも高い。
- 居住地域別で見ると、本庁エリアは在留資格が比較的分散している。造船業が盛んな波方、大西、吉海、伯方地区などでは、技能実習と特定技能を合わせると約8割を占める。



【その他回答】 インターンシップ / 高度専門職

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

在留家族

- 単身で在留している割合が72.4%と最も高く、大きく開いて同国籍の親族（9.6%）、同国籍の配偶者（7.0%）と続く。
- 国籍別では、中国人は他国に比べて、単身で在留する割合が低く（49.2%）配偶者や子どもと暮らす割合が高い。これは、永住者・特定永住者、定住者の在留資格を保持する割合が他国籍者よりも高いためである。
- 年代別では、若い層ほど単身で在留している割合が高い。原則家族の帯同が認められていない技能実習や特定技能（1号）の在留資格者が多いことが関係している。このため、フィリピン、ベトナム人で単身在留割合が高い。

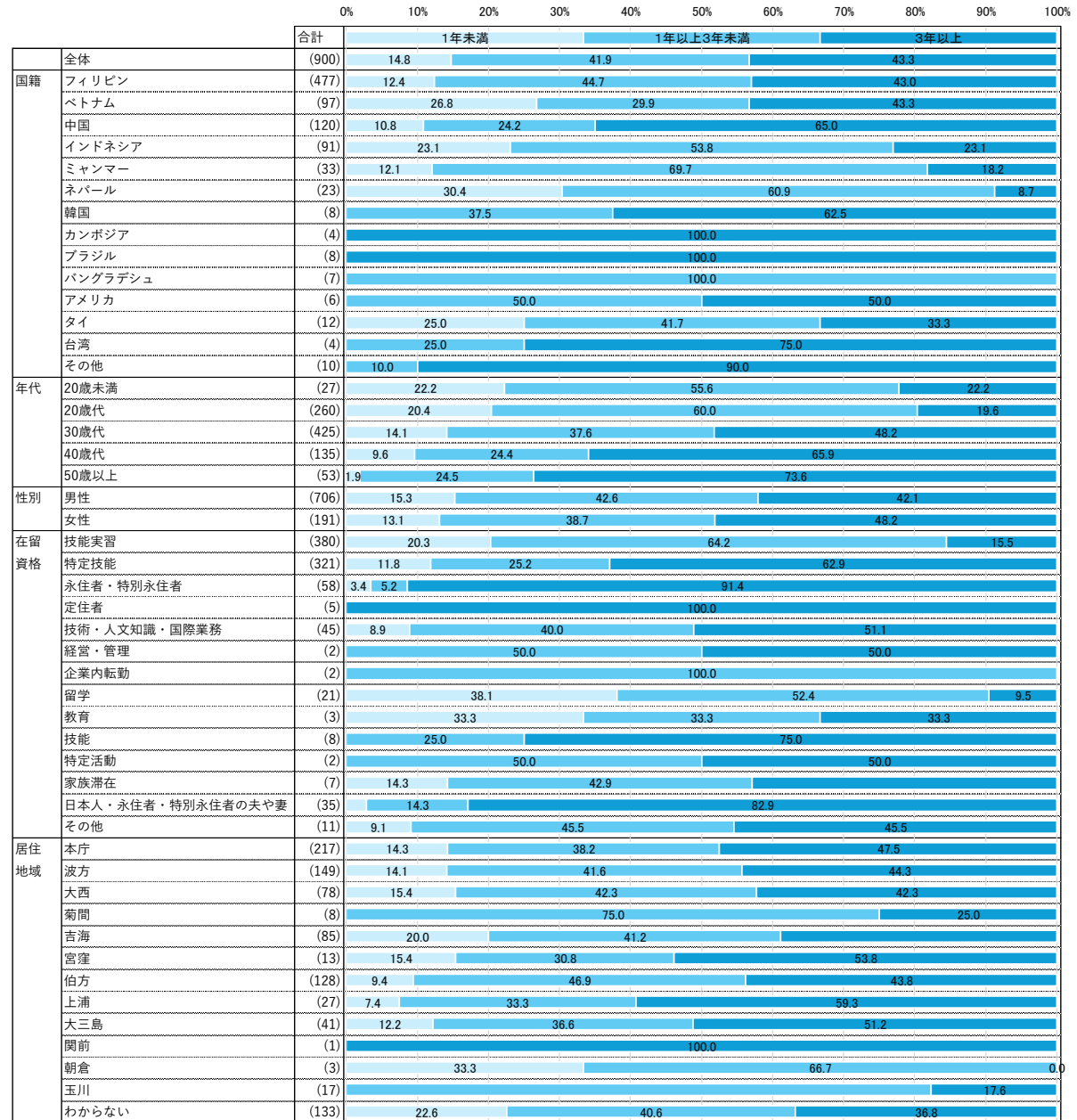


	合計	配偶者(同じ国籍)	配偶者(異なる国籍)	子ども(同じ国籍)	子ども(異なる国籍)	親(同じ国籍)	親(異なる国籍)	その他親戚(同じ国籍)	その他親戚(異なる国籍)	日本に家族はいない	不明
国籍	全体 (900)	7.0	6.9	5.6	4.7	1.0	1.1	9.6	1.1	72.4	2.3
	フィリピン (477)	3.8	1.7	2.9	1.0	0.2	0.4	11.5	0.8	79.9	2.5
	ベトナム (97)	8.2	3.1	2.1	1.0	1.0	0.0	4.1	0.0	82.5	0.0
	中国 (120)	17.5	17.5	16.7	14.2	4.2	4.2	4.2	0.8	49.2	5.0
	インドネシア (91)	6.6	4.4	0.0	4.4	0.0	1.1	8.8	2.2	79.1	1.1
	ミャンマー (33)	3.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0	18.2	3.0	69.7	0.0
	ネパール (23)	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0	60.9	8.7
	韓国 (8)	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	カンボジア (4)	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
	ブラジル (8)	50.0	50.0	50.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	バングラデシュ (7)	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0
	アメリカ (6)	33.3	66.7	66.7	66.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
	タイ (12)	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	75.0	0.0
	台湾 (4)	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	その他 (10)	0.0	70.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0
年代	20歳未満 (27)	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0	85.2	0.0
	20歳代 (260)	3.5	1.2	0.4	0.8	0.8	0.0	11.2	0.8	80.8	3.5
	30歳代 (425)	5.9	4.5	4.5	3.8	1.4	0.7	11.1	1.4	75.1	1.9
	40歳代 (135)	15.6	14.8	14.1	8.1	0.7	2.2	5.9	0.7	59.3	3.0
	50歳以上 (53)	13.2	37.7	18.9	24.5	0.0	5.7	1.9	1.9	37.7	0.0
性別	男性 (706)	5.7	3.3	3.7	2.1	0.4	0.6	9.9	0.7	77.6	2.4
	女性 (191)	12.0	20.4	12.6	14.1	3.1	3.1	8.4	2.6	52.9	2.1
在留資格	技能実習 (380)	1.8	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	10.5	0.8	84.2	2.4
	特定技能 (321)	3.7	0.0	0.3	0.0	0.9	0.0	9.0	0.6	82.6	2.8
	永住者・特別永住者 (58)	34.5	53.4	44.8	37.9	5.2	5.2	8.6	5.2	1.7	1.7
	定住者 (5)	80.0	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	技術・人文知識・国際業務 (45)	17.8	4.4	11.1	4.4	0.0	2.2	6.7	0.0	68.9	0.0
	経営・管理 (2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	企業内転勤 (2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	留学 (21)	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	9.5	4.8	71.4	4.8
	教育 (3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
	技能 (8)	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	75.0	0.0
	特定活動 (2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	家族滞在 (7)	85.7	0.0	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日本人・永住者・特別永住者の夫や妻 (35)	2.9	80.0	17.1	45.7	0.0	14.3	11.4	2.9	2.9	0.0
	その他 (11)	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	72.7	9.1
居住地域	本庁 (217)	12.4	21.7	13.8	13.8	1.8	3.2	12.4	2.3	51.2	1.4
	波方 (149)	8.1	2.7	1.3	0.7	0.7	1.3	6.7	0.0	81.2	0.7
	大西 (78)	0.0	3.8	2.6	2.6	0.0	1.3	7.7	1.3	84.6	3.8
	菊間 (8)	25.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0
	吉海 (85)	3.5	2.4	1.2	2.4	0.0	0.0	12.9	0.0	78.8	2.4
	宮窪 (13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	61.5	15.4
	伯方 (128)	3.1	0.8	3.9	0.8	0.0	0.0	5.5	1.6	85.2	2.3
	上浦 (27)	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	18.5	0.0	74.1	3.7
	大三島 (41)	7.3	2.4	2.4	4.9	2.4	0.0	4.9	2.4	78.0	2.4
	関前 (1)	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	朝倉 (3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	玉川 (17)	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	82.4	0.0
	わからない (133)	9.0	0.0	5.3	0.8	2.3	0.0	10.5	0.0	73.7	3.8

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

在留期間

- 今治市に住んでいる期間は、3年以上が43.3%と最も多く、1年以上3年未満の41.9%が続く。
- 国籍別では、中国人は永住者・特定永住者、定住者の在留資格を持つ割合が他国籍者よりも高いため、在留期間も長い割合が高い。
- 年代別では、20歳代以下は1年以上3年未満が過半数となっている。この世代は、最長5年の技能実習資格で在留している層が多いことが関係する。
- 40歳代以上は在留期間が3年以上の割合が高い。若い時に来日し、そのまま在留していると考えられる。
- 在留資格別にみると、技能実習は最長5年の有期であるため在留期間3年未満の割合が8割を超える。特定技能は、技能実習期間を経て移行するケースが多いため、3年以上の在留割合が高い。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

居住地

- 本庁エリアの居住者が24.1%で最も多く、造船業が盛んな波方、伯方、吉海、大西地区が続く。
- 在留資格別にみると、技能実習や特定技能は造船業に携わる層が多いため、波方、伯方、吉海、大西地区に分散している。永住者・特定永住者、定住者や人文知識・国際業務など、いわゆるホワイトカラーやその家族などは本庁エリアに居住する割合が高い。
- 上記の理由から、フィリピン、ベトナム、インドネシア人は造船業が盛んな地区に、それ以外は本庁エリアに居住する割合が高い。

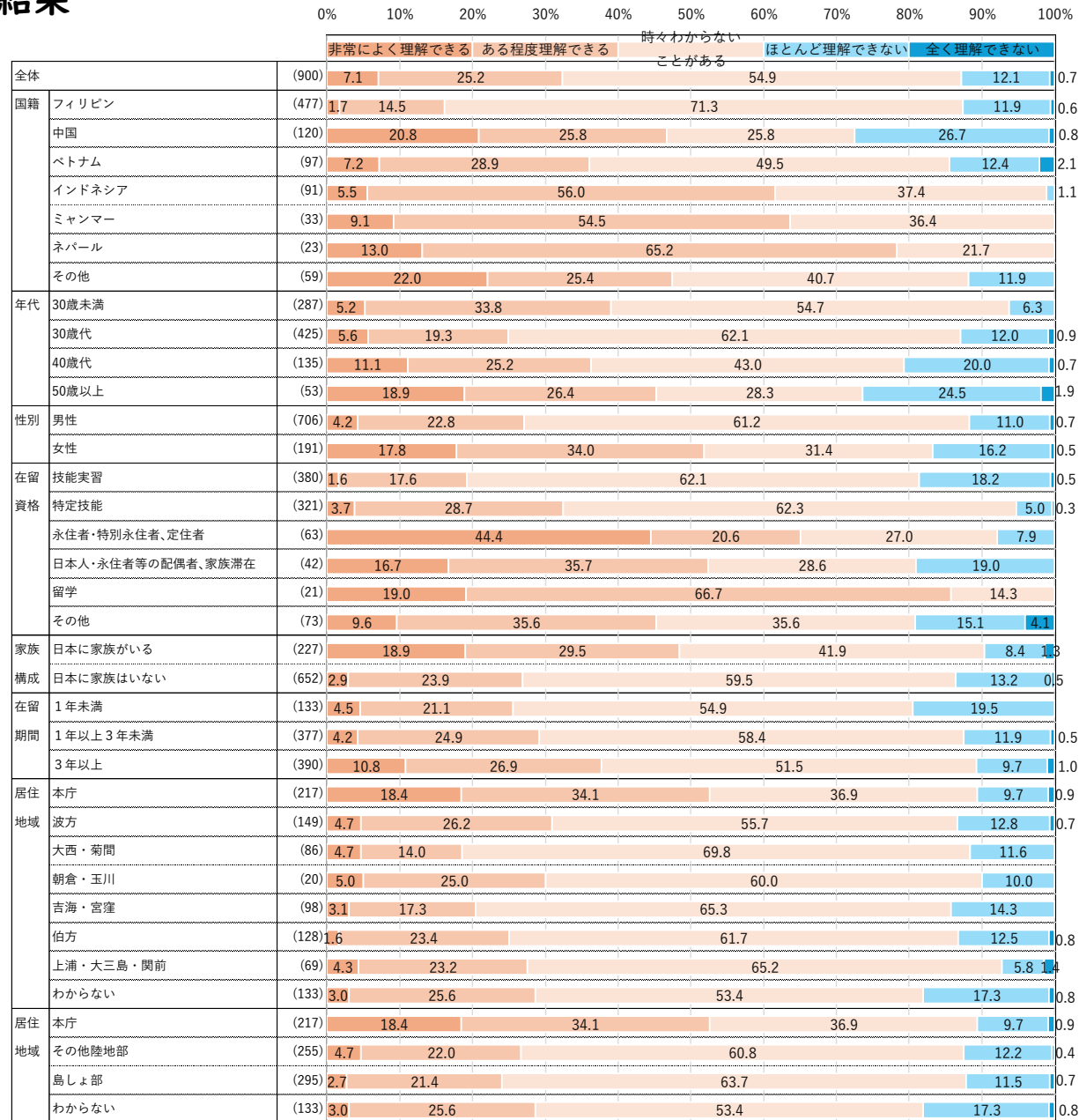


今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本語に関すること

ヒアリング能力

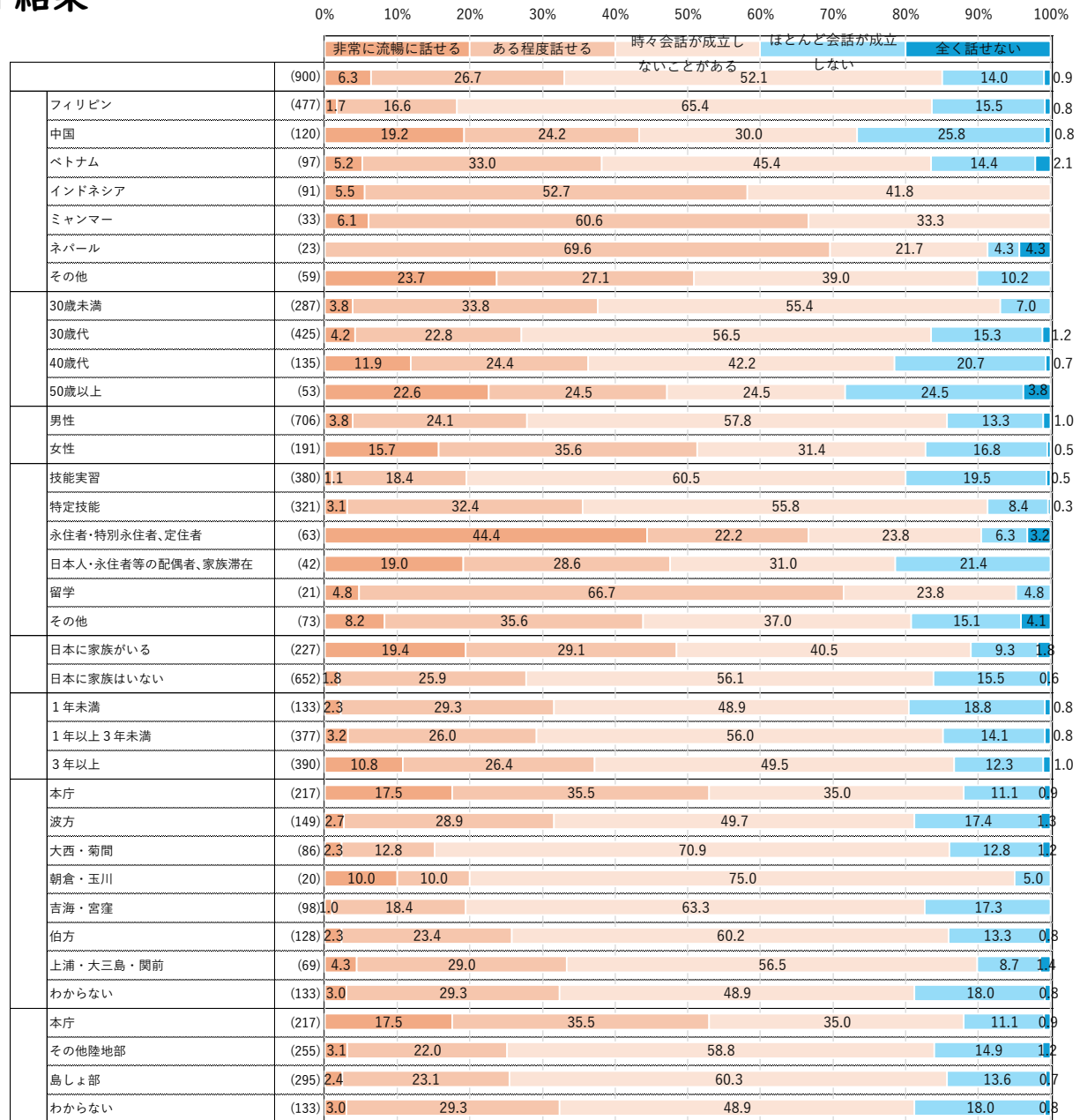
- 「時々わからないことがある」（簡単な会話はわかるが、難しい話はわからない）割合が54.9%と最も高い。
- 国籍別にみると、フィリピン人は他国に比べて「時々わからないことがある」割合が71.3%と高い。日本語テストを受験したことが「ない」と回答した割合が高い（65.2%）こと、受験歴がある層も最もやさしい「N5/A1」レベルが多い（65.7%）ことが要因として考えられる。
- インドネシア、ミャンマー、ネパール人は「ある程度理解できる」以上の回答割合が高い傾向にある。日本語テストの受験率が高く、かつN3/B1レベルの受験者が他国に比べ多いことが一因と考えられる。
- 中国人は「ほとんど理解できない」とする回答も一定数見受けられる（26.7%）。中国人では技能実習の66.7%、特定技能の26.1%が「ほとんど理解できない」と回答しており、他国での同回答がいずれも20%未満であるのに比べ、圧倒的に高い。
- 在留資格別にみると、技能実習や特定技能の在留資格者は、来日してからの在留期間が浅いことから日本語が聞き取れないケースがあると考えられ、「時々わからないことがある」と回答する割合が高い。
- 居住地域別では本庁エリアで比較的理解度は高い。これは、永住者・特定永住者、定住者や人文知識・国際業務など、いわゆるホワイトカラーやその家族などの在留資格者が他のエリアに比べ多いことが関係していると考えられる。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

スピーキング能力

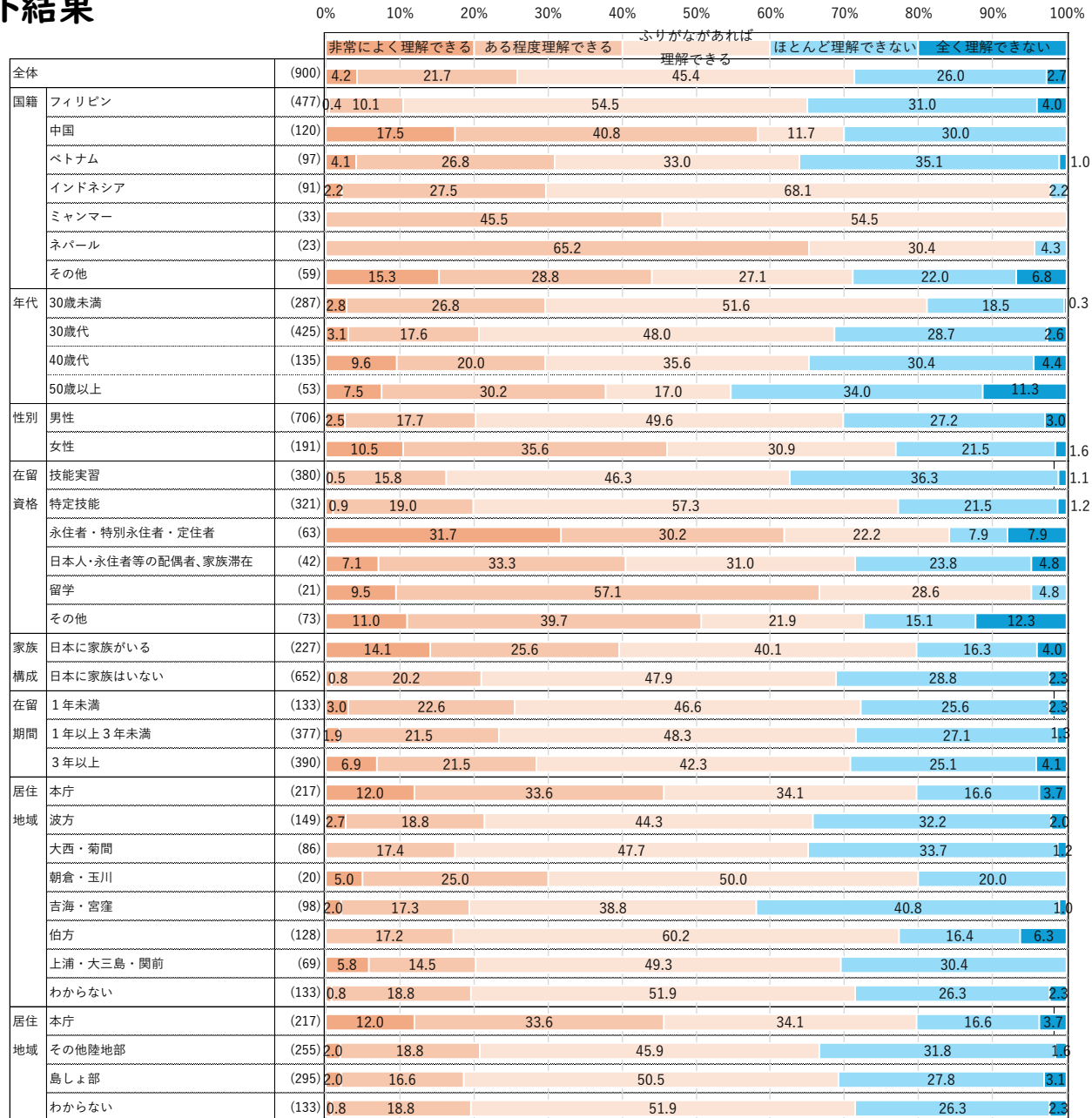
- ・ ヒアリング能力と同様、「時々会話が成立しないことがある」（言いたいことがうまく言えない）割合が52.1%と最も高い。
- ・ 国籍別でも、フィリピン人は他国に比べて「時々会話が成立しないことがある」割合が65.4%と高く、日本語テストの受験率が高いインドネシア、ミャンマー、ネパール人は「ある程度話せる」以上の割合が高い。
- ・ 在留資格別にみると、技能実習や特定技能の在留資格者で「ある程度話せる」以上の回答割合が他の在留資格者に比べ低い。来日してからの在留期間の浅さが一因と考えられる。
- ・ 居住地域別では本庁エリアで比較的理解度は高い。これは、永住者・特定永住者、定住者や人文知識・国際業務など、いわゆるホワイトカラーやその家族などの在留資格者が他のエリアに比べ多いことが関係していると考えられる。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

読み取り能力

- 「ふりがながあれば理解できる」割合が45.4%と最も高い。
- 一方、「ほとんど理解できない」割合はヒアリング能力やスピーキング能力に比べて10ポイント以上高く、26.0%となった。ひらがな、カタカナ、漢字の組み合わせといった日本語特有の難易度の高さが影響していると思われる。
- 国籍別にみると、日本語テストの受験歴があるインドネシア、ミャンマー、ネパール人で理解度が高い。
- 中国人で「ある程度理解できる」以上の回答割合が高いのは、漢字がある程度理解できることが一因と考えられる。
- 年代別では、50歳以上の理解度が他の年代に比べ「ほとんど理解できない」（34.0%）、「全く理解できない」（11.3%）割合が高い。日本語テストを受験したことがある割合が低いことが要因として考えられる。
- 性別では、女性の方が「ある程度理解できる」以上の割合が高い。
- 在留資格別では、技能実習で「ほとんど理解できない」割合（36.3%）が他の在留資格に比べ高い。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本語コミュニケーション能力

日本語でのコミュニケーション能力を、前問の「ヒアリング能力」と「スピーキング能力」の回答から、以下のように分類した。

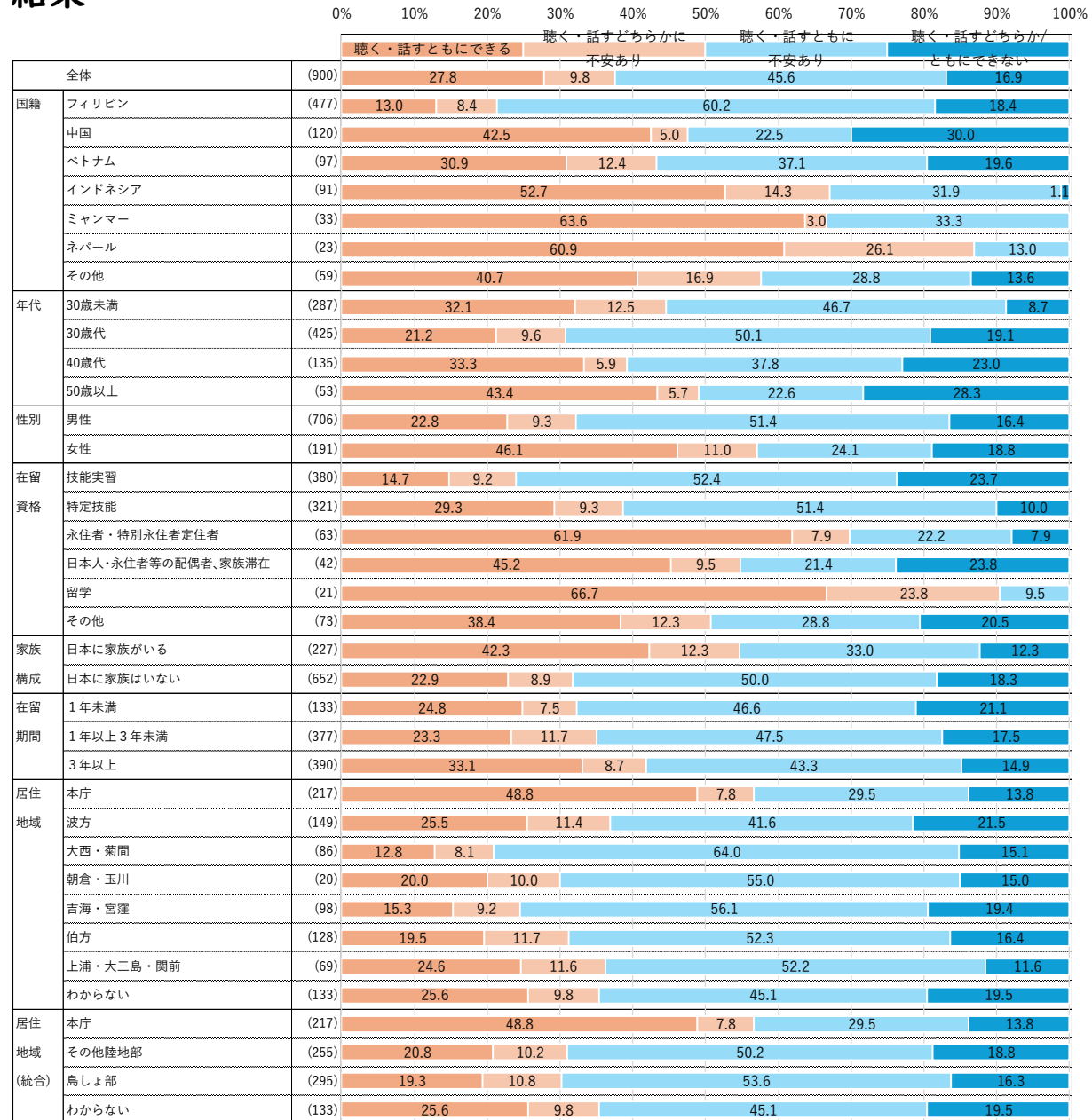
聴く・話すともにできる：ヒアリング能力で「1.非常によく理解できる/2.ある程度理解できる」を選択し、かつスピーキング能力で「1.非常に流暢に話せる/2.ある程度話せる」を選択した者

聴く・話すどちらかに不安あり：ヒアリング能力またはスピーキング能力のどちらかで「1.非常によく理解できる/1.非常に流暢に話せる」または「2.ある程度理解できる/2.ある程度話せる」を選択し、どちらかで「3.時々わからないことがある/3.時々会話が成立しないことがある」を選択した者

聴く・話すともに不安あり：ヒアリング能力で「3.時々わからないことがある」を選択し、かつスピーキング能力で「3.時々会話が成立しないことがある」を選択した者

聴く・話すどちらか/ともにできない：ヒアリング能力及びスピーキング能力のいずれか一方または両方で「4.ほとんど理解できない/5.全く理解できない」「4.ほとんど会話が成立しない/5.全く話せない」を選択した者

それによると、「聴く・話すともに不安あり」と「聴く・話すどちらか/ともにできない」を合わせた、日本語でのコミュニケーションに難ありと思われる層は、全体の62.5%にのぼる。特に、母数が多い技能実習の在留者（76.1%）、フィリピン人（78.6%）でコミュニケーションに苦勞する割合が高い。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本語テストの受験有無

- JLPTやJFT-Basicなどの日本語テストを受けたことがあるのは44.3%となった。国籍別では、ミャンマー、ネパール、インドネシアで受験したことがある割合が高い。
- 男性では受験したことがあるのが39.7%であるのに対し、女性は61.3%と半数以上が受験したことがあると回答している。
- 居住地域別でみると、島しょ部の受験率が特段低いわけではない。

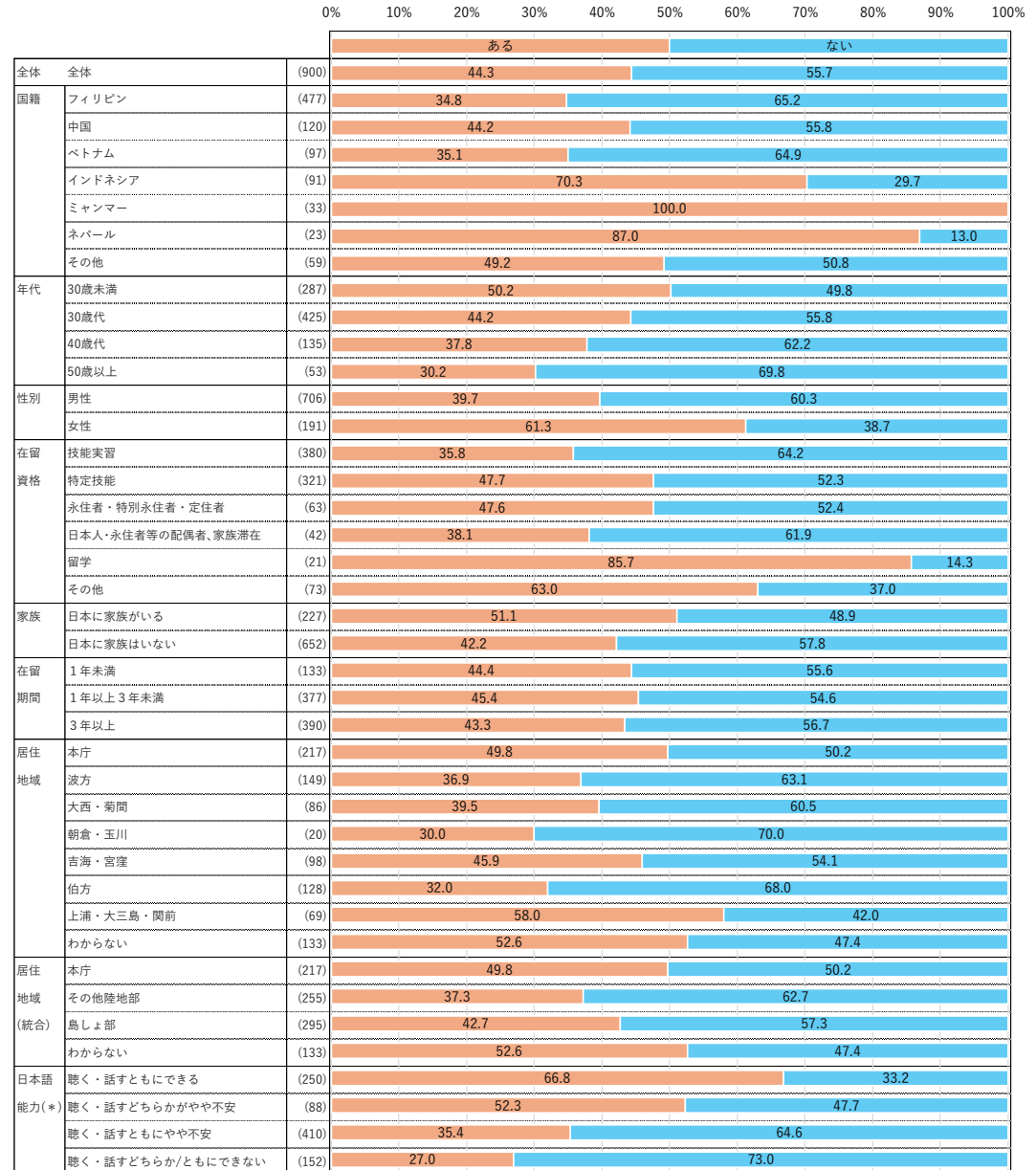
* 「日本語能力」の各項目の定義は以下のとおり

聴く・話すともにできる：Q8の聴解力で「1.非常によく理解できる/2.ある程度理解できる」を選択し、かつQ8-2の会話力で「1.非常に流暢に話せる/2.ある程度話せる」を選択した者

聴く・話すどちらかに不安：Q8の聴解力またはQ8-2の会話力のどちらかで「1.非常によく理解できる/1.非常に流暢に話せる」または「2.ある程度理解できる/2.ある程度話せる」を選択し、どちらかで「3.時々わからないことがある/3.時々会話が成立しないことがある」を選択した者

聴く・話すともに不安：Q8の聴解力で「3.時々わからないことがある」を選択し、かつQ8-2の会話力で「3.時々会話が成立しないことがある」を選択した者

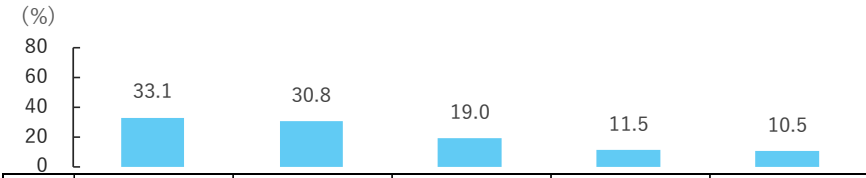
聴く・話すどちらか/ともにできない：Q8の聴解力及びQ8-2の会話力のいずれか一方または両方で「4.ほとんど理解できない/5.全く理解できない」「4.ほとんど会話が成立しない/5.全く話せない」を選択した者



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本語テストの受験科目

- ・ 受験科目は、「N5/A1」と「N4/A2」で6割を占める。在留資格別では、技能実習で「N5/A1」の割合が高い。
- ・ 男性より女性のほうが、受験したことがあるという回答が高かったが、受験科目も「N2/B2」や「N1/C1 またはC2」といったより上級レベルを受験している。介護など高い日本語力が求められる職に就く人が女性に多いことも影響していると思われる。
- ・ 島しょ部ではN5/A1を受験する割合が高いが、技能実習の在留資格者が要因と考えられる。



	(合計)	N5/A1	N4/A2	N3/B1	N2/B2	N1/C1またはC2	
全体	(399)	33.1	30.8	19.0	11.5	10.5	
国籍	フィリピン	(166)	65.7	27.7	4.8	1.2	2.4
	中国	(53)	9.4	5.7	13.2	20.8	45.3
	ベトナム	(34)	14.7	44.1	5.9	14.7	14.7
	インドネシア	(64)	9.4	51.6	39.1	14.1	0.0
	ミャンマー	(33)	0.0	21.2	66.7	27.3	9.1
	ネパール	(20)	20.0	65.0	15.0	15.0	0.0
その他	(29)	10.3	20.7	31.0	24.1	20.7	
年代	30歳未満	(144)	20.1	41.7	29.9	12.5	6.3
	30歳代	(188)	42.6	29.3	13.8	10.6	6.9
	40歳代	(51)	41.2	13.7	7.8	7.8	27.5
	50歳以上	(16)	12.5	6.3	18.8	25.0	37.5
性別	男性	(280)	43.9	32.5	15.4	6.4	7.9
	女性	(117)	7.7	27.4	28.2	22.2	17.1
在留資格	技能実習	(136)	45.6	27.9	13.2	6.6	1.5
	特定技能	(153)	37.9	39.2	20.3	5.2	2.6
	永住者・特別永住者定住者	(30)	0.0	10.0	16.7	16.7	60.0
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(16)	18.8	18.8	18.8	37.5	31.3
	留学	(18)	11.1	50.0	27.8	11.1	11.1
	その他	(46)	15.2	21.7	30.4	34.8	23.9
家族構成	日本に家族がいる	(116)	18.1	27.6	20.7	19.0	23.3
	日本に家族はいない	(275)	38.2	32.7	18.9	8.4	5.1
在留期間	1年未満	(59)	37.3	40.7	13.6	3.4	5.1
	1年以上3年未満	(171)	29.8	33.9	24.6	11.7	5.8
	3年以上	(169)	34.9	24.3	15.4	14.2	17.2
	わからない	(70)	15.7	41.4	25.7	8.6	2.9
居住地域	本庁	(108)	14.8	26.9	26.9	25.0	26.9
	波方	(55)	36.4	32.7	18.2	9.1	7.3
	大西・菊間	(34)	44.1	23.5	17.6	11.8	2.9
	朝倉・玉川	(6)	16.7	33.3	33.3	0.0	16.7
	吉海・宮窪	(45)	71.1	15.6	6.7	4.4	4.4
	伯方	(41)	46.3	41.5	9.8	0.0	4.9
	上浦・大三島・関前	(40)	45.0	32.5	10.0	5.0	2.5
	わからない	(70)	15.7	41.4	25.7	8.6	2.9
	居住地域(統合)	本庁	(108)	14.8	26.9	26.9	25.0
その他陸地部	(95)	37.9	29.5	18.9	9.5	6.3	
島しょ部	(126)	54.8	29.4	8.7	3.2	4.0	
わからない	(70)	15.7	41.4	25.7	8.6	2.9	
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(167)	11.4	31.7	25.7	20.4	21.0
	聴く・話すどちらかに不安あり	(46)	34.8	39.1	26.1	8.7	2.2
	聴く・話すともに不安あり	(145)	48.3	33.8	14.5	4.8	4.1
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(41)	65.9	7.3	0.0	2.4	0.0

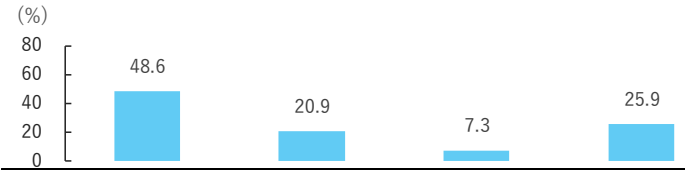
は全体より10ポイント以上高い
は全体より10ポイント以上低い

太字 は全体より20ポイント以上高い
太字 は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

現在の日本語学習の状況

- 「一人で勉強している」割合が48.6%と最も高く、「勉強していない」が25.9%で続く。7割以上の人は何らかの形で日本語を学習している。
- 国籍別にみると、ベトナム、インドネシア、ミャンマー人で「一人で勉強している」割合が特に高い。ネパール人は留学生が多く、国際交流協会等の日本語教室を活用していることが推察される。
- 在留期間が長い、永住者等、40歳代以上の層は勉強していない割合が高い。来日間もない時期は職場・学校で教えてもらいながら、1年程度を経過すると独学に切り替え、3年を経過すると勉強しなくなる割合がやや高くなる。
- 日本語を聴く力・話す力ともに高くない層の38.8%が「勉強していない」と回答している。勉強をしているかどうかで日本語能力に明確な差が生まれているため、この層に対しては、適切な教育機関等で勉強する環境をいかに整備するかがポイントとなり得る。

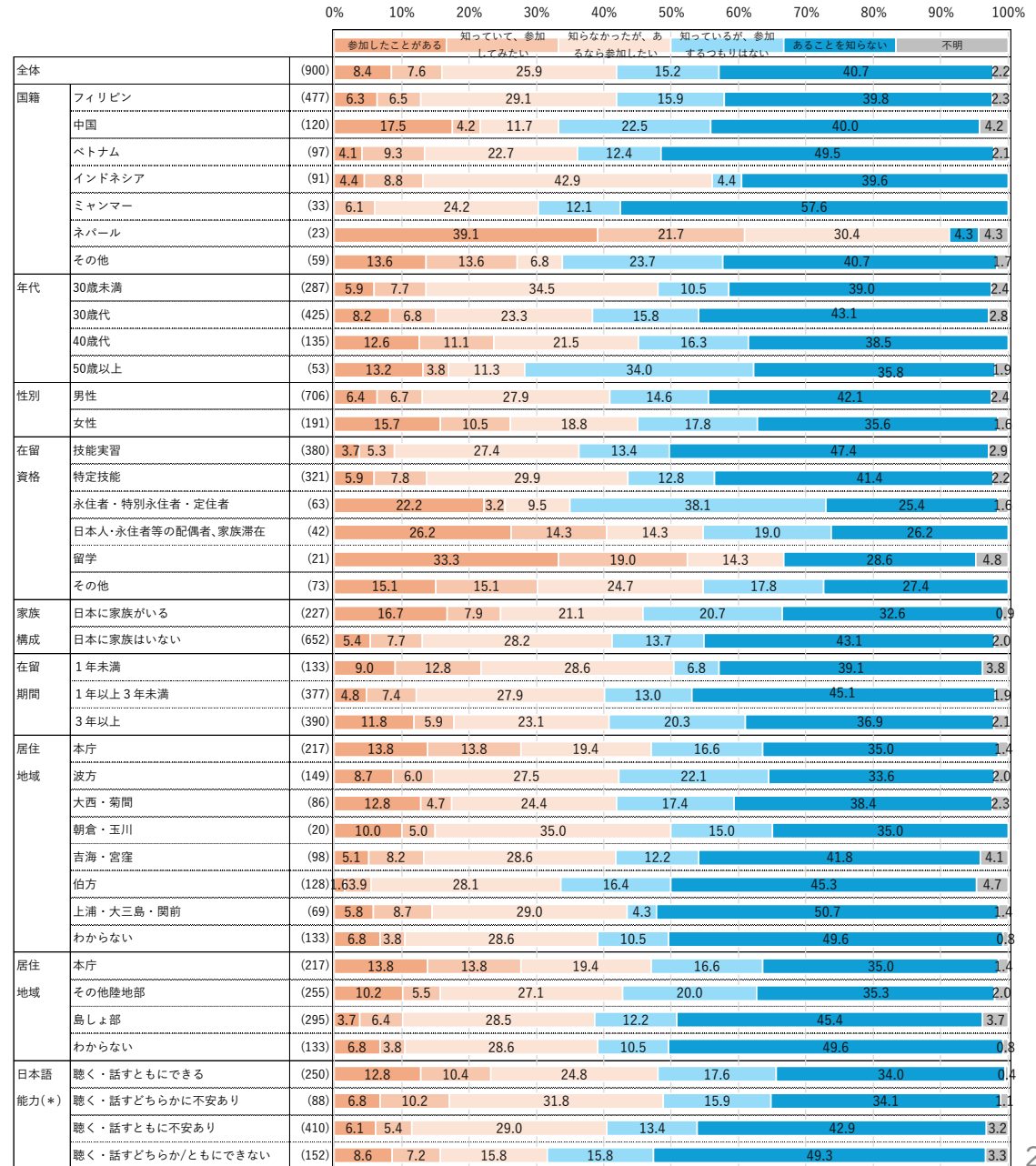


		(合計)	一人で勉強している	会社や学校で教えてもらっている	地域の日本語教室で勉強している	勉強していない
全体		(900)	48.6	20.9	7.3	25.9
国籍	フィリピン	(477)	41.3	27.7	7.8	26.4
	中国	(120)	35.8	15.0	5.8	44.2
	ベトナム	(97)	66.0	16.5	1.0	15.5
	インドネシア	(91)	73.6	17.6	9.9	6.6
	ミャンマー	(33)	97.0	0.0	0.0	3.0
	ネパール	(23)	47.8	17.4	47.8	0.0
	その他	(59)	39.0	3.4	1.7	54.2
年代	30歳未満	(287)	60.3	26.8	8.4	9.1
	30歳代	(425)	44.2	20.9	8.0	28.2
	40歳代	(135)	45.2	13.3	3.7	38.5
	50歳以上	(53)	28.3	7.5	5.7	66.0
性別	男性	(706)	46.5	23.8	6.9	24.8
	女性	(191)	56.0	10.5	8.9	29.8
在留資格	技能実習	(380)	50.5	26.6	6.3	18.9
	特定技能	(321)	51.7	18.1	5.6	25.2
	永住者・特別永住者定住者	(63)	23.8	11.1	1.6	63.5
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	47.6	4.8	11.9	45.2
	留学	(21)	28.6	28.6	38.1	4.8
	その他	(73)	52.1	19.2	13.7	27.4
家族構成	日本に家族がいる	(227)	43.2	17.6	8.4	36.1
	日本に家族はいない	(652)	50.2	22.4	7.2	22.7
在留期間	1年未満	(133)	48.9	24.8	11.3	15.0
	1年以上3年未満	(377)	53.6	22.5	8.0	21.2
	3年以上	(390)	43.6	17.9	5.4	34.1
居住地域	本庁	(217)	41.5	22.6	9.7	31.3
	波方	(149)	61.1	19.5	4.0	18.8
	大西・菊間	(86)	46.5	29.1	8.1	18.6
	朝倉・玉川	(20)	75.0	5.0	15.0	10.0
	吉海・宮窪	(98)	44.9	19.4	8.2	28.6
	伯方	(128)	44.5	21.9	3.1	30.5
	上浦・大三島・関前	(69)	39.1	27.5	10.1	20.3
	わからない	(133)	54.9	13.5	7.5	28.6
	居住地域(統合)	本庁	(217)	41.5	22.6	9.7
	その他陸地部	(255)	57.3	21.6	6.3	18.0
	島しょ部	(295)	43.4	22.4	6.4	27.5
	わからない	(133)	54.9	13.5	7.5	28.6
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(250)	57.6	13.2	8.8	25.2
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	46.6	22.7	14.8	19.3
	聴く・話すともに不安あり	(410)	48.3	25.4	5.1	22.9
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	35.5	20.4	6.6	38.8
	は全体より10ポイント以上高い	太字	は全体より20ポイント以上高い			
	は全体より10ポイント以上低い	太字	は全体より20ポイント以上低い			

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本語教室での学習意思

- 今治市や国際交流協会が実施している日本語教室を「知らない」（「あることを知らなかったが、あるなら参加したい（25.9%）」 + 「あることを知らない（40.7%）」）割合が6割を超える。また、「参加したい」（「あることを知っていて、参加してみたい（7.6%）」 + 「あることを知らなかったが、あるなら参加したい（25.9%）」）割合は3割強となっている。
- 特にインドネシア、ミャンマー人は「知らない」と回答した割合が8割を超えている。
- 在留期間3年未満が多い技能実習生は「知らない」割合が74.8%と高く、その在住地として割合が高い島しょ部も同様の結果となった。
- 日本語能力が高くない層ほど「あることを知らない」という回答の割合が高くなっている。日本語学習を必要とする層に地域の日本語教室の情報が届いていないのであれば、周知の方法を再考する余地がある。



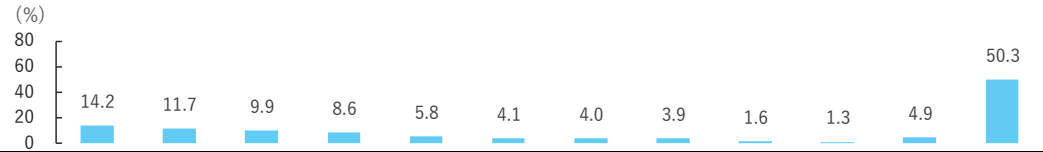
今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

生活・行政サービスに関すること

生活で困ったこと

- 最近6カ月の間に、今治市での生活で「困ったことはない」とする回答は50.3%となっている。困ったことのうち、最も多いのは「病院で言葉が通じない」(14.2%)で、「地域の人とのコミュニケーションがとれない」(11.7%)と続く。
- ベトナム人やネパール人、留学生などで日本の文化や習慣が理解できない割合がやや高い。
- 日本語を「聴く・話すともにできる」層(27.8%)は「困ったことはない」と回答する割合が6割を超えているが、残り7割の層の半数以上は何らかの困りごとが最近6カ月の間に起こっている。
- 「最近6ヵ月」以前の期間を含めると、多くの外国人が生活での困りごとを経験していると推察される。

【その他回答】 近所の犬がうるさい / 小型船舶免許(民間資格)の国籍が「中国」と表示される(台湾) / mobiの対応エリアが少ない / 土産・特産物を購入できる場所がわからない / 子どもを一時的に預けられるところがない / 外国人だからと失礼な態度を取られた / 英語環境がない職場で働いており、日本人雇用主から虐待を受けている / 島から市中心部までの交通 / スーパーが遠い / 物価が高い(特に米)



	(合計)	病院で言葉が通じない	地域の人とのコミュニケーションがとれない	大雨、地震、台風などの災害時の対応がわからない	日本の文化や習慣が理解できない	市役所で必要な手続きができない	自分の国の文化や習慣を理解してもらえない	電話やインターネットなどの手続きがわからない	同じ国の人と近くにいる	ゴミ捨てなど生活のルールがわからない	交通のルールがわからない	その他	困ったことはない
全体	(900)	14.2	11.7	9.9	8.6	5.8	4.1	4.0	3.9	1.6	1.3	4.9	50.3
国籍													
フィリピン	(477)	17.0	13.0	10.1	6.1	7.3	4.0	2.5	2.9	1.3	1.7	5.0	45.5
中国	(120)	13.3	10.8	5.8	11.7	4.2	3.3	8.3	4.2	2.5	0.0	5.0	58.3
ベトナム	(97)	13.4	16.5	10.3	16.5	5.2	6.2	4.1	7.2	2.1	4.1	1.0	50.5
インドネシア	(91)	6.6	2.2	13.2	4.4	3.3	1.1	3.3	1.1	1.1	0.0	6.6	59.3
ミャンマー	(33)	9.1	3.0	21.2	6.1	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	6.1	63.6
ネパール	(23)	8.7	21.7	0.0	34.8	0.0	17.4	4.3	4.3	0.0	0.0	4.3	30.4
その他	(59)	11.9	10.2	8.5	6.8	5.1	5.1	10.2	11.9	1.7	0.0	6.8	59.3
年代													
30歳未満	(287)	11.5	9.4	13.2	12.2	4.2	6.6	4.2	4.2	1.7	1.4	4.2	49.8
30歳代	(425)	14.8	12.7	9.2	6.8	6.8	2.8	2.1	3.8	2.1	1.4	4.7	48.9
40歳代	(135)	19.3	14.1	5.9	7.4	5.2	3.0	7.4	4.4	0.0	0.7	6.7	50.4
50歳以上	(53)	11.3	9.4	7.5	5.7	7.5	3.8	9.4	1.9	0.0	1.9	5.7	64.2
性別													
男性	(706)	14.4	12.2	8.8	8.2	5.8	4.7	3.4	3.8	1.7	1.6	4.8	49.2
女性	(191)	13.1	9.4	13.6	9.9	5.8	1.6	6.3	3.7	0.5	0.5	5.2	55.0
在留資格													
技能実習	(380)	13.2	11.8	10.3	10.3	6.8	4.5	4.5	3.2	2.4	1.6	4.2	48.9
特定技能	(321)	16.2	11.2	9.7	5.6	5.0	3.7	2.8	3.4	0.6	0.9	4.4	50.2
永住者・特別永住者・定住者	(63)	7.9	9.5	6.3	4.8	3.2	0.0	6.3	3.2	0.0	0.0	9.5	66.7
日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	21.4	14.3	14.3	7.1	7.1	4.8	9.5	9.5	0.0	2.4	7.1	52.4
留学	(21)	4.8	19.0	0.0	38.1	0.0	14.3	4.8	4.8	0.0	0.0	4.8	23.8
その他	(73)	15.1	11.0	12.3	8.2	6.8	4.1	1.4	6.8	4.1	2.7	5.5	50.7
家族構成													
日本に家族がいる	(227)	15.0	10.1	11.0	5.7	6.6	2.6	4.8	4.4	0.4	0.9	7.5	52.0
日本に家族はいない	(652)	14.0	12.1	9.4	9.5	5.7	4.8	3.7	3.7	2.0	1.4	4.0	50.3
在留期間													
1年未満	(133)	11.3	12.8	12.0	9.0	3.8	5.3	4.5	3.0	3.8	3.8	7.5	45.9
1年以上3年未満	(377)	11.9	12.2	10.1	10.1	5.6	4.0	4.5	4.2	1.3	1.3	3.2	49.1
3年以上	(390)	17.4	10.8	9.0	6.9	6.7	3.8	3.3	3.8	1.0	0.5	5.6	53.1
居住地域													
本庁	(217)	12.9	12.9	7.8	8.3	5.5	2.8	6.0	5.1	0.9	0.5	4.1	57.6
波方	(149)	16.8	12.1	14.8	12.1	8.1	5.4	4.0	5.4	2.7	2.7	4.7	47.7
大西・菊間	(86)	18.6	16.3	16.3	4.7	9.3	7.0	4.7	2.3	1.2	0.0	5.8	45.3
朝倉・玉川	(20)	10.0	15.0	0.0	5.0	10.0	0.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	70.0
吉海・宮窪	(98)	13.3	11.2	7.1	7.1	7.1	4.1	0.0	3.1	3.1	2.0	5.1	40.8
伯方	(128)	11.7	7.8	7.0	6.3	3.1	1.6	3.1	0.0	0.8	0.8	2.3	61.7
上浦・大三島・関前	(69)	10.1	13.0	2.9	10.1	4.3	4.3	4.3	4.3	1.4	4.3	13.0	34.8
わからない	(133)	16.5	9.0	13.5	10.5	3.0	6.0	3.8	5.3	1.5	0.8	3.8	45.9
居住地域(統合)													
本庁	(217)	12.9	12.9	7.8	8.3	5.5	2.8	6.0	5.1	0.9	0.5	4.1	57.6
その他陸地部	(255)	16.9	13.7	14.1	9.0	8.6	5.5	4.3	4.3	2.0	1.6	5.1	48.6
島しょ部	(295)	11.9	10.2	6.1	7.5	4.7	3.1	2.4	2.0	1.7	2.0	5.8	48.5
わからない	(133)	16.5	9.0	13.5	10.5	3.0	6.0	3.8	5.3	1.5	0.8	3.8	45.9
日本語能力(*)													
聴く・話すともにできる	(250)	6.0	6.8	8.0	5.6	2.0	2.0	1.6	2.8	0.8	0.0	5.6	65.6
聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	9.1	8.0	8.0	11.4	3.4	6.8	3.4	0.0	0.0	3.4	4.5	48.9
聴く・話すともに不安あり	(410)	18.3	12.4	11.0	7.6	7.3	4.9	5.1	4.9	1.7	1.0	4.9	43.9
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	19.7	19.7	11.2	14.5	9.2	3.9	5.3	5.3	3.3	3.3	3.9	43.4

は全体より10ポイント以上高い

太字 は全体より20ポイント以上高い

は全体より10ポイント以上低い

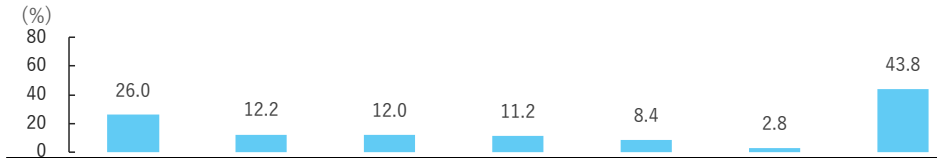
太字 は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

医療・福祉サービスを利用する際に困ったこと

- 困ったことで最も多いのは「医療機関で言葉が通じない」で26.0%となった。在留期間が浅い人ほど言葉の問題が多い傾向にある。
- 技能実習生等には比べ日本語能力が高い留学生でも、医療機関では言葉の問題を抱えている。医療用語や擬態語（ズキズキ、チクチク等）が理解できないケースがあると推察される。
- その他の回答をみると、通訳がいれば不安が解消される可能性が大いにあると考えられる。

【その他回答】 日本で病院に行ったことはない / 夫に任せている / 通訳（付添人）がいれば大丈夫 / 医師とのコミュニケーションが難しく、いくつかの手順に従うことができない / 問診表などのフォームがすべて日本語で記入が難しい / 重い病気で手術が必要かもしれないが、先生の話が難しく専門用語も多いため正直理解できていない



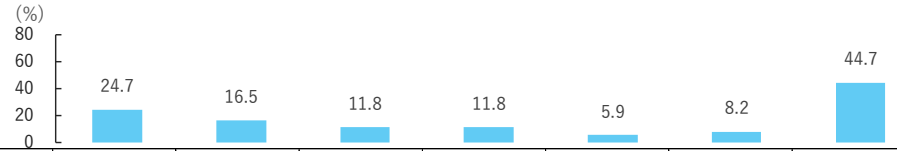
		(合計)	医療機関で言葉が通じない	日本の医療制度(保険、受診方法など)が理解できない	年金や社会保険の制度が理解できない	相談できる場所が分からない	福祉サービス(介護、子育て支援など)の情報が分かりにくい	その他	困ったことはない
全体	(900)	26.0	12.2	12.0	11.2	8.4	2.8	43.8	
国籍	フィリピン	(477)	30.0	11.1	12.2	11.7	9.2	3.1	38.2
	中国	(120)	19.2	9.2	10.8	5.8	7.5	1.7	53.3
	ベトナム	(97)	20.6	14.4	5.2	10.3	8.2	1.0	57.7
	インドネシア	(91)	24.2	19.8	11.0	16.5	6.6	1.1	50.5
	ミャンマー	(33)	30.3	9.1	24.2	0.0	0.0	9.1	39.4
	ネパール	(23)	39.1	21.7	21.7	13.0	13.0	4.3	17.4
	その他	(59)	11.9	10.2	15.3	16.9	10.2	3.4	49.2
年代	30歳未満	(287)	27.9	15.3	11.8	14.3	6.6	2.1	43.2
	30歳代	(425)	24.9	12.0	12.2	10.6	9.4	3.8	42.4
	40歳代	(135)	25.9	8.9	11.1	8.1	9.6	1.5	44.4
	50歳以上	(53)	24.5	5.7	13.2	7.5	7.5	1.9	56.6
性別	男性	(706)	26.9	12.6	10.6	11.3	8.5	2.5	42.5
	女性	(191)	23.0	10.5	16.8	10.5	7.3	3.7	48.7
在留資格	技能実習	(380)	26.1	12.1	10.5	10.8	6.8	3.4	43.7
	特定技能	(321)	29.6	12.8	10.6	11.2	8.7	2.2	39.9
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	9.5	3.2	14.3	6.3	4.8	1.6	69.8
	日本人・永住者等の配偶者・家族滞在	(42)	21.4	14.3	16.7	16.7	19.0	4.8	50.0
	留学	(21)	38.1	14.3	19.0	19.0	14.3	0.0	14.3
	その他	(73)	23.3	16.4	19.2	12.3	11.0	2.7	43.8
家族構成	日本に家族がいる	(227)	22.9	12.3	17.2	11.0	11.9	3.5	44.9
	日本に家族はいない	(652)	27.3	12.3	10.3	11.5	7.5	2.6	43.4
在留期間	1年未満	(133)	32.3	15.0	14.3	15.0	9.8	3.0	36.1
	1年以上3年未満	(377)	26.3	11.4	10.6	10.1	9.0	2.4	43.0
	3年以上	(390)	23.6	12.1	12.6	11.0	7.4	3.1	47.2
居住地域	本庁	(217)	19.8	7.8	14.7	8.3	6.0	1.4	53.9
	波方	(149)	24.8	13.4	7.4	10.7	6.7	2.7	51.0
	大西・菊間	(86)	27.9	15.1	15.1	10.5	10.5	3.5	39.5
	朝倉・玉川	(20)	25.0	0.0	10.0	0.0	5.0	5.0	65.0
	吉海・宮窪	(98)	32.7	16.3	9.2	12.2	9.2	5.1	31.6
	伯方	(128)	19.5	10.9	11.7	11.7	10.2	2.3	41.4
	上浦・大三島・関前	(69)	18.8	11.6	7.2	8.7	10.1	4.3	42.0
	わからない	(133)	41.4	16.5	15.8	18.8	10.5	2.3	30.8
居住地域(統合)	本庁	(217)	19.8	7.8	14.7	8.3	6.0	1.4	53.9
	その他陸地部	(255)	25.9	12.9	10.2	9.8	7.8	3.1	48.2
	島しょ部	(295)	23.7	12.9	9.8	11.2	9.8	3.7	38.3
	わからない	(133)	41.4	16.5	15.8	18.8	10.5	2.3	30.8
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(250)	13.6	11.6	11.2	10.0	9.6	1.2	58.0
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	23.9	15.9	13.6	11.4	9.1	4.5	42.0
	聴く・話すともに不安あり	(410)	30.2	12.7	13.4	12.0	8.0	3.4	37.1
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	36.2	9.9	8.6	11.2	7.2	2.6	39.5

は全体より10ポイント以上高い **太字** は全体より20ポイント以上高い
 は全体より10ポイント以上低い **太字** は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

子どものことで困ったこと

- 家族帯同者のサンプルが少ないため一概には言えないが、子どもの教育や子育てで「困ったことはない」と回答した割合は44.7%だった。困ったことのうち、最も多かったのは学校生活への適応（24.7%）で、母語・母文化を学ぶ機会が少ない（16.5%）点が続く。
- 母数は少ないが、島しょ部に住む者の回答で「学校での日本語学習支援が不足している」（33.3%）の割合が陸地部より高くなっている。



		(合計)	学校生活への適応(いじめ、友人関係など)に不安がある	母語・母文化を学ぶ機会が少ない	学校での日本語学習支援が不足している	子育てに関する行政情報(手当、相談窓口など)が分かりにくい	保育園・幼稚園の利用や情報収集が難しい	その他	困ったことはない
全体		(85)	24.7	16.5	11.8	11.8	5.9	8.2	44.7
国籍	フィリピン	(19)	57.9	26.3	52.6	42.1	10.5	0.0	10.5
	中国	(35)	14.3	14.3	0.0	2.9	0.0	5.7	60.0
	ベトナム	(3)	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	インドネシア	(4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	ミャンマー	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ネパール	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(23)	21.7	13.0	0.0	4.3	13.0	17.4	47.8
年代	30歳未満	(4)	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
	30歳代	(33)	33.3	21.2	24.2	18.2	3.0	9.1	27.3
	40歳代	(28)	32.1	25.0	7.1	14.3	7.1	7.1	39.3
	50歳以上	(20)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	85.0
	性別	男性	(36)	22.2	19.4	8.3	8.3	5.6	5.6
	女性	(49)	26.5	14.3	14.3	14.3	6.1	10.2	44.9
在留資格	技能実習	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	特定技能	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	永住者・特別永住者・定住者	(47)	19.1	19.1	6.4	6.4	2.1	6.4	53.2
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(25)	32.0	12.0	16.0	16.0	12.0	12.0	40.0
	留学	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	(10)	40.0	20.0	30.0	30.0	10.0	10.0	20.0	
家族構成	日本に家族がいる	(85)	24.7	16.5	11.8	11.8	5.9	8.2	44.7
	日本に家族はいない	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在留期間	1年未満	(4)	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0
	1年以上3年未満	(12)	50.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	41.7
	3年以上	(69)	20.3	17.4	10.1	10.1	7.2	10.1	46.4
居住地域	本庁	(55)	23.6	10.9	3.6	7.3	3.6	5.5	49.1
	波方	(3)	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	大西・菊間	(6)	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	50.0
	朝倉・玉川	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	吉海・宮窪	(2)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	伯方	(6)	33.3	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	上浦・大三島・関前	(4)	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0
	わからない	(8)	50.0	12.5	37.5	37.5	25.0	0.0	25.0
居住地域(統合)	本庁	(55)	23.6	10.9	3.6	7.3	3.6	5.5	49.1
	その他陸地部	(10)	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0	50.0
	島しょ部	(12)	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	16.7	33.3
わからない	(8)	50.0	12.5	37.5	37.5	25.0	0.0	25.0	
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(47)	14.9	17.0	2.1	4.3	0.0	6.4	61.7
	聴く・話すどちらかに不安あり	(6)	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3
	聴く・話すともに不安あり	(20)	20.0	30.0	25.0	20.0	15.0	15.0	35.0
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(12)	75.0	0.0	25.0	25.0	16.7	8.3	0.0

【その他回答】 日本に子どもはいない / 学校の課題や宿題 / 小学校の夏休みのプリント指定がわかりにくい / 中国人だからと学校や塾で同級生からいじめられた / 子どもはもう大人になった。しばらくいじめの問題はあったが終わった

は全体より10ポイント以上高い

太字

は全体より20ポイント以上高い

は全体より10ポイント以上低い

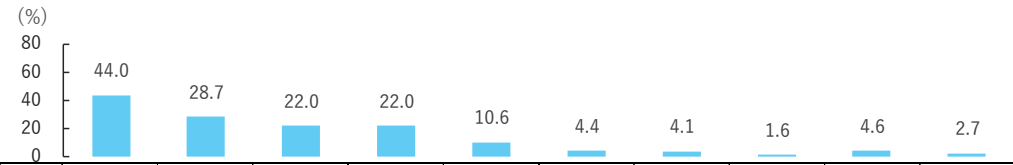
太字

は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

困った時の相談相手

- 困った時の相談相手がいないのは2.7%で、大半が誰かに相談している。相談相手でも多かったのは「母国の家族や親戚、友人・知人」で44.0%となった。
- 在留資格別にみると、技能実習は「職場・学校の同国人」（28.4%）、特定技能は「監理団体の人」（32.4%）に相談するケースが「母国の家族や親戚、友人・知人」に次いで多い。
- 日本語能力が高いほど、相談相手を職場や学校の日本人とする割合が高く、低いほど職場や学校の同国人とする割合が高い。



	(合計)	母国の家族・親戚・友人・知人	職場・学校の日本人	職場・学校の同国人	監理団体の人	寮の世話人・管理人	役所の人、相談窓口	近所の日本人	日本語教室の人	その他	相談できる人がいない
全体	(900)	44.0	28.7	22.0	22.0	10.6	4.4	4.1	1.6	4.6	2.7
国籍											
フィリピン	(477)	50.3	21.6	17.8	27.5	7.5	2.9	2.9	0.8	4.8	2.1
中国	(120)	20.0	30.8	23.3	12.5	13.3	11.7	8.3	3.3	4.2	7.5
ベトナム	(97)	39.2	29.9	34.0	20.6	26.8	2.1	4.1	2.1	1.0	2.1
インドネシア	(91)	36.3	51.6	31.9	27.5	9.9	2.2	0.0	1.1	3.3	1.1
ミャンマー	(33)	66.7	42.4	24.2	0.0	6.1	6.1	3.0	0.0	0.0	0.0
ネパール	(23)	47.8	47.8	26.1	0.0	17.4	4.3	8.7	4.3	0.0	0.0
その他	(59)	47.5	28.8	15.3	11.9	3.4	8.5	10.2	3.4	15.3	3.4
年代											
30歳未満	(287)	51.2	36.2	24.7	17.4	12.5	3.5	2.8	2.1	3.1	1.7
30歳代	(425)	44.9	22.4	21.2	24.7	8.5	2.4	2.1	1.2	5.2	2.8
40歳代	(135)	31.9	32.6	20.0	28.9	12.6	10.4	11.1	1.5	3.0	3.0
50歳以上	(53)	28.3	28.3	18.9	7.5	11.3	11.3	9.4	1.9	11.3	5.7
性別											
男性	(706)	45.2	26.6	22.8	25.5	10.2	4.1	3.8	1.3	3.5	2.3
女性	(191)	40.3	36.6	19.4	9.4	11.0	5.8	5.2	2.6	8.4	3.7
在留資格											
技能実習	(380)	42.6	26.6	28.4	21.8	14.7	2.6	2.9	1.6	3.4	2.1
特定技能	(321)	44.9	25.9	17.8	32.4	10.3	2.2	2.5	0.6	1.2	2.2
永住者・特別永住者・定住者	(63)	49.2	38.1	11.1	0.0	1.6	14.3	12.7	1.6	11.1	4.8
日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	54.8	11.9	11.9	0.0	0.0	7.1	7.1	2.4	23.8	7.1
留学	(21)	52.4	42.9	23.8	0.0	4.8	9.5	4.8	9.5	0.0	0.0
その他	(73)	34.2	49.3	21.9	15.1	5.5	12.3	8.2	2.7	9.6	4.1
家族構成											
日本に家族がいる	(227)	48.5	27.8	15.0	15.0	6.2	8.4	7.9	1.8	11.5	3.5
日本に家族はいない	(652)	43.1	29.0	24.7	24.7	12.1	3.2	2.8	1.5	2.0	2.3
在留期間											
1年未満	(133)	40.6	22.6	18.0	18.0	12.0	3.8	2.3	3.8	1.5	3.8
1年以上3年未満	(377)	44.8	30.0	25.2	22.5	10.9	3.4	3.7	1.1	4.0	1.6
3年以上	(390)	44.4	29.5	20.3	22.8	9.7	5.6	5.1	1.3	6.2	3.3
居住地域											
本庁	(217)	37.8	32.7	17.1	17.5	9.7	6.5	4.1	2.3	7.4	4.1
波方	(149)	47.7	35.6	29.5	33.6	14.8	4.7	4.7	2.7	2.7	1.3
大西・菊間	(86)	40.7	27.9	20.9	18.6	9.3	5.8	4.7	1.2	8.1	2.3
朝倉・玉川	(20)	55.0	35.0	25.0	10.0	10.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0
吉海・宮窪	(98)	45.9	20.4	23.5	20.4	8.2	3.1	3.1	0.0	3.1	3.1
伯方	(128)	46.1	22.7	17.2	25.8	6.3	0.8	5.5	0.0	2.3	3.9
上浦・大三島・関前	(69)	43.5	17.4	17.4	21.7	7.2	4.3	2.9	2.9	2.9	2.9
わからない	(133)	47.4	31.6	27.8	18.0	15.8	4.5	3.8	1.5	3.0	0.8
居住地域(統合)											
本庁	(217)	37.8	32.7	17.1	17.5	9.7	6.5	4.1	2.3	7.4	4.1
その他陸地部	(255)	45.9	32.9	26.3	26.7	12.5	5.1	4.3	2.0	5.1	1.6
島しょ部	(295)	45.4	20.7	19.3	23.1	7.1	2.4	4.1	0.7	2.7	3.4
わからない	(133)	47.4	31.6	27.8	18.0	15.8	4.5	3.8	1.5	3.0	0.8
日本語能力(*)											
聴く・話すともにできる	(250)	42.8	40.0	14.0	11.6	9.6	7.6	5.2	1.6	5.2	5.2
聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	51.1	29.5	21.6	23.9	13.6	4.5	8.0	2.3	4.5	1.1
聴く・話すともに不安あり	(410)	46.1	26.3	24.1	28.8	8.5	2.2	3.2	0.7	3.2	2.2
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	36.2	15.8	29.6	19.7	15.8	5.3	2.6	3.3	7.2	0.7
は全体より10ポイント以上高い	太字	は全体より20ポイント以上高い									
は全体より10ポイント以上低い	太字	は全体より20ポイント以上低い									

【その他回答】 日本人の家族 / 会社の上司（社長） / （成人した）子ども / 我慢しかない / ただ独り言を言っている

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

今治市のホームページ閲覧頻度

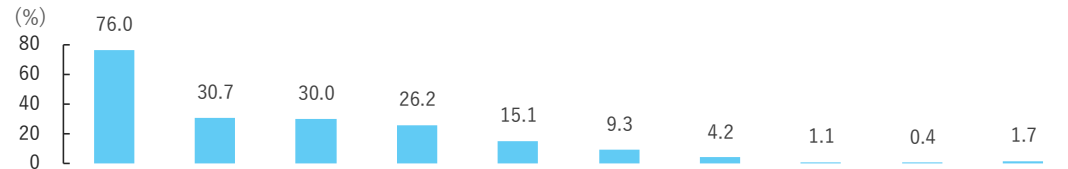
- 今治市のホームページを「よく利用する」のは5.6%、「たまに利用する」（32.3%）と合わせると4割弱が閲覧しているが、「ほとんど利用しない」「全く利用しない」人がそれぞれ3割強いる。
- 永住者や定住者、留学生などで閲覧頻度が高く、技能実習や特定技能の在留資格者は頻度が少ない傾向にある。
- 日本語能力が高いほど、「よく利用する」「たまに利用する」割合が高い。閲覧しても日本語が理解できず、利用頻度が減少することが可能性として考えられる。

		<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> よく利用する たまに利用する ほとんど利用しない 全く利用しない </div>					
全体	全体	(900)	5.6	32.3	31.9	30.2	
国籍	フィリピン	(477)	3.8	34.6	35.4	26.2	
	中国	(120)	8.3	30.8	26.7	34.2	
	ベトナム	(97)	3.1	36.1	29.9	30.9	
	インドネシア	(91)	7.7	28.6	35.2	28.6	
	ミャンマー	(33)	6.1	30.3	12.1	51.5	
	ネパール	(23)		39.1	34.8	13.0	13.0
	その他	(59)	1.7	16.9	30.5	50.8	
年代	30歳未満	(287)	7.7	32.8	33.1	26.5	
	30歳代	(425)	4.2	35.3	29.9	30.6	
	40歳代	(135)	4.4	25.2	35.6	34.8	
	50歳以上	(53)	7.5	24.5	32.1	35.8	
性別	男性	(706)	5.1	33.3	33.0	28.6	
	女性	(191)	7.3	29.3	27.2	36.1	
在留資格	技能実習	(380)	2.6	33.7	28.7	35.0	
	特定技能	(321)	4.0	31.5	36.1	28.3	
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	12.7	36.5	30.2	20.6	
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	7.1	19.0	35.7	38.1	
	留学	(21)		33.3	33.3	19.0	14.3
	その他	(73)	12.3	32.9	32.9	21.9	
家族	日本に家族がいる	(227)	8.4	27.3	31.3	33.0	
	日本に家族はいない	(652)	4.6	33.9	32.7	28.8	
在留期間	1年未満	(133)	7.5	34.6	31.6	26.3	
	1年以上3年未満	(377)	4.8	31.6	32.1	31.6	
	3年以上	(390)	5.6	32.3	31.8	30.3	
居住地域	本庁	(217)	9.7	32.3	24.0	34.1	
	波方	(149)	3.4	32.2	30.9	33.6	
	大西・菊間	(86)	7.0	34.9	34.9	23.3	
	朝倉・玉川	(20)		30.0	55.0	15.0	
	吉海・宮窪	(98)	3.1	39.8	30.6	26.5	
	伯方	(128)	3.9	38.3	30.5	27.3	
	上浦・大三島・関前	(69)	1.4	21.7	47.8	29.0	
	わからない	(133)	6.8	25.6	34.6	33.1	
	日本語能力	聴く・話すともにできる	(250)	10.4	38.4	30.8	20.4
聴く・話すどちらかがやや不安	(88)	9.1	37.5	31.8	21.6		
聴く・話すともにやや不安	(410)	3.7	28.0	34.1	34.1		
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	7.7	30.9	27.6	40.8		

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

よく使うSNS (コミュニケーションツール)

- SNSは全体ではFacebookが最も使われている (76.0%) が、国籍によって大きく傾向が異なる。
- フィリピン、ベトナム、ミャンマー人はFacebookが最も利用され、中国人はWeChat、インドネシア人はWhatsAppとInstagramがよく利用されている。技能実習や特定技能の在留資格者のLINEの利用頻度は高い。
- 永住者等やその配偶者、留学生はLINEの利用が7割を超えている。また、日本語能力が高いほどLINEがよく使われている。LINEは日本人の間では広く普及しているが、在留外国人、特に来日して日の浅い人への情報伝達手段としては不十分な面もある。
- 市が情報を提供する際は、国籍にあわせたSNSでプッシュ通知を行う等の手段が必要と考えられる。



		(合計)	Facebook	LINE	TikTok	Instagram	WhatsApp	WeChat	X (Twitter)	KakaoTalk	Weibo	その他
全体		(900)	76.0	30.7	30.0	26.2	15.1	9.3	4.2	1.1	0.4	1.7
国籍	フィリピン	(477)	96.2	15.5	22.9	19.9	5.7	1.0	1.9	0.4	0.2	1.5
	中国	(120)	11.7	47.5	27.5	16.7	1.7	63.3	8.3	0.0	2.5	4.2
	ベトナム	(97)	88.7	27.8	42.3	13.4	2.1	2.1	0.0	1.0	0.0	1.0
	インドネシア	(91)	54.9	48.4	50.5	73.6	86.8	1.1	15.4	1.1	0.0	0.0
	ミャンマー	(33)	93.9	54.5	57.6	27.3	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	ネパール	(23)	43.5	73.9	47.8	39.1	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(59)	57.6	66.1	18.6	39.0	40.7	0.0	6.8	10.2	0.0	3.4
年代	30歳未満	(287)	77.0	32.1	44.6	42.9	24.0	4.5	6.6	0.7	1.0	1.0
	30歳代	(425)	82.4	25.6	23.5	20.2	9.4	6.8	2.6	1.4	0.0	1.2
	40歳代	(135)	70.4	36.3	23.7	13.3	13.3	18.5	3.7	0.0	0.0	4.4
	50歳以上	(53)	34.0	49.1	18.9	17.0	17.0	32.1	5.7	3.8	1.9	1.9
性別	男性	(706)	82.7	23.8	28.6	24.2	14.2	6.5	3.7	1.1	0.3	1.4
	女性	(191)	51.3	56.0	35.6	33.5	18.8	19.9	6.3	0.5	1.0	2.6
在留資格	技能実習	(380)	80.0	17.1	38.4	25.0	14.5	4.2	4.5	0.5	0.0	2.4
	特定技能	(321)	85.7	24.0	24.3	20.6	12.1	4.7	2.8	0.3	0.0	1.2
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	44.4	74.6	23.8	38.1	22.2	38.1	6.3	0.0	1.6	3.2
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	54.8	73.8	19.0	31.0	19.0	23.8	2.4	2.4	2.4	0.0
	留学	(21)	28.6	71.4	23.8	52.4	9.5	9.5	9.5	4.8	4.8	0.0
その他	(73)	65.8	56.2	24.7	37.0	24.7	23.3	6.8	6.8	1.4	0.0	
家族構成	日本に家族がいる	(227)	67.4	56.4	28.2	30.8	19.4	19.4	4.8	1.8	1.3	0.9
	日本に家族はいない	(652)	79.4	22.1	30.7	24.5	13.8	5.7	4.0	0.9	0.2	2.0
在留期間	1年未満	(133)	70.7	27.8	33.1	27.1	15.8	7.5	3.8	1.5	0.8	0.8
	1年以上3年未満	(377)	80.4	26.8	36.9	29.2	18.0	5.3	5.6	1.1	0.3	1.6
	3年以上	(390)	73.6	35.4	22.3	23.1	12.1	13.8	3.1	1.0	0.5	2.1
居住地域	本庁	(217)	55.8	51.6	28.6	29.5	15.7	22.1	8.8	1.8	1.4	1.8
	波方	(149)	82.6	24.2	27.5	25.5	18.8	6.7	2.0	0.7	0.0	2.7
	大西・菊間	(86)	83.7	24.4	37.2	24.4	10.5	4.7	3.5	0.0	0.0	2.3
	朝倉・玉川	(20)	85.0	20.0	40.0	50.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	吉海・宮窪	(98)	84.7	17.3	21.4	17.3	5.1	6.1	3.1	1.0	0.0	2.0
	伯方	(128)	79.7	24.2	32.0	23.4	18.8	3.9	3.1	0.0	0.0	1.6
	上浦・大三島・関前	(69)	91.3	15.9	10.1	14.5	10.1	4.3	2.9	2.9	1.4	1.4
	わからない	(133)	77.4	33.1	43.6	34.6	20.3	4.5	3.0	1.5	0.0	0.0
居住地域 (統合)	本庁	(217)	55.8	51.6	28.6	29.5	15.7	22.1	8.8	1.8	1.4	1.8
	その他陸地部	(255)	83.1	23.9	31.8	27.1	15.3	6.3	2.4	0.4	0.0	2.4
	島しょ部	(295)	84.1	20.0	23.4	19.3	12.2	4.7	3.1	1.0	0.3	1.7
	わからない	(133)	77.4	33.1	43.6	34.6	20.3	4.5	3.0	1.5	0.0	0.0
日本語能力 (*)	聴く・話すともにできる	(250)	62.0	52.4	29.6	37.2	22.4	16.0	7.2	3.2	1.2	0.4
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	70.5	34.1	37.5	29.5	22.7	5.7	5.7	1.1	1.1	1.1
	聴く・話すともに不安あり	(410)	86.6	22.0	30.5	24.9	10.5	5.1	2.7	0.2	0.0	1.7
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	73.7	16.4	25.0	9.9	11.2	11.8	2.6	0.0	0.0	3.9

【その他回答】ウェブメール / SNSは使わない

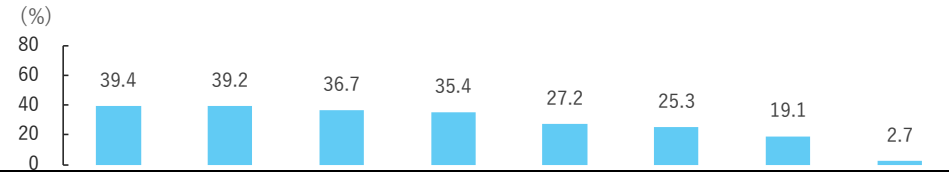
は全体より10ポイント以上高い **太字** は全体より20ポイント以上高い
 は全体より10ポイント以上低い **太字** は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本で生活するうえで欲しい情報

- 災害時の避難情報を求める回答が39.4%と最も多く、特にミャンマー人でその傾向が強い(54.5%)。3月に母国で大規模な地震があったことも影響していると思われる。
- ベトナム、インドネシア人は母国語で書いてある情報を求める割合が高い。
- インドネシア人は、多くの項目で他国よりも情報を求める割合が高い。
- 日本語能力に不安を抱える層ほど、母国語での情報を求めている。

【その他回答】 交流イベントのお知らせ / 生活に役立つより便利な情報 / 遊ぶ場所、おいしい店 / 日本における政策に関する情報 / 米を安く購入できる場所 / 外国人は日本人と違い空気を読むことができない。ダメならダメで、あいまいな表現はやめてほしい



		(合計)	災害など緊急の時の情報	病院など医療の情報	役所からのお知らせ	自分の国の言葉で書いてある情報	公共施設や交通機関などの案内	日本語教室の情報	ごみ出しなどの地域のルール	その他
全体	(900)	39.4	39.2	36.7	35.4	27.2	25.3	19.1	2.7	
国籍	フィリピン	(477)	41.7	42.1	43.6	33.3	30.6	23.3	21.4	2.1
	中国	(120)	33.3	31.7	27.5	23.3	16.7	28.3	13.3	5.8
	ベトナム	(97)	38.1	33.0	23.7	49.5	20.6	14.4	20.6	2.1
	インドネシア	(91)	38.5	45.1	40.7	60.4	40.7	45.1	20.9	2.2
	ミャンマー	(33)	54.5	24.2	21.2	33.3	21.2	30.3	6.1	0.0
	ネパール	(23)	13.0	43.5	34.8	8.7	26.1	26.1	8.7	0.0
	その他	(59)	39.0	39.0	23.7	27.1	15.3	20.3	18.6	5.1
年代	30歳未満	(287)	42.9	40.1	36.6	38.0	34.1	32.1	22.3	2.1
	30歳代	(425)	37.4	38.1	37.2	33.6	24.2	21.2	19.5	2.4
	40歳代	(135)	37.8	40.7	37.0	36.3	21.5	23.7	12.6	5.2
	50歳以上	(53)	41.5	39.6	32.1	34.0	28.3	26.4	15.1	1.9
	性別	男性	(706)	39.7	40.7	38.4	35.4	28.2	23.7	21.5
女性	(191)	38.2	34.0	30.4	36.1	23.6	31.4	10.5	5.8	
在留資格	技能実習	(380)	37.9	34.7	31.3	38.2	31.8	25.0	21.1	2.4
	特定技能	(321)	41.4	41.1	40.2	37.1	22.7	23.4	17.8	1.2
	永住者・特別永住者定住者	(63)	49.2	47.6	39.7	23.8	17.5	19.0	12.7	9.5
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	28.6	40.5	38.1	33.3	19.0	35.7	4.8	7.1
	留学	(21)	19.0	42.9	47.6	14.3	19.0	19.0	19.0	0.0
	その他	(73)	42.5	45.2	42.5	31.5	38.4	37.0	28.8	2.7
家族構成	日本に家族がいる	(227)	39.6	44.9	39.2	37.0	22.0	24.7	14.5	6.2
	日本に家族はいない	(652)	39.4	37.7	35.7	35.4	29.4	25.3	20.6	1.5
在留期間	1年未満	(133)	40.6	39.8	30.1	31.6	33.8	27.8	25.6	0.8
	1年以上3年未満	(377)	40.1	37.9	39.0	36.9	29.7	28.9	23.1	2.7
	3年以上	(390)	38.5	40.3	36.7	35.4	22.6	21.0	13.1	3.3
居住地域	本庁	(217)	41.5	35.0	31.8	32.7	19.8	27.6	19.4	4.6
	波方	(149)	36.9	37.6	40.3	48.3	27.5	29.5	20.1	2.7
	大西・菊間	(86)	41.9	39.5	50.0	32.6	29.1	22.1	19.8	1.2
	朝倉・玉川	(20)	45.0	25.0	50.0	25.0	25.0	45.0	10.0	0.0
	吉海・宮窪	(98)	46.9	48.0	31.6	37.8	27.6	13.3	18.4	2.0
	伯方	(128)	36.7	38.3	40.6	26.6	34.4	24.2	21.9	1.6
	上浦・大三島・関前	(69)	37.7	29.0	31.9	29.0	15.9	13.0	13.0	4.3
	わからない	(133)	34.6	49.6	32.3	39.1	36.8	32.3	19.5	1.5
居住地域(統合)	本庁	(217)	41.5	35.0	31.8	32.7	19.8	27.6	19.4	4.6
	その他陸地部	(255)	39.2	37.3	44.3	41.2	27.8	28.2	19.2	2.0
	島しょ部	(295)	40.3	39.3	35.6	30.8	27.8	18.0	18.6	2.4
	わからない	(133)	34.6	49.6	32.3	39.1	36.8	32.3	19.5	1.5
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(250)	40.0	41.2	38.0	30.0	23.6	24.4	18.4	3.6
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	37.5	42.0	37.5	34.1	26.1	29.5	18.2	3.4
	聴く・話すともに不安あり	(410)	41.0	39.5	38.0	38.0	29.0	24.9	19.8	2.4
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	35.5	33.6	30.3	38.2	28.9	25.7	19.1	1.3

は全体より10ポイント以上高い

太字

は全体より20ポイント以上高い

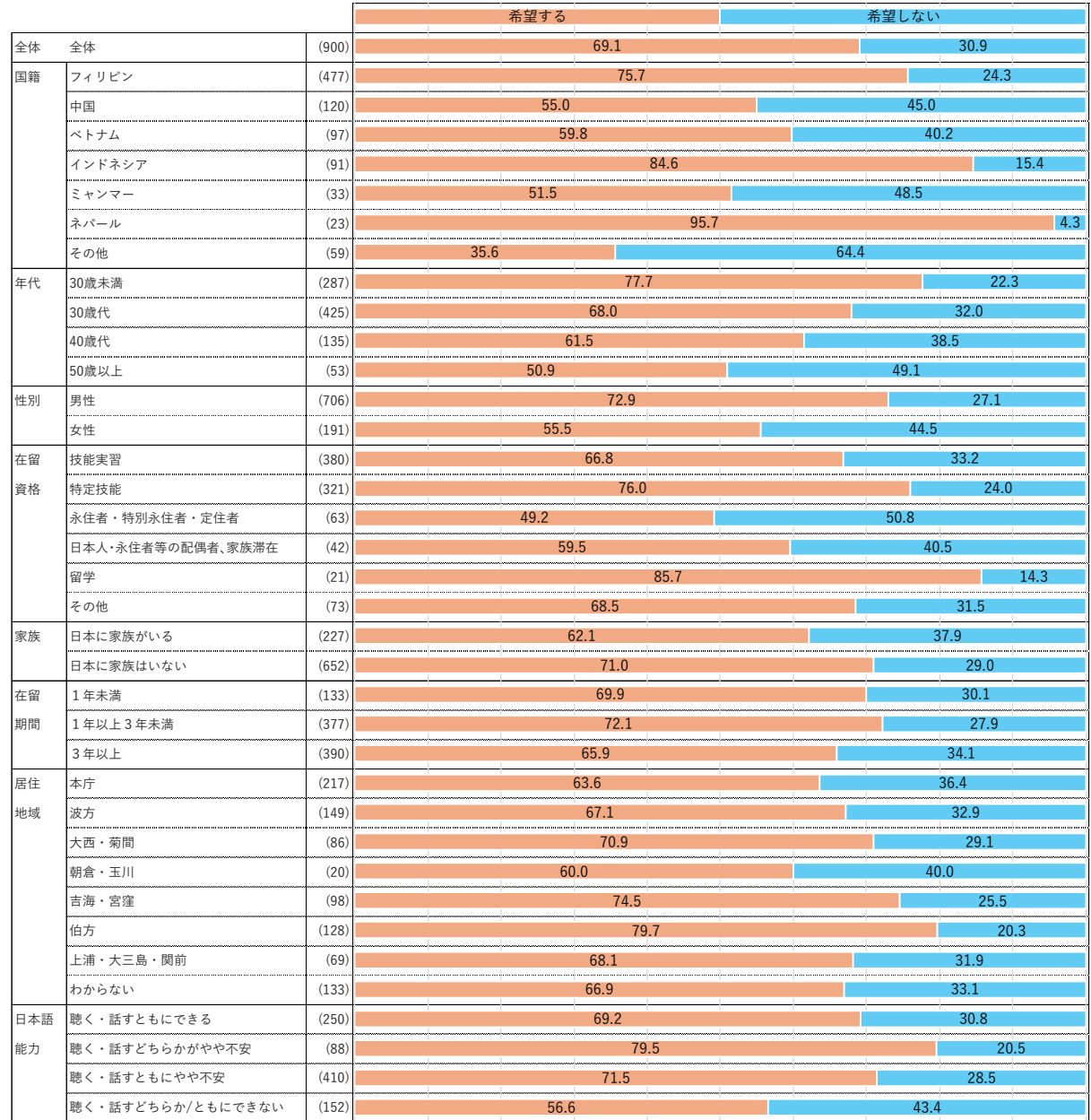
は全体より10ポイント以上低い

太字

は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



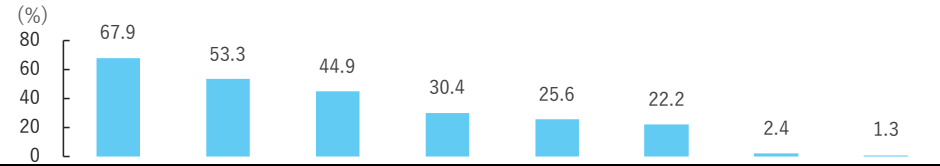
今治市からの情報提供の希望

- 希望する割合が7割近くにのぼり、特に若い世代ほど希望する割合が高い。
- 国籍別では、フィリピン、インドネシア、ネパールで希望する割合が高い。
- 居住地域では、伯方や吉海・宮窪など、島しょ部で希望する割合がやや高い。
- 日本語能力が聴く・話すともにできない層は、他のレベルよりも希望する割合が低い（56.6%）。日本語で情報が提供されても理解できないため意味がない、と捉えている可能性がある。

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

今治市に住んで良かったと思うこと

- まちの清潔さ（67.9%）と日本人の親切さ（53.3%）を挙げる割合が過半数となっている。
- 国籍別にみると、インドネシア人は物価の安さを挙げる割合が他国籍者よりも高い（48.4%）。
- 女性は、まちの清潔さを挙げる割合が男性よりも17.8ポイント低い。
- 永住者や定住者、日本人・永住者等の配偶者などは、まちの清潔さよりも自然や文化の豊かさや、日本人の親切さを選ぶ割合が高くなっている。
- 居住地域別でみると、島しょ部では「店が多く生活が便利」や「都会より物価が安い」と感じている割合が低い。



	(合計)	まちが清潔で きれい	周りの日本人 が親切	自然や文化が 豊か	店が多く生活 が便利	都会より物価 が安い	同国人が多い	その他	よかったと思う ことはない
全体	(900)	67.9	53.3	44.9	30.4	25.6	22.2	2.4	1.3
国籍									
フィリピン	(477)	75.1	59.1	49.1	30.2	19.1	26.2	1.3	0.4
中国	(120)	57.5	52.5	40.8	30.8	24.2	13.3	3.3	1.7
ベトナム	(97)	67.0	40.2	36.1	36.1	30.9	17.5	1.0	3.1
インドネシア	(91)	71.4	52.7	45.1	38.5	48.4	25.3	4.4	2.2
ミャンマー	(33)	51.5	15.2	39.4	36.4	24.2	42.4	0.0	3.0
ネパール	(23)	39.1	56.5	26.1	4.3	21.7	17.4	0.0	4.3
その他	(59)	47.5	50.8	44.1	16.9	39.0	1.7	11.9	1.7
年代									
30歳未満	(287)	66.6	50.5	44.9	33.4	31.4	24.4	1.4	1.7
30歳代	(425)	69.4	52.2	45.2	28.0	20.0	21.4	2.6	0.7
40歳代	(135)	68.9	57.8	43.0	31.1	23.7	21.5	2.2	2.2
50歳以上	(53)	60.4	66.0	47.2	32.1	43.4	18.9	7.5	1.9
性別									
男性	(706)	71.7	55.5	47.5	31.9	25.1	22.9	1.8	0.7
女性	(191)	53.9	46.1	35.6	25.7	27.2	19.9	4.7	3.7
在留資格									
技能実習	(380)	72.6	48.2	40.5	32.1	21.1	22.6	1.8	1.1
特定技能	(321)	70.4	56.1	44.5	31.2	24.0	24.9	1.6	1.2
永住者・特別永住者・定住者	(63)	47.6	55.6	58.7	25.4	39.7	14.3	9.5	1.6
日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	52.4	71.4	66.7	26.2	40.5	19.0	7.1	2.4
留学	(21)	57.1	42.9	28.6	19.0	23.8	19.0	0.0	4.8
その他	(73)	61.6	58.9	49.3	28.8	35.6	17.8	1.4	1.4
家族構成									
日本に家族がいる	(227)	58.6	55.1	56.4	28.6	32.6	24.7	5.7	1.8
日本に家族はいない	(652)	71.6	52.9	41.4	31.1	23.8	21.3	1.4	1.2
在留期間									
1年未満	(133)	72.2	48.1	40.6	30.8	24.8	19.5	0.8	3.0
1年以上3年未満	(377)	68.7	50.9	45.4	30.2	23.9	23.6	2.1	0.8
3年以上	(390)	65.6	57.4	45.9	30.5	27.4	21.8	3.3	1.3
居住地域									
本庁	(217)	64.5	51.2	44.2	28.6	30.9	18.4	4.1	2.8
波方	(149)	71.1	61.1	52.3	44.3	33.6	33.6	3.4	0.7
大西・菊間	(86)	70.9	55.8	47.7	39.5	29.1	26.7	0.0	3.5
朝倉・玉川	(20)	75.0	40.0	60.0	30.0	30.0	25.0	0.0	0.0
吉海・宮窪	(98)	70.4	52.0	43.9	24.5	11.2	18.4	2.0	1.0
伯方	(128)	68.8	58.6	46.9	23.4	19.5	25.0	3.1	0.0
上浦・大三島・関前	(69)	59.4	53.6	40.6	7.2	11.6	7.2	1.4	0.0
わからない	(133)	68.4	44.4	34.6	35.3	28.6	20.3	0.8	0.8
居住地域(統合)									
本庁	(217)	64.5	51.2	44.2	28.6	30.9	18.4	4.1	2.8
その他陸地部	(255)	71.4	57.6	51.4	41.6	31.8	30.6	2.0	1.6
島しょ部	(295)	67.1	55.3	44.4	20.0	14.9	18.6	2.4	0.3
わからない	(133)	68.4	44.4	34.6	35.3	28.6	20.3	0.8	0.8
日本語能力(*)									
聴く・話すともにできる	(250)	60.4	53.6	47.6	27.2	33.6	20.4	4.0	2.0
聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	56.8	48.9	36.4	25.0	20.5	19.3	4.5	1.1
聴く・話すともに不安あり	(410)	71.5	52.9	47.3	31.2	23.4	25.4	1.7	1.5
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	77.0	56.6	38.8	36.8	21.1	18.4	0.7	0.0

【その他回答】 釣りができる / 静かで自然災害が少ない / みなとマルシェが楽しい / おいしい店が多い / 海水浴場が多く夏が楽しい / 日本の経済構造が好き / 野菜・果物が豊富 / 駐車場が豊富 / 今治市国際交流協会のスタッフがやさしい

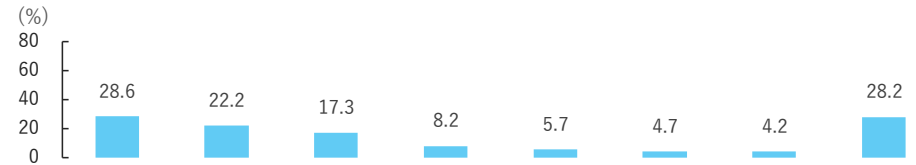
は全体より10ポイント以上高い
太字 は全体より20ポイント以上高い
 は全体より10ポイント以上低い
太字 は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

今治市に住んで良くなかったと思うこと

- 遊びに行くところの少なさや、買い物や公共交通の不便さを挙げる人が一定数いる。出身国別では、ベトナム、インドネシア、ミャンマー人に、在留資格別では永住者、定住者等でややその傾向が強い。
- 留学生の割合が高いネパール人は、ルールやマナーの細かさに苦勞している傾向にある。学校の校則や寮の規則等が関係しているかもしれない。
- 島しょ部の在住者は「遊びに行くところが少ない」（20.3%）と感じる割合が陸地部に比べ10ポイント以上低い。都会ならではの遊びよりも、自然の豊かさやアクティビティに魅力を感じているのかもしれない。
- 日本語能力が低いほど「言葉が通じず寂しい」の回答割合が高い傾向にある。
- 「よくなかったと思うことはない」という回答は28.2%で、7割以上の人は何かしらの不便・不満を感じている。

【その他回答】 物価上昇 / 大三島は店が少なく物価が高い / 予約なしで利用できる屋外バスケットコートがない / 登り坂が多い / ベトナム人とフィリピン人が周囲の環境を悪化させている



	(合計)	遊びに行くところが少ない	買物や公共交通が不便	言葉が通じず寂しい	同国人が少ない	ルールやマナーが細かい/難しい	周りの日本人が不親切	その他	よくなかったと思うことはない	
全体	(900)	28.6	22.2	17.3	8.2	5.7	4.7	4.2	28.2	
国籍	フィリピン	(477)	23.9	18.4	19.3	8.8	5.9	5.2	3.8	30.2
	中国	(120)	25.0	19.2	22.5	5.0	5.0	3.3	2.5	31.7
	ベトナム	(97)	35.1	20.6	14.4	2.1	5.2	5.2	2.1	29.9
	インドネシア	(91)	36.3	36.3	12.1	13.2	0.0	2.2	5.5	26.4
	ミャンマー	(33)	48.5	39.4	6.1	3.0	0.0	6.1	3.0	30.3
	ネパール	(23)	26.1	21.7	17.4	8.7	39.1	17.4	4.3	0.0
	その他	(59)	40.7	30.5	10.2	15.3	5.1	0.0	13.6	15.3
年代	30歳未満	(287)	29.6	20.9	17.8	9.4	7.0	5.9	3.8	28.6
	30歳代	(425)	28.7	22.6	16.9	8.2	5.6	5.2	4.2	24.9
	40歳代	(135)	31.1	26.7	17.0	5.2	4.4	1.5	5.2	30.4
	50歳以上	(53)	15.1	15.1	18.9	9.4	1.9	1.9	3.8	47.2
	性別	男性	(706)	26.5	20.3	18.6	9.2	5.7	4.4	4.1
女性	(191)	36.1	29.3	13.1	4.7	4.7	5.8	4.7	26.2	
在留資格	技能実習	(380)	26.1	16.6	22.4	7.1	5.0	5.0	4.2	29.7
	特定技能	(321)	27.7	20.6	15.0	10.3	3.1	5.0	4.0	29.3
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	41.3	33.3	7.9	7.9	4.8	1.6	7.9	23.8
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	35.7	33.3	9.5	4.8	9.5	2.4	4.8	31.0
	留学	(21)	38.1	28.6	14.3	14.3	42.9	9.5	0.0	0.0
	その他	(73)	27.4	41.1	15.1	5.5	8.2	4.1	2.7	26.0
家族構成	日本に家族がいる	(227)	38.8	32.2	12.3	7.9	4.8	4.8	5.7	23.8
	日本に家族はいない	(652)	25.2	19.0	18.9	8.1	6.0	4.6	3.8	30.2
在留期間	1年未満	(133)	21.1	16.5	22.6	9.8	4.5	3.8	2.3	30.1
	1年以上3年未満	(377)	31.6	24.4	18.3	8.0	7.2	6.4	4.2	26.5
	3年以上	(390)	28.2	22.1	14.6	7.9	4.6	3.3	4.9	29.2
居住地域	本庁	(217)	33.2	29.0	15.2	7.4	7.8	4.6	4.1	30.0
	波方	(149)	32.2	19.5	15.4	6.7	5.4	4.0	6.0	29.5
	大西・菊間	(86)	30.2	22.1	17.4	9.3	2.3	3.5	3.5	27.9
	朝倉・玉川	(20)	25.0	25.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0	45.0
	吉海・宮窪	(98)	21.4	14.3	24.5	9.2	7.1	3.1	4.1	25.5
	伯方	(128)	21.9	22.7	12.5	6.3	7.8	3.9	3.9	30.5
	上浦・大三島・関前	(69)	15.9	31.9	11.6	10.1	5.8	10.1	2.9	21.7
	わからない	(133)	34.6	14.3	24.8	11.3	2.3	6.0	4.5	24.8
	居住地域(統合)	本庁	(217)	33.2	29.0	15.2	7.4	7.8	4.6	4.1
その他陸地部	(255)	31.0	20.8	16.5	7.5	3.9	3.5	4.7	30.2	
島しょ部	(295)	20.3	22.0	16.3	8.1	7.1	5.1	3.7	26.8	
わからない	(133)	34.6	14.3	24.8	11.3	2.3	6.0	4.5	24.8	
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(250)	35.2	30.4	3.6	6.8	6.8	5.6	5.6	28.0
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	28.4	18.2	14.8	13.6	5.7	6.8	5.7	25.0
	聴く・話すともに不安あり	(410)	28.3	20.7	21.5	8.0	5.9	4.1	4.4	26.6
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	18.4	15.1	30.3	7.9	3.3	3.3	0.7	34.9

は全体より10ポイント以上高い
は全体より10ポイント以上低い

太字 は全体より20ポイント以上高い
太字 は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

今治市での居住継続希望

- 「ずっと住み続けたい」と「10年くらいは住みたい」を合わせた72.2%が、ある程度長期間住みたいと回答している。
- 日本語能力に長けているほど、また、在留期間が長いほど、住み続けたい意向が強い。技能実習の在留資格者は、在留期限の関係上「わからない」と回答する割合が高くなっていると考えられる。
- 永住者等とその配偶者等は7割前後が「ずっと住み続けたい」と回答している。
- 日本に家族がいない単身在留者は、家族がいる在留者よりも「わからない」と回答する割合が高い(23.3%)。在留制度上、家族帯同が認められれば「住み続けたい」と感じる人は増える可能性がある。

		ずっと住み続けたい	10年くらいは住みたい	他の場所に住みたい	わからない
全体	全体 (900)	35.1	37.1	6.6	21.2
国籍	フィリピン (477)	33.8	43.2	3.6	19.5
	中国 (120)	48.3	22.5	6.7	22.5
	ベトナム (97)	32.0	41.2	5.2	21.6
	インドネシア (91)	18.7	35.2	17.6	28.6
	ミャンマー (33)	33.3	24.2	12.1	30.3
	ネパール (23)	56.5	13.0	17.4	13.0
	その他 (59)	42.4	30.5	8.5	18.6
年代	30歳未満 (287)	25.8	38.7	11.1	24.4
	30歳代 (425)	36.9	37.2	4.7	21.2
	40歳代 (135)	48.1	33.3	3.7	14.8
	50歳以上 (53)	37.7	37.7	3.8	20.8
性別	男性 (706)	32.3	40.9	5.1	21.7
	女性 (191)	46.1	23.0	12.0	18.8
在留資格	技能実習 (380)	17.9	45.5	8.4	28.2
	特定技能 (321)	43.6	34.6	5.0	16.8
	永住者・特別永住者・定住者 (63)	66.7	20.6	1.6	11.1
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在 (42)	73.8	14.3	2.4	9.5
	留学 (21)	42.9	14.3	28.6	14.3
その他 (73)	35.6	38.4	4.1	21.9	
家族	日本に家族がいる (227)	49.8	27.8	7.0	15.4
	日本に家族はいない (652)	29.6	40.5	6.6	23.3
在留期間	1年未満 (133)	23.3	42.9	9.8	24.1
	1年以上3年未満 (377)	27.1	41.6	8.5	22.8
	3年以上 (390)	46.9	30.8	3.6	18.7
居住地域	本庁 (217)	47.5	29.0	4.6	18.9
	波方 (149)	33.6	36.2	6.7	23.5
	大西・菊間 (86)	37.2	40.7	5.8	16.3
	朝倉・玉川 (20)	30.0	35.0	10.0	25.0
	吉海・宮窪 (98)	28.6	42.9	6.1	22.4
	伯方 (128)	29.7	45.3	3.9	21.1
	上浦・大三島・関前 (69)	36.2	31.9	7.2	24.6
	わからない (133)	25.6	39.8	12.0	22.6
	日本語能力	聴く・話すともにできる (250)	45.6	28.0	6.4
聴く・話すどちらかがやや不安 (88)	45.5	29.5	13.6	11.4	
聴く・話すともにやや不安 (410)	30.5	42.4	5.4	21.7	
聴く・話すどちらか/ともにできない (152)	24.3	42.1	5.9	27.6	

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

コミュニケーション・ルールに関すること

近隣住民とのコミュニケーション

- 「挨拶のみ」の割合が43.6%で最も高く、「時々話をする」が24.6%で続く。積極的な地域交流はあまり行われていないことがうかがえる。
- 在留資格別では、母数が多い技能実習と特定技能の在留資格者は挨拶を交わす程度のコミュニケーションが最も多い。
- 在留期間が長い人、日本語能力に長けている人ほど「よく話をする」、「時々話をする」割合が高い。
- 居住地域による大きな差は認められなかった。

			よく話をする	時々話をする	挨拶のみ	ほとんどない	全くない		
全体	(900)		9.4	24.6	43.6	12.8	9.7		
国籍	フィリピン	(477)	4.4	22.2	52.6	12.4	8.4		
	中国	(120)	19.2	26.7	29.2	18.3	6.7		
	ベトナム	(97)	7.2	23.7	44.3	12.4	12.4		
	インドネシア	(91)	9.9	30.8	30.8	13.2	15.4		
	ミャンマー	(33)	15.2	15.2	48.5	9.1	12.1		
	ネパール	(23)		52.2		30.4	13.0	4.3	
	その他	(59)	13.6	33.9	27.1	11.9	13.6		
年代	30歳未満	(287)	10.1	22.6	42.5	11.5	13.2		
	30歳代	(425)	6.4	21.9	49.2	13.4	9.2		
	40歳代	(135)	14.1	33.3		35.6	11.9	5.2	
	50歳以上	(53)	18.9	34.0	24.5	17.0	5.7		
性別	男性	(706)	6.8	24.9	47.2	12.3	8.8		
	女性	(191)	19.4	23.0	30.4	14.7	12.6		
在留資格	技能実習	(380)	3.9	17.1	52.1	14.5	12.4		
	特定技能	(321)	5.0	29.0	46.1	11.2	8.7		
	永住者・特別永住者・定住者	(63)		33.3	31.7	23.8	9.5	16.6	
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	23.8		31.0	19.0	19.0	7.1	
	留学	(21)		47.6		23.8	14.3	9.5	4.8
	その他	(73)	17.8	34.2		27.4	11.0	9.6	
家族	日本に家族がいる	(227)	19.4	28.6		35.7	10.6	5.7	
	日本に家族はいない	(652)	6.1	22.9	46.6	13.2	11.2		
在留期間	1年未満	(133)	11.3	14.3	48.9	12.8	12.8		
	1年以上3年未満	(377)	7.4	20.7	48.5	12.2	11.1		
	3年以上	(390)	10.8	31.8		36.9	13.3	7.2	
居住地域	本庁	(217)	17.5	24.0	36.4	11.5	10.6		
	波方	(149)	7.4	20.1	49.0	14.1	9.4		
	大西・菊間	(86)	5.8	31.4	37.2	15.1	10.5		
	朝倉・玉川	(20)	10.0	25.0	50.0	10.0	5.0		
	吉海・宮窪	(98)	10.2	27.6	48.0	10.2	4.1		
	伯方	(128)	5.5	25.8	50.0	9.4	9.4		
	上浦・大三島・関前	(69)	8.7	31.9	36.2	13.0	10.1		
	わからない	(133)	4.5	18.8	46.6	17.3	12.8		
	日本語能力	聴く・話すともにできる	(250)	22.4	31.2	28.0	8.8	9.6	
聴く・話すどちらかがやや不安	(88)	11.4	26.1	42.0	13.6	6.8			
聴く・話すともにやや不安	(410)	3.7	24.6	48.8	14.4	8.5			
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	2.6	12.5	55.9	14.5	14.5			

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

祭りや地域行事への参加状況

- 「参加したことがある」割合は51.1%と過半数となった。
- 留学生が多いネパール人は、8割超が「参加したことがある」としている。学校で国際交流の場が設けられていることが影響している可能性がある。
- 技能実習や特定技能の在留資格者は、他の在留資格に比べてやや参加率が低く、地域行事を認知していない割合が高い傾向にある。在留期間が短いこともあり、行事の情報が届いていない可能性がある。
- 日本語能力に長けている人ほど参加率が高く、「聞く・話すどちらか/ともにできない」人の3割近くは行事の情報を知らない。

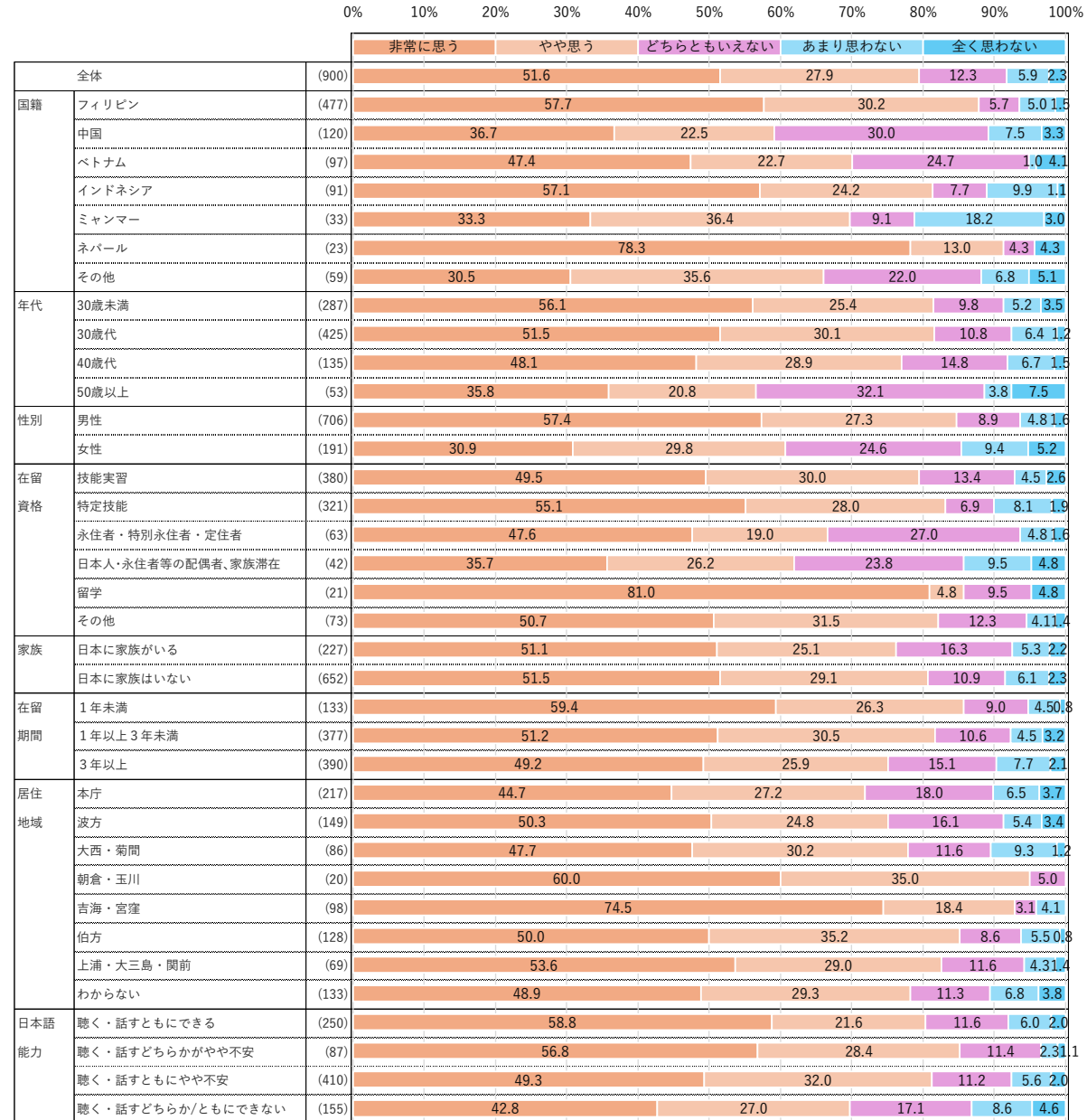
			参加したことがある	あることは知っているが、参加したことはない	あることを知らないし、参加したこともない
全体	(900)		51.1	32.1	16.8
国籍	フィリピン	(477)	48.6	39.0	12.4
	中国	(120)	43.3	25.8	30.8
	ベトナム	(97)	49.5	24.7	25.8
	インドネシア	(91)	52.7	36.3	11.0
	ミャンマー	(33)	66.7	9.1	24.2
	ネパール	(23)	87.0	8.7	4.3
	その他	(59)	64.4	16.9	18.6
年代	30歳未満	(287)	51.9	32.4	15.7
	30歳代	(425)	52.0	31.8	16.2
	40歳代	(135)	47.4	34.8	17.8
	50歳以上	(53)	49.1	26.4	24.5
性別	男性	(706)	51.0	33.0	16.0
	女性	(191)	51.8	28.3	19.9
在留資格	技能実習	(380)	42.9	33.7	23.4
	特定技能	(321)	48.3	36.8	15.0
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	74.6	17.5	7.9
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	69.0	23.8	7.1
	留学	(21)	85.7	9.5	4.8
	その他	(73)	65.8	27.4	6.8
家族	日本に家族がいる	(227)	62.6	26.0	11.5
	日本に家族はいない	(652)	47.4	34.5	18.1
在留期間	1年未満	(133)	35.3	35.3	29.3
	1年以上3年未満	(377)	52.3	32.4	15.4
	3年以上	(390)	55.4	30.8	13.8
居住地域	本庁	(217)	60.4	25.8	13.8
	波方	(149)	53.0	34.2	12.8
	大西・菊間	(86)	54.7	30.2	15.1
	朝倉・玉川	(20)	50.0	40.0	10.0
	吉海・宮窪	(98)	50.0	35.7	14.3
	伯方	(128)	40.6	38.3	21.1
	上浦・大三島・関前	(69)	58.0	29.0	13.0
	わからない	(133)	39.1	33.1	27.8
	日本語能力	聞く・話すともにできる	(250)	64.4	22.4
聞く・話すどちらかがやや不安	(88)	51.1	37.5	11.4	
聞く・話すともにやや不安	(410)	48.0	36.3	15.6	
聞く・話すどちらか/ともにできない	(152)	37.5	33.6	28.9	

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本人と仲良くなりたいか

- 近所の日本人と仲良くなりたいと思う（「非常に思う」＋「やや思う」）割合は8割弱（79.5%）にのぼる。
- 国籍別にみると、フィリピン人は仲良くなりたいと思う傾向が顕著に表れている（87.9%）。一方、中国人やベトナム人は「どちらともいえない」というやや曖昧なスタンスの割合が他国籍の在留者に比べると高い。
- 若い年代や在留期間が浅い人ほど日本人と仲良くなりたいと回答する傾向が強い。

【その他回答】 友達づくり / 地域の歴史を学ぶ / 日本語を学ぶ / 自分の国の料理を紹介したい

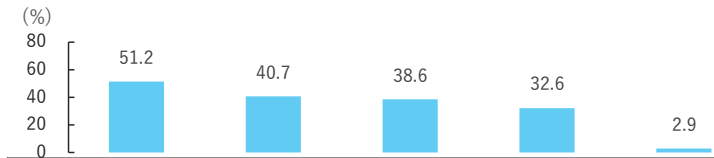


今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本人としたいこと

- 近所の日本人と仲良くなりたいと思う715人に、仲良くなったらしてみたいことを尋ねた。「祭りなど近所のイベントに参加したい」が51.2%で最も多く、「自分の国の文化を紹介したい」が40.7%で続く。
- 国籍別にみると、中国人やインドネシア人は「一緒に食事など気軽に交流したい」と回答する割合が最も高い。安心できる身近なコミュニティでの交流を重視する傾向にあるといえる。
- 若い世代や在留期間の短い人、それらにあてはまる技能実習の在留資格者などは自国文化の紹介に積極的な姿勢がうかがえる。日本人に自国の文化や習慣を知ってもらうことで関係性が深まると感じていると思われる。

【その他回答】 友達づくり / 地域の歴史を学ぶ / 日本語を学ぶ / 自分の国の料理を紹介したい



		(合計)	祭りなど近所のイベントに参加したい	自分の国の文化を紹介したい	一緒に食事など気軽に交流したい	一緒にボランティア活動をしたたい	その他
全体	(715)	51.2	40.7	38.6	32.6	2.9	
国籍	フィリピン	(419)	49.6	43.4	31.5	31.0	2.9
	中国	(71)	43.7	32.4	56.3	32.4	1.4
	ベトナム	(68)	48.5	50.0	30.9	32.4	5.9
	インドネシア	(74)	62.2	39.2	66.2	40.5	4.1
	ミャンマー	(23)	65.2	17.4	26.1	43.5	0.0
	ネパール	(21)	85.7	23.8	19.0	9.5	0.0
	その他	(39)	38.5	35.9	61.5	41.0	2.6
年代	30歳未満	(234)	57.3	46.2	41.9	30.3	2.6
	30歳代	(347)	49.9	38.3	31.7	31.7	3.7
	40歳代	(104)	43.3	36.5	43.3	37.5	1.9
	50歳以上	(30)	46.7	40.0	76.7	43.3	0.0
	その他	(598)	50.2	42.3	37.0	32.1	3.3
性別	男性	(116)	56.0	32.8	46.6	34.5	0.9
	女性	(302)	47.7	47.0	36.1	26.2	4.3
在留資格	技能実習	(267)	49.8	37.1	33.7	36.7	2.2
	永住者・特別永住者・定住者	(42)	64.3	33.3	54.8	33.3	0.0
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(26)	46.2	26.9	53.8	38.5	3.8
	留学	(18)	72.2	16.7	22.2	5.6	0.0
	その他	(60)	61.7	43.3	60.0	51.7	1.7
家族構成	日本に家族がいる	(173)	52.6	34.1	46.2	34.7	2.9
	日本に家族はいない	(526)	50.6	43.2	35.7	32.5	3.0
在留期間	1年未満	(114)	51.8	47.4	31.6	27.2	1.8
	1年以上3年未満	(308)	51.6	40.3	37.7	31.5	3.9
	3年以上	(293)	50.5	38.6	42.3	35.8	2.4
居住地域	本庁	(156)	55.8	37.2	46.2	35.3	0.6
	波方	(112)	55.4	48.2	38.4	34.8	4.5
	大西・菊間	(67)	46.3	52.2	38.8	23.9	3.0
	朝倉・玉川	(19)	47.4	52.6	31.6	36.8	10.5
	吉海・宮窪	(91)	52.7	44.0	24.2	30.8	5.5
	伯方	(109)	48.6	34.9	38.5	35.8	0.9
	上浦・大三島・関前	(57)	45.6	33.3	43.9	22.8	3.5
	わからない	(104)	48.1	35.6	38.5	34.6	2.9
	本庁	(156)	55.8	37.2	46.2	35.3	0.6
	その他陸地部	(198)	51.5	50.0	37.9	31.3	4.5
居住地域(統合)	島しょ部	(257)	49.4	37.7	34.6	31.1	3.1
	わからない	(104)	48.1	35.6	38.5	34.6	2.9
	本庁	(201)	58.2	36.3	40.8	35.8	2.0
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(75)	53.3	41.3	32.0	34.7	2.7
	聴く・話すどちらかに不安あり	(333)	51.1	42.6	36.0	32.4	3.0
	聴く・話すともに不安あり	(106)	36.8	42.5	47.2	25.5	4.7
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(106)	36.8	42.5	47.2	25.5	4.7

は全体より10ポイント以上高い

太字 は全体より20ポイント以上高い

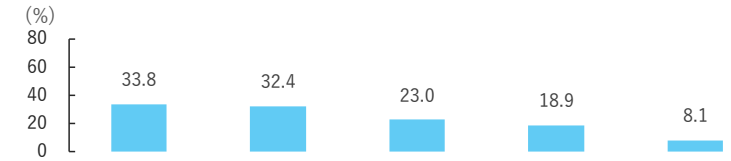
は全体より10ポイント以上低い

太字 は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

日本人と仲良くなりたいと思わない理由

- 近所の日本人と仲良くなりたいと「あまり思わない」「全く思わない」と答えた74人に対して理由を尋ねたところ、最も多かったのは「日本語が分からないから」が33.8%で、「忙しいから」が32.4%で続く。
- サンプル数が少ないため一概には言えないが、フィリピン人は「必要性を感じないから」が最も多い（35.5%）。家族中心主義が強く、職場・学校・趣味などは“目的に応じて人間関係を使い分ける”文化が影響しているかもしれない。
- 日本語能力が低い人ほど「日本語が分からない」点を挙げる回答が多い。日本語能力が伸びてくれば、「仲良くなりたい」に変わる可能性がある。



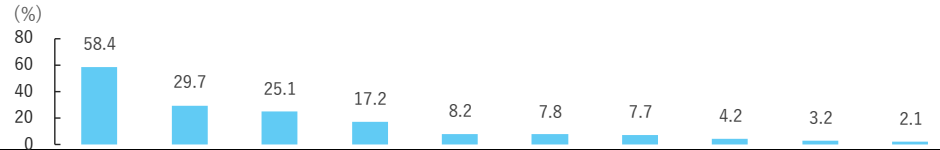
		(合計)	日本語が分からないから	忙しいから	必要性を感じないから	トラブルになるのが不安だから	その他
全体		(74)	33.8	32.4	23.0	18.9	8.1
国籍	フィリピン	(31)	29.0	25.8	35.5	9.7	3.2
	中国	(13)	69.2	7.7	7.7	23.1	0.0
	ベトナム	(5)	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	インドネシア	(10)	10.0	60.0	10.0	60.0	10.0
	ミャンマー	(7)	14.3	85.7	0.0	0.0	0.0
	ネパール	(1)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他	(7)	28.6	14.3	42.9	14.3	57.1
年代	30歳未満	(25)	40.0	44.0	12.0	28.0	8.0
	30歳代	(32)	18.8	31.3	34.4	3.1	9.4
	40歳代	(11)	36.4	18.2	18.2	36.4	9.1
	50歳以上	(6)	83.3	16.7	16.7	33.3	0.0
	性別	男性	(45)	33.3	28.9	31.1	15.6
	女性	(28)	32.1	39.3	10.7	25.0	10.7
在留資格	技能実習	(27)	48.1	29.6	11.1	22.2	11.1
	特定技能	(32)	21.9	34.4	31.3	15.6	0.0
	永住者・特別永住者・定住者	(4)	0.0	25.0	50.0	0.0	50.0
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(6)	33.3	33.3	16.7	33.3	16.7
	留学	(1)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他	(4)	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0
家族構成	日本に家族がいる	(17)	23.5	41.2	23.5	11.8	17.6
	日本に家族はいない	(55)	38.2	30.9	23.6	21.8	5.5
在留期間	1年未満	(7)	28.6	42.9	28.6	28.6	0.0
	1年以上3年未満	(29)	44.8	31.0	13.8	13.8	10.3
	3年以上	(38)	26.3	31.6	28.9	21.1	7.9
居住地域	本庁	(22)	45.5	31.8	18.2	22.7	9.1
	波方	(13)	30.8	7.7	30.8	30.8	7.7
	大西・菊間	(9)	0.0	33.3	44.4	11.1	22.2
	朝倉・玉川	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	吉海・宮窪	(4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	伯方	(8)	50.0	37.5	12.5	25.0	12.5
	上浦・大三島・関前	(4)	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	わからない	(14)	28.6	64.3	14.3	14.3	0.0
	居住地域	本庁	(22)	45.5	31.8	18.2	22.7
(統合)	その他陸地部	(22)	18.2	18.2	36.4	22.7	13.6
	島しょ部	(16)	43.8	25.0	18.8	12.5	6.3
	わからない	(14)	28.6	64.3	14.3	14.3	0.0
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(20)	10.0	60.0	10.0	25.0	10.0
	聴く・話すどちらかに不安あり	(3)	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3
	聴く・話すともに不安あり	(31)	32.3	32.3	25.8	19.4	6.5
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(20)	60.0	5.0	35.0	10.0	5.0
は全体より10ポイント以上高い			太字	は全体より20ポイント以上高い			
は全体より10ポイント以上低い			太字	は全体より20ポイント以上低い			

【その他回答】 日本人は時々厳しいから / 日本人に嫌われるのが嫌だから

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

普段付き合うことが多い相手

- 普段は「同じ国籍の友人・同僚」と付き合うことが多いと回答する割合が58.4%と過半数であった。「職場の日本人」が29.7%で続く。
- 国籍別にみると、ベトナム、インドネシア、ミャンマー人で特に「同じ国籍の友人・同僚」とする割合が高い。単身での来日が多い技能実習や特定技能の在留資格者が多いことが関係している。
- 若い世代に多い技能実習や特定技能の在留資格者は在留期間も浅く、同じ国籍の友人や同僚と付き合うことが多い。
- 永住者・特定永住者、定住者や人文知識・国際業務などの在留資格者や、それらの人が在住することが比較的多い本庁エリアは、「同じ国籍の友人・同僚」の割合が他よりもやや低く、家族の割合が高い。
- 日本語能力に長けるほど職場の日本人と付き合いも深くなっている。



	(合計)	同国籍の友人・同僚 (家族以外)	職場の日本人	同じ国籍の家族	異なる国籍の友人・同僚	友人・知人の日本人(職場・近所・地域活動以外)	職場の日本人以外の他国人(友人・知人など)	異なる国籍の家族	近所の日本人	地域の活動(ボランティア・イベントなど)で知り合った日本人	その他
全体	(900)	58.4	29.7	25.1	17.2	8.2	7.8	7.7	4.2	3.2	2.1
国籍											
フィリピン	(477)	59.7	34.8	29.1	19.1	7.5	7.5	4.0	4.0	3.6	1.0
中国	(120)	40.8	31.7	26.7	15.8	12.5	7.5	10.8	6.7	4.2	4.2
ベトナム	(97)	75.3	9.3	13.4	6.2	6.2	2.1	4.1	1.0	1.0	2.1
インドネシア	(91)	73.6	26.4	15.4	18.7	4.4	8.8	6.6	2.2	1.1	4.4
ミャンマー	(33)	69.7	30.3	9.1	15.2	3.0	12.1	3.0	0.0	0.0	0.0
ネパール	(23)	43.5	17.4	52.2	13.0	4.3	4.3	17.4	8.7	8.7	0.0
その他	(59)	32.2	27.1	22.0	23.7	18.6	16.9	37.3	10.2	5.1	5.1
年代											
30歳未満	(287)	63.8	26.5	24.0	17.4	7.3	7.3	5.2	3.8	2.4	2.4
30歳代	(425)	57.9	29.6	24.2	16.2	7.1	8.5	5.4	2.6	2.6	1.6
40歳代	(135)	54.1	36.3	29.6	22.2	9.6	5.9	13.3	8.9	4.4	0.7
50歳以上	(53)	45.3	30.2	26.4	11.3	18.9	9.4	24.5	7.5	9.4	7.5
性別											
男性	(706)	61.6	30.5	25.1	17.8	7.5	8.4	5.7	3.8	3.1	1.4
女性	(191)	47.1	27.2	25.7	14.7	11.0	5.2	15.2	5.8	3.7	4.2
在留資格											
技能実習	(380)	66.6	23.9	21.3	14.7	4.2	4.7	1.3	1.6	1.1	2.1
特定技能	(321)	61.7	33.0	22.1	18.4	6.2	10.3	4.4	4.0	2.8	0.6
永住者・特別永住者・定住者	(63)	28.6	42.9	44.4	31.7	27.0	9.5	38.1	17.5	7.9	3.2
日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	19.0	26.2	40.5	9.5	14.3	11.9	42.9	7.1	11.9	7.1
留学	(21)	33.3	14.3	52.4	9.5	19.0	9.5	9.5	9.5	9.5	4.8
その他	(73)	57.5	39.7	24.7	19.2	15.1	8.2	8.2	4.1	5.5	4.1
家族構成											
日本に家族がいる	(227)	43.6	34.4	36.6	18.5	14.1	8.4	22.0	7.0	5.3	2.6
日本に家族はいない	(652)	64.1	28.1	21.2	16.7	6.3	7.5	2.9	3.4	2.6	1.7
在留期間											
1年未満	(133)	62.4	21.8	22.6	17.3	7.5	12.0	4.5	2.3	1.5	0.8
1年以上3年未満	(377)	60.5	28.9	23.3	16.7	5.8	5.6	3.4	2.4	2.9	2.9
3年以上	(390)	55.1	33.1	27.7	17.7	10.8	8.5	12.8	6.7	4.1	1.8
居住地域											
本庁	(217)	47.0	33.2	27.2	16.1	9.2	11.5	18.0	4.6	4.1	4.6
波方	(149)	64.4	28.2	27.5	18.1	9.4	8.7	5.4	3.4	4.7	1.3
大西・菊間	(86)	54.7	26.7	22.1	20.9	8.1	8.1	5.8	4.7	3.5	2.3
朝倉・玉川	(20)	30.0	25.0	40.0	25.0	25.0	15.0	10.0	0.0	0.0	0.0
吉海・宮窪	(98)	62.2	25.5	34.7	13.3	5.1	4.1	3.1	6.1	1.0	2.0
伯方	(128)	64.8	41.4	18.8	19.5	6.3	5.5	4.7	4.7	5.5	1.6
上浦・大三島・関前	(69)	59.4	23.2	20.3	15.9	13.0	1.4	4.3	8.7	2.9	1.4
わからない	(133)	67.7	23.3	20.3	15.8	4.5	7.5	2.3	0.8	0.0	0.0
居住地域(統合)											
本庁	(217)	47.0	33.2	27.2	16.1	9.2	11.5	18.0	4.6	4.1	4.6
その他陸地部	(255)	58.4	27.5	26.7	19.6	10.2	9.0	5.9	3.5	3.9	1.6
島しょ部	(295)	62.7	31.9	24.4	16.6	7.5	4.1	4.1	6.1	3.4	1.7
わからない	(133)	67.7	23.3	20.3	15.8	4.5	7.5	2.3	0.8	0.0	0.0
日本語能力(*)											
聴く・話すともにできる	(250)	51.2	33.6	28.8	19.2	12.8	10.0	13.2	5.6	5.2	2.4
聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	56.8	26.1	26.1	18.2	9.1	3.4	9.1	5.7	6.8	5.7
聴く・話すともに不安あり	(410)	61.7	31.2	20.7	18.0	6.3	7.3	4.9	3.4	1.5	1.2
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	62.5	21.1	30.3	11.2	5.3	7.9	5.3	3.3	2.6	2.0

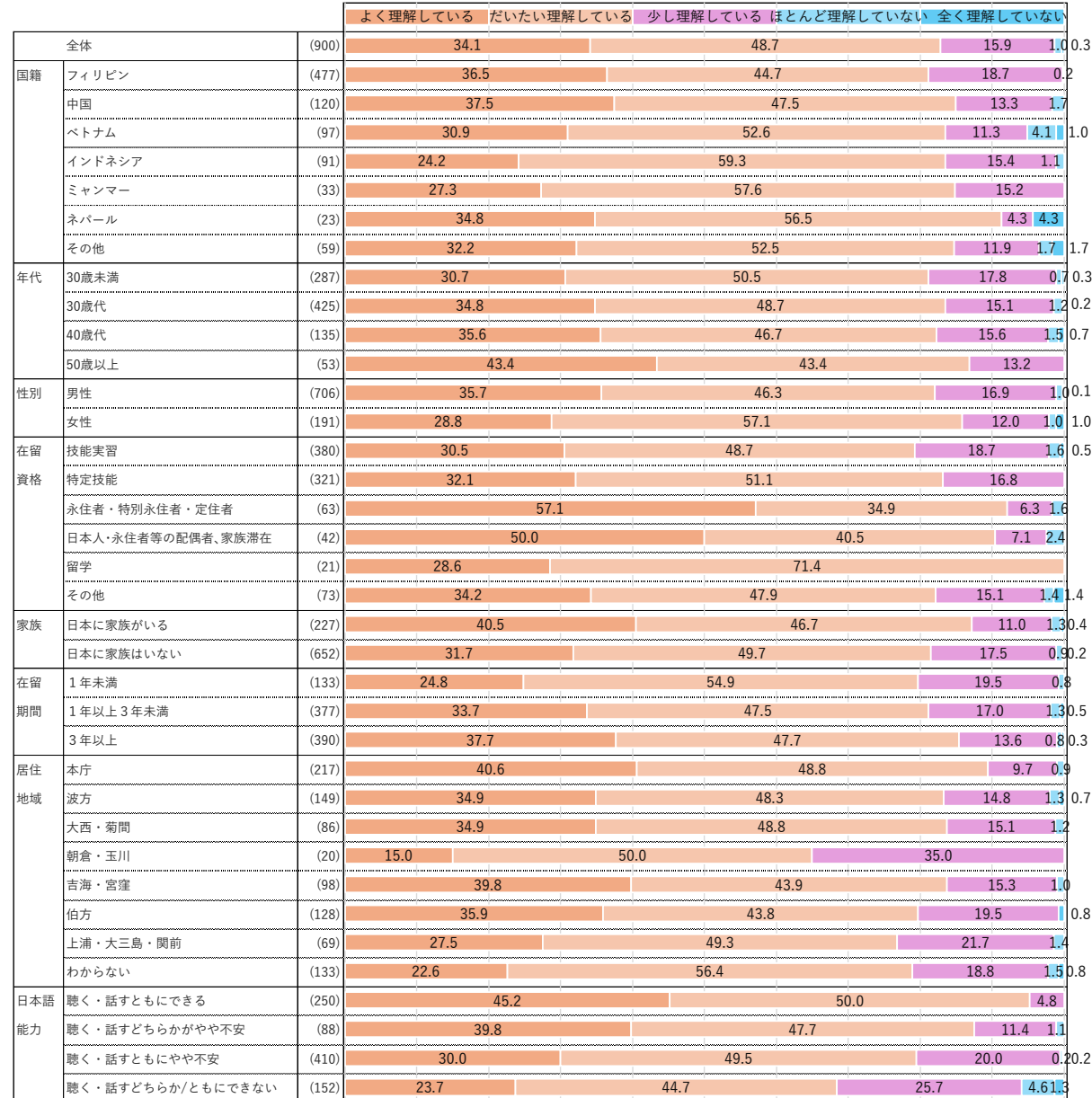
太字は全体より10ポイント以上高い
太字は全体より10ポイント以上低い
太字は全体より20ポイント以上高い
太字は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

ごみ出しルールの理解度

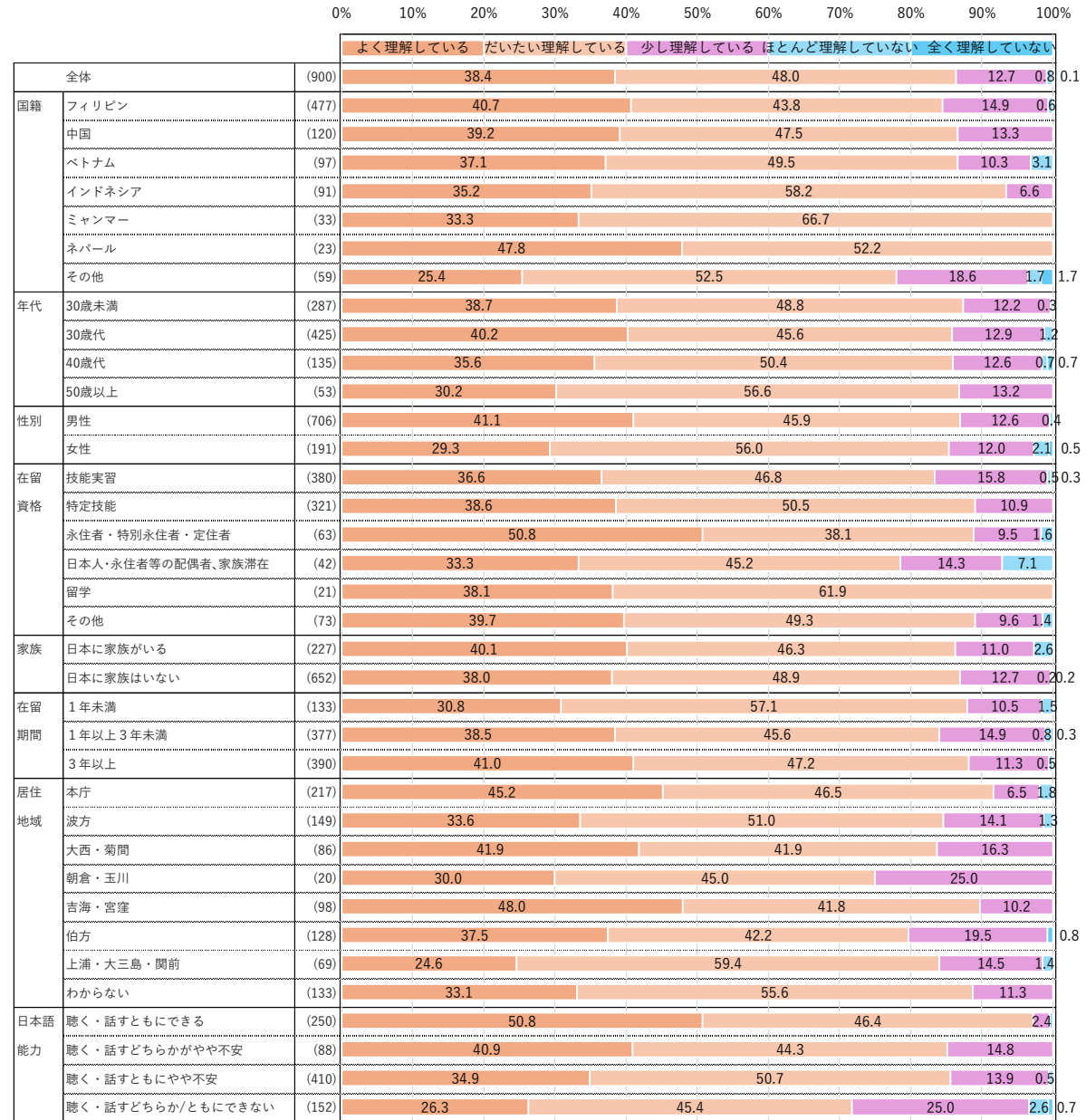
- 「だいたい理解している」以上の回答が8割を超えている。
- 在留資格別では、在留期間が短い技能実習では、やや理解度が低い。
- 日本語能力が乏しいほど、ルールを理解している割合は減少する傾向にある。
- サンプル数が少ないため一概には言えないが、朝倉・玉川エリアでは「だいたい理解している」以上の回答割合がやや低い。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

自転車に乗る時のルールを理解度

- ごみ出しルールと同様、「だいたい理解している」以上の回答は8割を超えている。
- 在留資格別では、日本人・永住者等の配偶者、家族滞在者で「だいたい理解している」以上の回答割合がやや低い。
- 日本語能力が乏しいほど、ルールを理解している割合は減少する傾向にある。

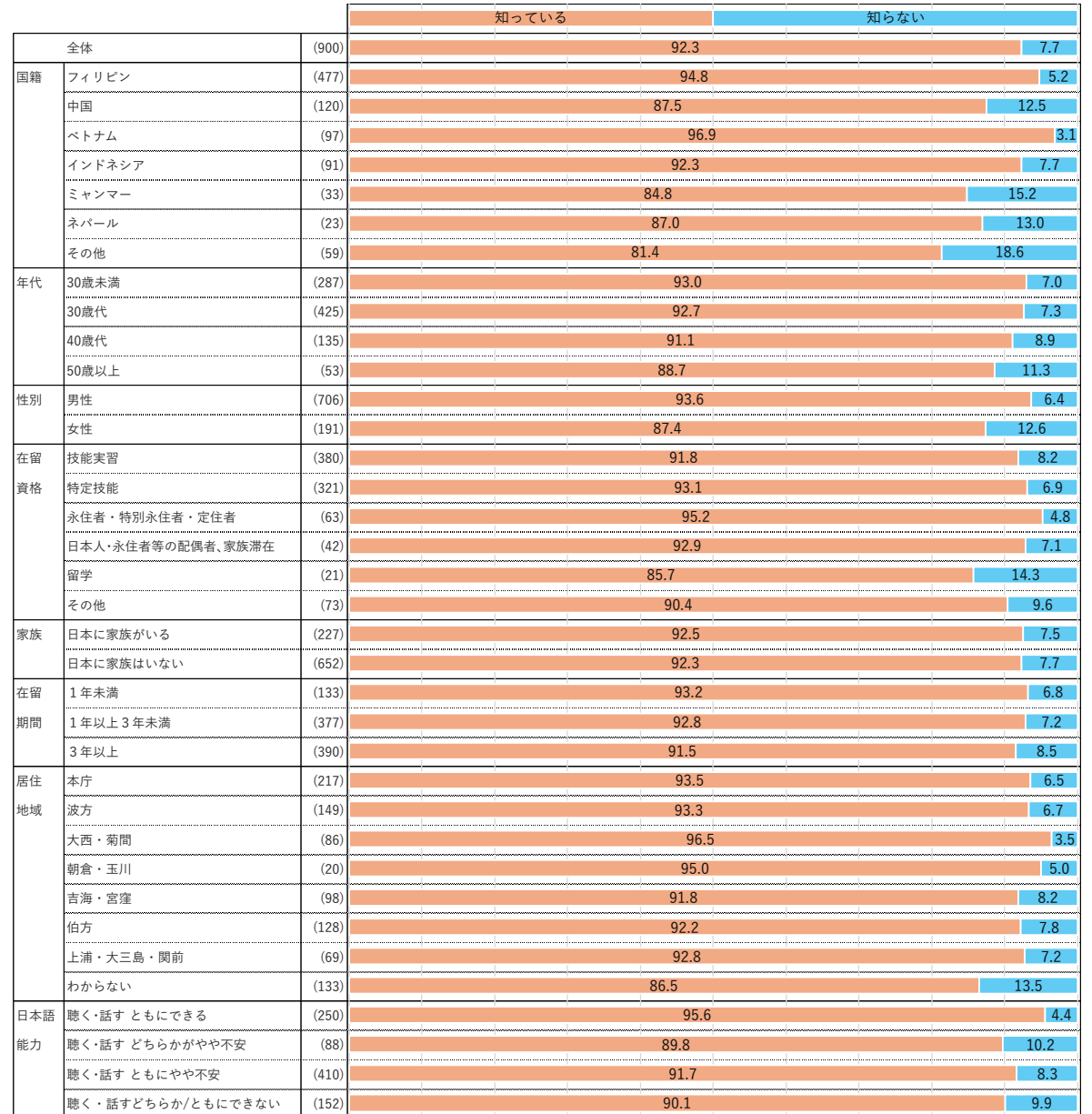


今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

“マナー”の認知度

- 日本では、他人に迷惑が掛からないように法律やルール以外の“マナー”があることを9割以上が認知している（92.3%）。
- 若い世代、在留期間が浅い人ほど“マナー”の認知度は高いが、これは日本に関する情報を入手できるツール（SNS等）が広く普及していることが考えられる。



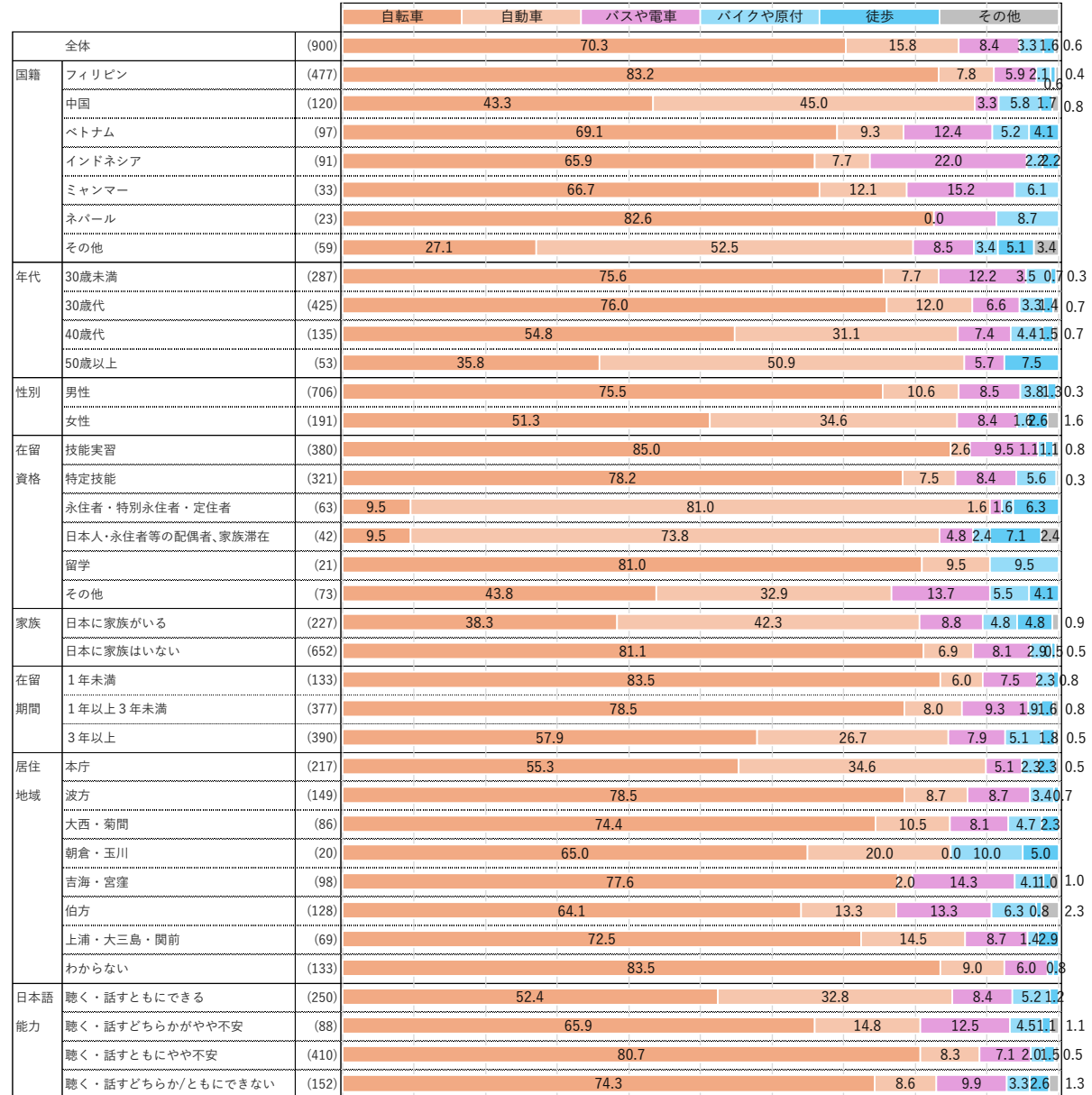
今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

移動手段に関すること

今治市内で最もよく使う移動手段

- 今治市内で最もよく使う移動手段は、自転車の割合が圧倒的に高く（70.3%）、自動車の15.8%が続く。
- 特に、技能実習や特定技能の在留資格者の自転車利用率が高く、在留期間とも連動している。
- 永住者や定住者、日本人・永住者等の配偶者、家族滞在者は自動車の割合が圧倒的に高い。
- 島しょ部では、バスや電車の利用率が他のエリアに比べてやや高いが、これは陸地への移動手段としてバスを利用していることが考えられる。
- 日本語能力が高くなるほど、自動車の利用率が上がる傾向にある。

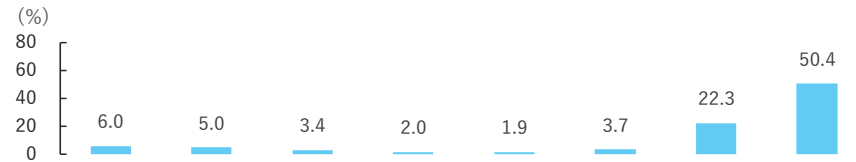


【その他回答】 配偶者の運転

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

車・バイクの運転時に困ったこと

- 日本で車やバイクを運転する時、運転免許の取得手続きの難しさが困ったこととして最も多く挙げられている。「日本でバイクや車を運転しない」人を除く446人を分母とした場合、「運転免許の取得手続きが難しい」は12.1%、「日本の交通ルールが難しい」は10.1%、「車の購入や維持（車検、保険など）が難しい」は7.0%、「駐車場が見つげにくい」は4.0%、「道路標識や表示が理解できない」は3.8%、「その他」は7.4%、「困ったことはない」は45.1%となる。



		(合計)	6.0	5.0	3.4	2.0	1.9	3.7	22.3	50.4
		(合計)	運転免許の取得手続きが難しい	日本の交通ルールが難しい	車の購入や維持(車検、保険など)が難しい	駐車場が見つげにくい	道路標識や表示が理解できない	その他	困ったことはない	日本で車やバイクを運転しない
全体		(900)	6.0	5.0	3.4	2.0	1.9	3.7	22.3	50.4
国籍	フィリピン	(477)	6.3	6.1	4.0	1.0	1.7	3.4	12.8	56.8
	中国	(120)	2.5	2.5	3.3	5.8	0.8	1.7	44.2	34.2
	ベトナム	(97)	6.2	4.1	0.0	0.0	3.1	3.1	27.8	51.5
	インドネシア	(91)	7.7	2.2	1.1	1.1	1.1	4.4	15.4	63.7
	ミャンマー	(33)	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	3.0	42.4	42.4
	ネパール	(23)	13.0	13.0	4.3	4.3	4.3	4.3	39.1	26.1
	その他	(59)	6.8	6.8	8.5	6.8	5.1	10.2	39.0	23.7
年代	30歳未満	(287)	5.6	5.9	3.1	0.3	2.1	4.2	20.2	55.7
	30歳代	(425)	6.4	4.5	3.3	1.6	1.4	3.8	17.6	51.5
	40歳代	(135)	7.4	4.4	5.2	6.7	2.2	3.0	31.1	43.0
	50歳以上	(53)	1.9	5.7	1.9	1.9	3.8	1.9	49.1	32.1
	性別	男性	(706)	6.8	5.4	3.3	2.1	2.0	3.7	18.8
女性	(191)	3.1	3.1	4.2	1.6	1.0	3.7	35.1	43.5	
在留資格	技能実習	(380)	4.5	4.7	1.8	0.3	1.8	3.7	11.6	62.6
	特定技能	(321)	7.8	3.7	2.8	1.6	0.9	3.1	17.8	55.5
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	3.2	6.3	9.5	6.3	3.2	7.9	68.3	6.3
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	0.0	4.8	4.8	7.1	0.0	4.8	50.0	23.8
	留学	(21)	14.3	9.5	4.8	4.8	4.8	0.0	52.4	14.3
その他	(73)	9.6	9.6	8.2	5.5	5.5	2.7	34.2	28.8	
家族構成	日本に家族がいる	(227)	4.0	4.4	5.7	5.7	1.3	6.2	41.4	33.0
	日本に家族はいない	(652)	6.7	5.2	2.6	0.8	2.1	2.8	16.0	56.4
在留期間	1年未満	(133)	9.0	5.3	1.5	0.0	3.0	2.3	15.8	54.1
	1年以上3年未満	(377)	4.8	5.3	4.0	1.3	1.3	3.7	17.5	57.3
	3年以上	(390)	6.2	4.6	3.6	3.3	2.1	4.1	29.2	42.6
居住地域	本庁	(217)	4.6	3.2	6.0	4.1	0.9	4.1	40.1	36.9
	波方	(149)	7.4	2.0	2.7	0.0	0.7	3.4	25.5	53.7
	大西・菊間	(86)	2.3	3.5	2.3	4.7	1.2	7.0	19.8	54.7
	朝倉・玉川	(20)	5.0	5.0	0.0	5.0	0.0	5.0	20.0	60.0
	吉海・宮窪	(98)	11.2	10.2	3.1	2.0	6.1	2.0	10.2	49.0
	伯方	(128)	5.5	5.5	3.1	0.8	2.3	1.6	14.1	58.6
	上浦・大三島・関前	(69)	2.9	7.2	1.4	1.4	0.0	4.3	5.8	63.8
	わからない	(133)	7.5	6.8	3.0	0.0	3.0	3.8	17.3	51.1
	その他	(255)	5.5	2.7	2.4	2.0	0.8	4.7	23.1	54.5
居住地域(統合)	島しょ部	(295)	6.8	7.5	2.7	1.4	3.1	2.4	10.8	56.6
	わからない	(133)	7.5	6.8	3.0	0.0	3.0	3.8	17.3	51.1
	その他	(255)	5.5	2.7	2.4	2.0	0.8	4.7	23.1	54.5
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(250)	6.0	4.4	3.6	4.0	1.6	3.2	40.4	34.0
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	5.7	12.5	3.4	4.5	3.4	6.8	21.6	40.9
	聴く・話すともに不安あり	(410)	6.3	4.4	3.4	0.7	1.5	3.9	15.4	56.8
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	5.3	3.3	3.3	0.7	2.6	2.0	11.8	65.8

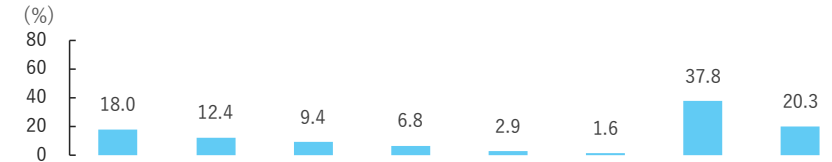
【その他回答】 周りの運転が荒い / 道が狭い / ETCカードの申請が難しい / 職場から運転を禁止されている

は全体より10ポイント以上高い **太字** は全体より20ポイント以上高い
 は全体より10ポイント以上低い **太字** は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

バスや電車の利用時に困ったこと

- 今治市でバスや電車を利用するとき、ルートや乗換の分かりにくさが困ったこととして最も多く挙げられている。「今治市でバスや電車を利用しない」人を除く717人を分母とした場合、「路線や乗り換えが分かりにくい」は22.6%、「運行本数が少ない、時間が不便」は15.6%、「日本語での案内しかなく理解できない」は11.9%、「運賃体系が理解しにくい」は8.5%、「利用方法（ICカード等）が分かりにくい」は3.6%、「その他」は2.0%、「困ったことはない」は47.4%となる。
- インドネシア人は、運行本数の少なさや時間の不便さを選択した割合が高い（34.1%）。インドネシア人は本庁エリアから少し離れた波方や大西エリアなどに居住する割合が高く、中心部への移動の際に不便さを感じていると考えられる。
- 島しょ部では、他のエリアよりも運行本数の少なさや時間の不便さ（9.2%）は気にしていないことがうかがえる。
- 本庁エリアの居住者は、自動車の利用割合が比較的高いこともあり、「バスや電車を利用しない」の割合が高い。
- 本庁エリアの居住者は、運行本数の少なさや時間の不便さに困っている割合がやや高い。
- 日本語能力が低いほど、日本語での案内しかないと不便に感じている。



	(合計)	路線や乗り換えが分かりにくい	運行本数が少ない、時間が不便	日本語での案内しかなく理解できない	運賃体系が理解しにくい	利用方法(ICカード等)が分かりにくい	その他	困ったことはない	今治市でバスや電車を利用しない
全体	(900)	18.0	12.4	9.4	6.8	2.9	1.6	37.8	20.3
国籍									
フィリピン	(477)	22.6	6.3	10.3	8.2	3.1	2.1	37.1	20.3
中国	(120)	6.7	10.8	7.5	4.2	2.5	0.8	37.5	32.5
ベトナム	(97)	13.4	15.5	7.2	3.1	3.1	1.0	41.2	20.6
インドネシア	(91)	12.1	34.1	12.1	3.3	2.2	1.1	37.4	13.2
ミャンマー	(33)	9.1	21.2	9.1	6.1	0.0	0.0	54.5	6.1
ネパール	(23)	39.1	8.7	8.7	8.7	0.0	0.0	39.1	8.7
その他	(59)	16.9	23.7	6.8	11.9	5.1	1.7	28.8	18.6
年代									
30歳未満	(287)	16.4	16.4	7.7	6.3	2.1	1.0	41.5	16.7
30歳代	(425)	18.6	10.4	10.6	7.1	3.5	1.9	35.1	23.1
40歳代	(135)	22.2	9.6	11.1	7.4	3.7	0.7	39.3	17.8
50歳以上	(53)	11.3	15.1	5.7	5.7	0.0	3.8	35.8	24.5
性別									
男性	(706)	19.0	10.3	10.3	7.9	3.5	1.7	37.4	19.7
女性	(191)	13.6	19.9	6.3	2.1	0.5	1.0	39.3	23.0
在留資格									
技能実習	(380)	17.1	11.1	8.9	7.9	2.4	2.4	32.6	24.5
特定技能	(321)	19.9	9.7	9.3	5.0	3.7	0.6	46.1	13.7
永住者・特別永住者・定住者	(63)	9.5	14.3	1.6	4.8	0.0	3.2	39.7	28.6
日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	11.9	11.9	9.5	4.8	2.4	2.4	28.6	38.1
留学	(21)	38.1	28.6	14.3	9.5	4.8	0.0	28.6	9.5
その他	(73)	19.2	26.0	17.8	11.0	4.1	0.0	34.2	13.7
家族構成									
日本に家族がいる	(227)	15.4	17.6	11.9	6.6	1.8	2.2	34.8	22.5
日本に家族はいない	(652)	18.7	10.9	8.4	6.9	3.2	1.4	39.3	19.8
在留期間									
1年未満	(133)	15.0	9.0	7.5	7.5	3.8	1.5	33.8	28.6
1年以上3年未満	(377)	18.0	14.3	11.1	6.1	2.4	1.3	36.3	20.2
3年以上	(390)	19.0	11.8	8.5	7.2	3.1	1.8	40.5	17.7
居住地									
本庁	(217)	12.0	20.7	8.3	4.1	2.3	0.5	33.6	29.0
波方	(149)	12.1	12.1	7.4	3.4	2.7	1.3	49.7	15.4
大西・菊間	(86)	18.6	9.3	8.1	9.3	5.8	3.5	36.0	20.9
朝倉・玉川	(20)	5.0	5.0	10.0	10.0	0.0	5.0	35.0	30.0
吉海・宮窪	(98)	22.4	11.2	9.2	10.2	4.1	5.1	31.6	21.4
伯方	(128)	20.3	7.8	12.5	10.2	0.8	0.8	36.7	15.6
上浦・大三島・関前	(69)	20.3	8.7	5.8	2.9	2.9	1.4	42.0	15.9
わからない	(133)	29.3	9.8	13.5	9.0	3.8	0.0	36.1	15.8
居住地(統合)									
本庁	(217)	12.0	20.7	8.3	4.1	2.3	0.5	33.6	29.0
その他陸地部	(255)	13.7	10.6	7.8	5.9	3.5	2.4	43.9	18.4
島しょ部	(295)	21.0	9.2	9.8	8.5	2.4	2.4	36.3	17.6
わからない	(133)	29.3	9.8	13.5	9.0	3.8	0.0	36.1	15.8
日本語能力(*)									
聴く・話すともにできる	(250)	15.2	18.0	6.4	4.8	3.2	0.8	48.0	14.8
聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	25.0	14.8	8.0	5.7	2.3	1.1	39.8	11.4
聴く・話すともに不安あり	(410)	20.0	10.0	10.5	7.8	3.4	2.4	32.9	22.4
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	13.2	8.6	12.5	7.9	1.3	0.7	32.9	28.9

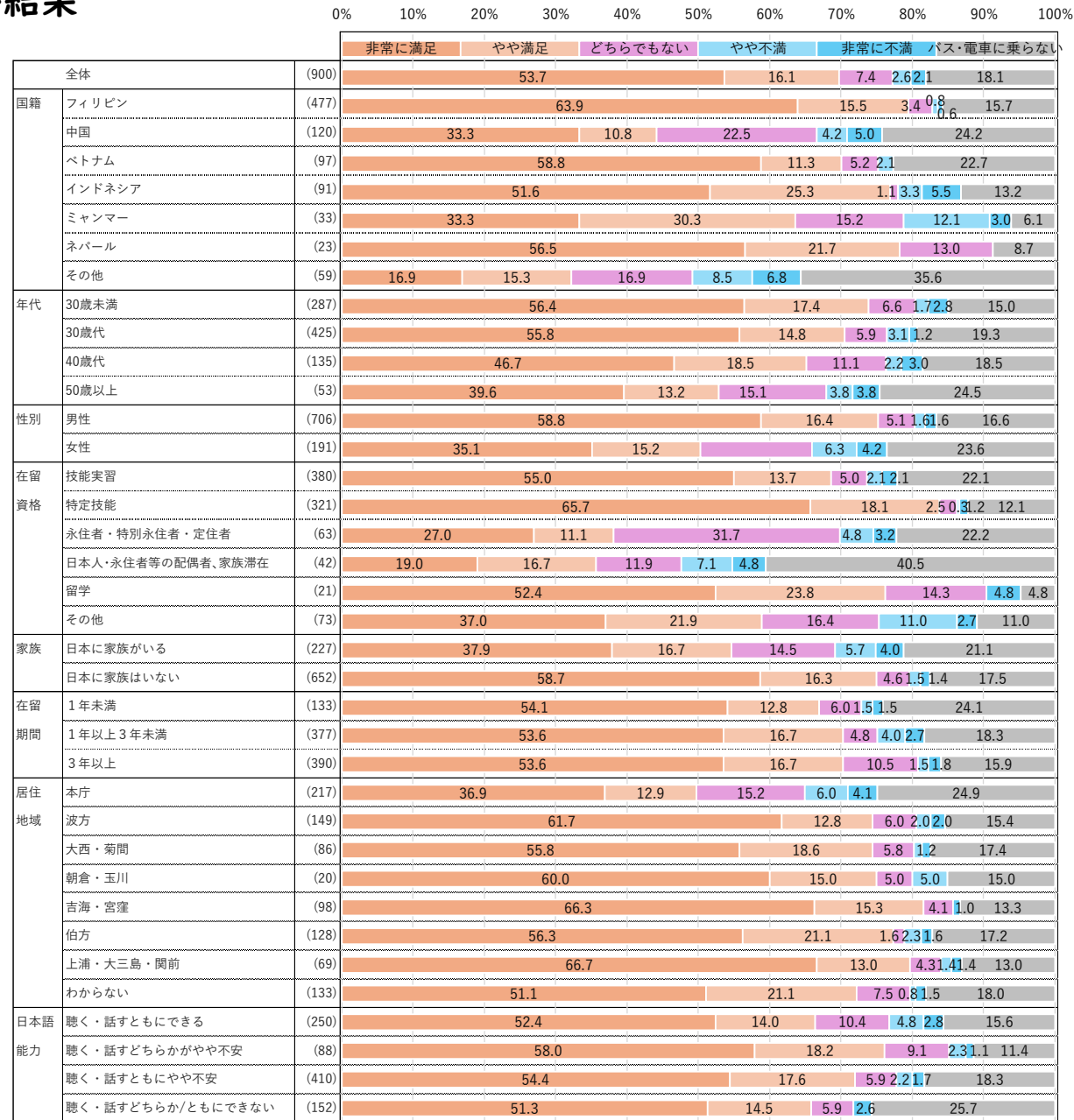
【その他回答】 バスが通っていない / 今治駅のみどりの窓口が早朝開いていない / ほとんど乗らない / バスの乗り方は少し理解できた

太字 は全体より10ポイント以上高い
太字 は全体より20ポイント以上高い
太字 は全体より20ポイント以上低い

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

公共交通機関の満足度

- 今治市のバスや電車については、約7割が満足している（「非常に満足+やや満足」）。「バス・電車に乗らない」人を除く737人を分母とした場合、「非常に満足」は65.5%、「やや満足」は19.7%、「どちらでもない」は9.1%、「やや不満」は3.1%、「非常に不満」は2.6%となる。
- 中国人で公共交通感を利用しない割合が高いのは自動車を利用する割合が高いため、ベトナム人が利用しないのは自転車を主な手段としているためである。
- 女性の公共交通機関に対する満足度は、男性に比べるとやや低い。
- 自動車の利用が多い本庁エリアの居住者や永住者等とその配偶者等は、「バス・電車に乗らない」割合が高い。公共交通機関を利用する人でも、満足度は他のエリアに比べやや低くなっている。
- 日本語能力が低い人の「乗らない」の割合が高い傾向にある。日本語での表示しかないと障害となっている可能性がある。



今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

		休みの日はいつも	週に数回程度	月に数回程度	ほとんど出かけない	全く出かけない	
全体	(900)	22.7	21.7	30.3	24.3	1.0	
国籍	フィリピン	(477)	18.0	19.3	33.5	28.3	0.8
	中国	(120)	30.0	20.8	16.7	30.8	1.7
	ベトナム	(97)	28.9	25.8	29.9	15.5	
	インドネシア	(91)	24.2	26.4	30.8	17.6	1.1
	ミャンマー	(33)	27.3	30.3	30.3	12.1	
	ネパール	(23)	34.8	30.4	26.1	8.7	
	その他	(59)	25.4	20.3	33.9	16.9	3.4
年代	30歳未満	(287)	22.0	24.4	31.4	21.3	1.0
	30歳代	(425)	22.6	20.5	31.3	24.7	0.9
	40歳代	(135)	23.7	20.0	28.1	26.7	1.5
	50歳以上	(53)	24.5	20.8	22.6	32.1	
	性別						
	男性	(706)	22.5	21.5	30.0	25.4	0.6
	女性	(191)	22.5	22.5	31.4	20.9	2.6
在留資格	技能実習	(380)	20.8	20.5	28.2	28.9	1.6
	特定技能	(321)	18.7	21.8	32.4	26.5	0.6
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	39.7	22.2	27.0	11.1	
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	26.2	26.2	35.7	11.9	
	留学	(21)	28.6	28.6	33.3	4.8	4.8
	その他	(73)	31.5	21.9	31.5	15.1	
家族	日本に家族がいる	(227)	30.0	21.6	30.4	17.6	0.4
	日本に家族はいない	(652)	20.4	21.2	30.7	26.5	1.2
在留期間	1年未満	(133)	24.1	21.1	26.3	27.8	0.8
	1年以上3年未満	(377)	25.2	22.3	27.9	23.3	1.3
	3年以上	(390)	19.7	21.3	34.1	24.1	0.8
居住地域	本庁	(217)	30.0	24.4	27.2	18.4	
	波方	(149)	32.9	24.8	26.8	15.4	
	大西・菊間	(86)	19.8	22.1	41.9	14.0	2.3
	朝倉・玉川	(20)	25.0	35.0	20.0	20.0	
	吉海・宮窪	(98)	13.3	24.5	31.6	30.6	
	伯方	(128)	9.4	10.2	35.2	42.2	3.1
	上浦・大三島・関前	(69)	15.9	11.6	37.7	30.4	4.3
	わからない	(133)	24.1	25.6	24.1	26.3	
	日本語能力						
	聴く・話すともにできる	(250)	29.2	30.0	23.2	17.2	0.4
	聴く・話すどちらかがやや不安	(88)	26.1	15.9	33.0	21.6	3.4
	聴く・話すともにやや不安	(410)	17.3	21.5	34.9	25.4	1.0
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	24.3	11.8	28.3	34.9	0.7

休日の過ごし方

外出頻度

- 休日の外出頻度は「月に数回程度」（30.3%）が最も多いが、「休みの日はいつも」（22.7%）「週に数回程度」（21.7%）「ほとんど出かけない」（24.3%）と大きな差はない。
- 国籍別にみると、中国、フィリピン人の外出頻度が他国籍者に比べやや低い。中国人は家族とのんびり過ごす時間に充てていること、フィリピン人は島しょ部に在住している割合が高いことが要因として考えられる。
- 在留資格別では、技能実習と特定技能で外出頻度が少ない。単身で在留している人が多いため、外出の目的が少ない、仕事の疲れを癒すといった理由から外出頻度を抑えているのかもしれない。
- 日本語能力に長ける層は積極的に外出し、島しょ部に居住する層は出かける頻度が少ない傾向にある。

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

出かける地域

- 休日に主に出かける地域は今治市内が7割を超え、県外まで出かける割合は5.4%にとどまる。
- 女性の方が男性に比べて広範囲に出かけている。
- 在留期間が長い、日本語能力に長ける層ほど活動範囲が広がっていく傾向にある。
- 日本語能力に長ける層は今治市外に出かける割合が比較的高く、島しょ部に居住する層は出かける割合が他の居住地に比べ高い。
- 上浦・大三島・関前居住者が、他のエリアに比べ県外に出かける割合がやや高いのは、広島方面へ行くことが多いと思われる。

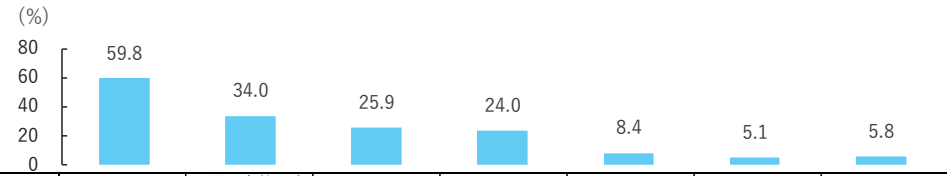
		今治市内	愛媛県内(今治・松山以外)	松山市内	愛媛県外	不明	
全体	(900)	73.7	12.4	6.0	5.4	2.4	
国籍	フィリピン	(477)	77.4	13.6	2.9	4.4	1.7
	中国	(120)	69.2	8.3	9.2	7.5	5.8
	ベトナム	(97)	66.0	20.6	5.2	5.2	3.1
	インドネシア	(91)	75.8	6.6	11.0	6.6	
	ミャンマー	(33)	63.6	12.1	18.2	6.1	
	ネパール	(23)	78.3		17.4	4.3	
	その他	(59)	66.1	11.9	6.8	10.2	5.1
年代	30歳未満	(287)	72.1	12.5	7.0	7.3	1.0
	30歳代	(425)	76.5	11.8	4.7	4.0	3.1
	40歳代	(135)	69.6	14.1	6.7	6.7	3.0
	50歳以上	(53)	69.8	13.2	9.4	3.8	3.8
性別	男性	(706)	75.5	13.3	4.5	4.4	2.3
	女性	(191)	67.5	8.4	11.5	9.4	3.1
在留資格	技能実習	(380)	76.1	13.2	3.9	4.5	2.4
	特定技能	(321)	77.3	11.2	4.0	5.0	2.5
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	66.7	9.5	14.3	7.9	1.6
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	64.3	16.7	4.8	11.9	2.4
	留学	(21)	76.2		19.0	4.8	
	その他	(73)	56.2	17.8	15.1	8.2	2.7
家族	日本に家族がいる	(227)	65.6	12.3	12.3	7.5	2.2
	日本に家族はいない	(652)	76.8	12.6	4.0	4.6	2.0
在留期間	1年未満	(133)	77.4	8.3	6.0	4.5	3.8
	1年以上3年未満	(377)	73.7	13.5	6.4	5.0	1.3
	3年以上	(390)	72.3	12.8	5.6	6.2	3.1
居住地	本庁	(217)	71.9	12.4	7.8	5.5	2.3
	波方	(149)	78.5	10.7	4.0	5.4	1.3
	大西・菊間	(86)	72.1	12.8	10.5	2.3	2.3
	朝倉・玉川	(20)	70.0	20.0	5.0	5.0	
	吉海・宮窪	(98)	77.6	12.2	2.0	4.1	4.1
	伯方	(128)	75.0	13.3	0.8	6.3	4.7
	上浦・大三島・関前	(69)	59.4	23.2	1.4	14.5	1.4
	わからない	(133)	75.9	6.8	12.8	3.8	0.8
日本語能力	聴く・話すともにできる	(250)	68.0	12.4	9.2	7.6	2.8
	聴く・話すどちらかがやや不安	(88)	71.6	9.1	10.2	6.8	2.3
	聴く・話すともにやや不安	(410)	76.6	12.7	4.9	3.7	2.2
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	76.3	13.8	1.3	5.9	2.6

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

休日の主な活動

- ・ 休日の主な活動で最も多かったのは「ショッピング・買物」の59.8%で、「公園や自然の中でのんびり過ごす」の34.0%が続く。
- ・ 国籍別では、中国、インドネシア、ミャンマー人でショッピング・買物の割合が高い。
- ・ インドネシア人はアクティビティ、ネパール人はスポーツ観戦の割合が他に比べ高い。
- ・ 島しょ部では、いずれの項目も他のエリアに比べ割合がやや低い傾向にある。「その他」の回答として挙げられていたのが「サイクリング」や「釣り」で、“島ならではの”の休日を過ごす人も複数みられた。
- ・ 日本語能力に不安がある層は「なにもしない」割合がやや高い傾向にある。

【その他回答】 家事 / 釣り / 教会のミサ / ガーデニング / サイクリング / 日本語のレッスン（復習）

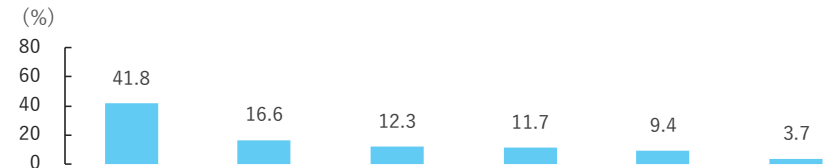


	(合計)	ショッピング・買物	公園や自然の中でのんびり過ごす	観光名所へ行く	いろいろなアクティビティ	スポーツ観戦	その他	なにもしない
全体	(900)	59.8	34.0	25.9	24.0	8.4	5.1	5.8
国籍								
フィリピン	(477)	50.1	37.1	28.5	23.1	5.5	5.7	6.1
中国	(120)	80.0	30.0	25.0	10.0	3.3	4.2	7.5
ベトナム	(97)	54.6	24.7	15.5	25.8	16.5	1.0	7.2
インドネシア	(91)	81.3	36.3	27.5	48.4	15.4	4.4	3.3
ミャンマー	(33)	87.9	33.3	27.3	12.1	9.1	3.0	0.0
ネパール	(23)	65.2	26.1	17.4	26.1	30.4	0.0	0.0
その他	(59)	54.2	32.2	23.7	25.4	10.2	13.6	6.8
年代								
30歳未満	(287)	63.1	35.2	29.3	28.9	12.2	3.8	5.2
30歳代	(425)	55.3	31.1	23.5	21.9	6.4	4.5	5.6
40歳代	(135)	63.7	38.5	25.9	21.5	10.4	6.7	6.7
50歳以上	(53)	67.9	39.6	26.4	20.8	0.0	13.2	7.5
性別								
男性	(706)	55.8	34.8	26.3	24.6	9.6	5.1	5.2
女性	(191)	74.9	30.9	24.1	21.5	4.2	5.2	7.9
在留資格								
技能実習	(380)	58.7	31.8	22.1	22.9	7.1	3.7	6.1
特定技能	(321)	53.0	32.7	24.9	22.4	7.8	5.3	6.5
永住者・特別永住者・定住者	(63)	74.6	50.8	38.1	23.8	9.5	14.3	4.8
日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	76.2	40.5	31.0	26.2	7.1	11.9	2.4
留学	(21)	66.7	19.0	23.8	33.3	28.6	0.0	0.0
その他	(73)	71.2	37.0	37.0	32.9	12.3	1.4	5.5
家族構成								
日本に家族がいる	(227)	67.8	37.4	32.2	26.4	8.8	7.5	4.8
日本に家族はいない	(652)	57.4	32.8	24.1	23.2	8.4	4.4	6.1
在留期間								
1年未満	(133)	50.4	29.3	25.6	30.8	6.8	1.5	8.3
1年以上3年未満	(377)	60.5	35.5	25.7	22.3	9.0	4.8	5.6
3年以上	(390)	62.3	34.1	26.2	23.3	8.5	6.7	5.1
居住地域								
本庁	(217)	65.9	38.2	25.8	22.1	9.2	4.1	6.9
波方	(149)	64.4	35.6	33.6	29.5	12.1	4.0	3.4
大西・菊間	(86)	58.1	37.2	24.4	37.2	8.1	2.3	2.3
朝倉・玉川	(20)	60.0	30.0	30.0	20.0	10.0	0.0	5.0
吉海・宮窪	(98)	56.1	27.6	21.4	20.4	9.2	7.1	6.1
伯方	(128)	49.2	31.3	23.4	20.3	7.0	8.6	11.7
上浦・大三島・関前	(69)	44.9	23.2	23.2	26.1	5.8	8.7	2.9
わからない	(133)	66.2	36.8	24.8	18.0	5.3	3.8	4.5
居住地域(統合)								
本庁	(217)	65.9	38.2	25.8	22.1	9.2	4.1	6.9
その他陸地部	(255)	62.0	35.7	30.2	31.4	10.6	3.1	3.1
島しょ部	(295)	50.5	28.1	22.7	21.7	7.5	8.1	7.8
わからない	(133)	66.2	36.8	24.8	18.0	5.3	3.8	4.5
日本語能力(*)								
聴く・話すともにできる	(250)	71.2	33.2	25.6	22.8	11.6	5.2	4.4
聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	54.5	34.1	23.9	33.0	10.2	2.3	6.8
聴く・話すともに不安あり	(410)	51.7	35.6	28.3	25.4	7.3	6.6	5.9
聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	65.8	30.9	21.1	17.1	5.3	2.6	7.2
		は全体より10ポイント以上高い		太字	は全体より20ポイント以上高い			
		は全体より10ポイント以上低い		太字	は全体より20ポイント以上低い			

今治市多文化共生社会調査 アンケート結果

あればうれしいイベント

- あればうれしいイベントは「グルメ」が最も多く41.8%で、スポーツやサイクリングなどのアクティビティ関連が16.6%で続く。
- 在留期間が浅い層はアートや音楽など芸術関連のイベントを望む回答が他の層よりもやや多い。
- 留学生や女性、日本語能力に不安がある層はグルメを楽しめるイベントを好む傾向がみられる。



		(合計)	美味しいグルメが楽しめるイベント	スポーツやサイクリングが楽しめるイベント	日本の伝統芸能が楽しめるイベント	母国や国際色を感じられるイベント	アートや音楽が楽しめるイベント	その他
全体		(900)	41.8	16.6	12.3	11.7	9.4	3.7
国籍	フィリピン	(477)	42.1	18.2	14.3	11.7	7.5	2.7
	中国	(120)	48.3	12.5	7.5	7.5	8.3	4.2
	ベトナム	(97)	34.0	11.3	18.6	14.4	14.4	6.2
	インドネシア	(91)	38.5	22.0	12.1	11.0	9.9	4.4
	ミャンマー	(33)	48.5	12.1	6.1	15.2	15.2	0.0
	ネパール	(23)	60.9	13.0	0.0	17.4	8.7	0.0
	その他	(59)	32.2	15.3	5.1	11.9	15.3	8.5
年代	30歳未満	(287)	40.1	17.4	11.8	13.9	11.5	3.5
	30歳代	(425)	40.2	16.9	14.6	11.5	6.8	3.8
	40歳代	(135)	50.4	15.6	7.4	7.4	13.3	1.5
	50歳以上	(53)	41.5	11.3	9.4	11.3	9.4	9.4
	性別	男性	(706)	38.0	19.4	13.3	11.6	9.9
	女性	(191)	56.5	5.8	8.9	11.0	7.9	4.7
在留資格	技能実習	(380)	41.8	16.6	11.3	11.8	9.2	4.2
	特定技能	(321)	38.0	18.7	15.6	10.9	9.0	3.4
	永住者・特別永住者・定住者	(63)	50.8	11.1	6.3	6.3	14.3	4.8
	日本人・永住者等の配偶者、家族滞在	(42)	57.1	7.1	9.5	9.5	7.1	4.8
	留学	(21)	61.9	19.0	4.8	14.3	0.0	0.0
	その他	(73)	35.6	16.4	12.3	19.2	12.3	1.4
家族構成	日本に家族がいる	(227)	46.3	10.6	13.2	12.3	8.8	4.4
	日本に家族はいない	(652)	40.5	18.9	12.1	11.2	9.8	3.5
在留期間	1年未満	(133)	33.8	16.5	13.5	12.8	16.5	3.0
	1年以上3年未満	(377)	43.8	19.1	11.1	9.8	8.5	3.7
	3年以上	(390)	42.6	14.1	13.1	13.1	7.9	3.8
居住地域	本庁	(217)	45.6	12.4	11.1	13.8	9.2	3.2
	波方	(149)	37.6	24.2	12.1	10.7	10.1	2.7
	大西・菊間	(86)	39.5	12.8	12.8	12.8	16.3	1.2
	朝倉・玉川	(20)	55.0	10.0	15.0	10.0	5.0	5.0
	吉海・宮窪	(98)	46.9	12.2	11.2	9.2	6.1	7.1
	伯方	(128)	35.2	18.0	18.0	7.8	8.6	5.5
	上浦・大三島・関前	(69)	34.8	26.1	14.5	8.7	7.2	5.8
	わからない	(133)	45.9	15.0	8.3	15.8	9.8	1.5
	居住地域(統合)	本庁	(217)	45.6	12.4	11.1	13.8	9.2
	その他陸地部	(255)	39.6	19.2	12.5	11.4	11.8	2.4
	島しょ部	(295)	39.0	18.0	14.9	8.5	7.5	6.1
	わからない	(133)	45.9	15.0	8.3	15.8	9.8	1.5
日本語能力(*)	聴く・話すともにできる	(250)	43.6	19.6	11.2	8.8	10.0	2.8
	聴く・話すどちらかに不安あり	(88)	35.2	20.5	11.4	10.2	11.4	5.7
	聴く・話すともに不安あり	(410)	37.3	15.4	14.6	14.4	9.5	4.4
	聴く・話すどちらか/ともにできない	(152)	54.6	12.5	8.6	9.9	7.2	2.0

は全体より10ポイント以上高い
は全体より10ポイント以上低い

太字 は全体より20ポイント以上高い
太字 は全体より20ポイント以上低い

【その他回答】 動物とのふれあい / 花火大会 / 日本映画上映会 / 釣り大会

2 今治市多文化共生アンケート【自治会向け】

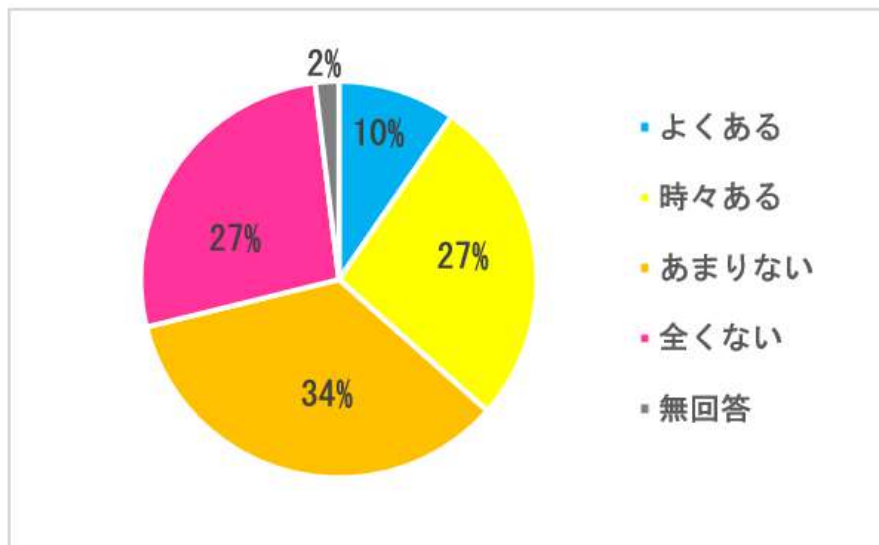
1 実施概要

- 実施日 : 令和7年7月22日(火)
令和7年度今治市連合自治会夏季理事会の出席者 72人に配布
- 回答件数 : 52件 (回答率72.2%)

○問1 貴自治会では外国人の方と顔を合わせる機会がありますか？

選択肢	回答数
よくある	5
時々ある	14
あまりない	18
全くない	14
無回答	1

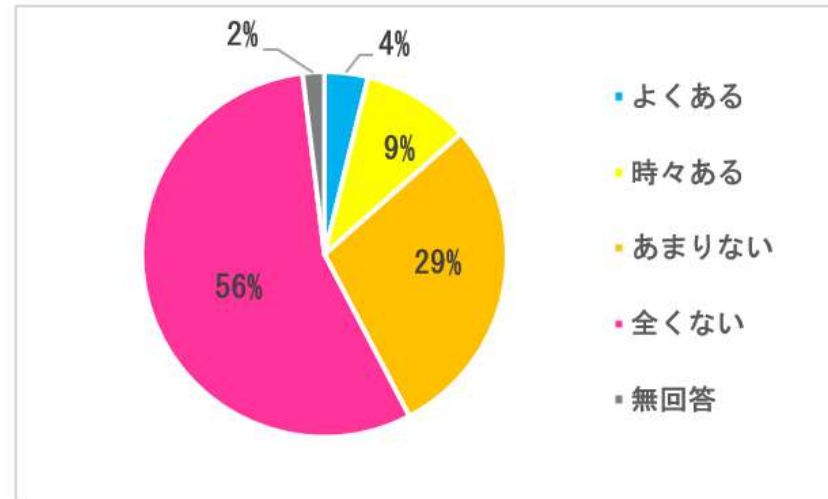
計 52



○問2 貴自治会では外国人の方との交流活動はありますか？

選択肢	回答数
よくある	2
時々ある	5
あまりない	15
全くない	29
無回答	1

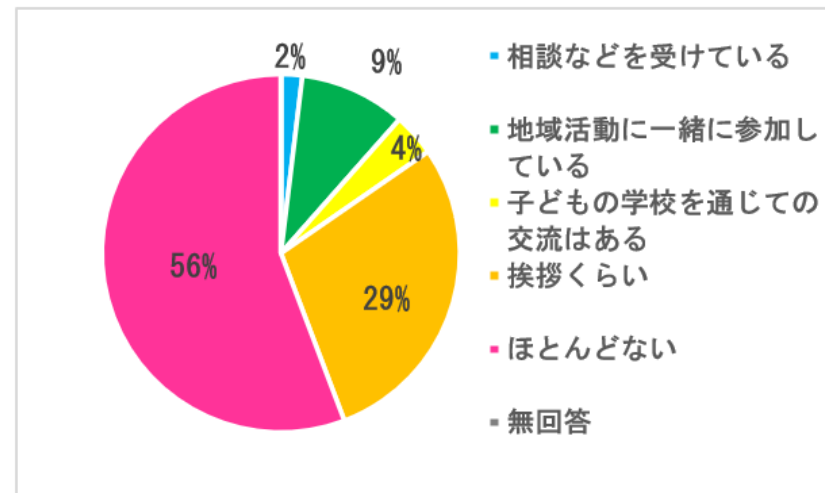
計 52



○問3 外国人住民との付き合いの程度について、最も近いものを一つ教えてください。

選択肢	回答数
相談などを受けている	1
地域活動と一緒に参加している	5
子どもの学校を通じての交流はある	2
挨拶くらい	15
ほとんどない	29
無回答	0

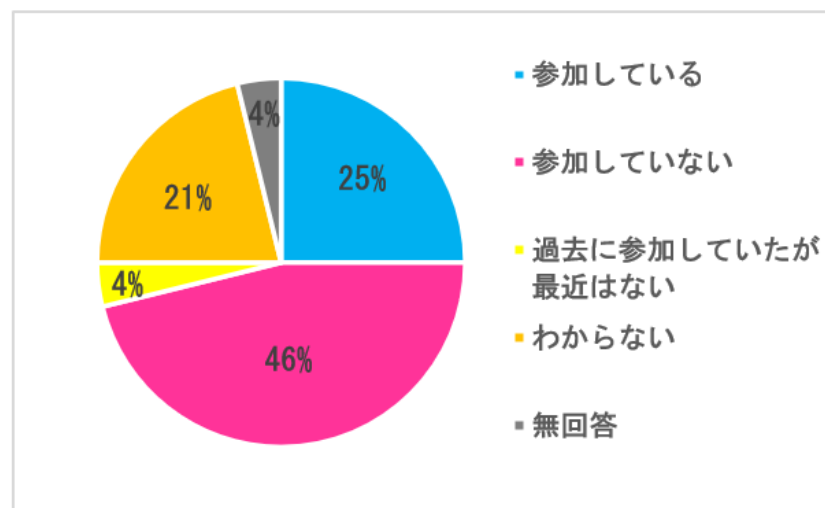
計 52



○問4 自治会のイベントに外国人は参加していますか？

選択肢	回答数
参加している	13
参加していない	24
過去に参加していたが最近はない	2
わからない	11
無回答	2

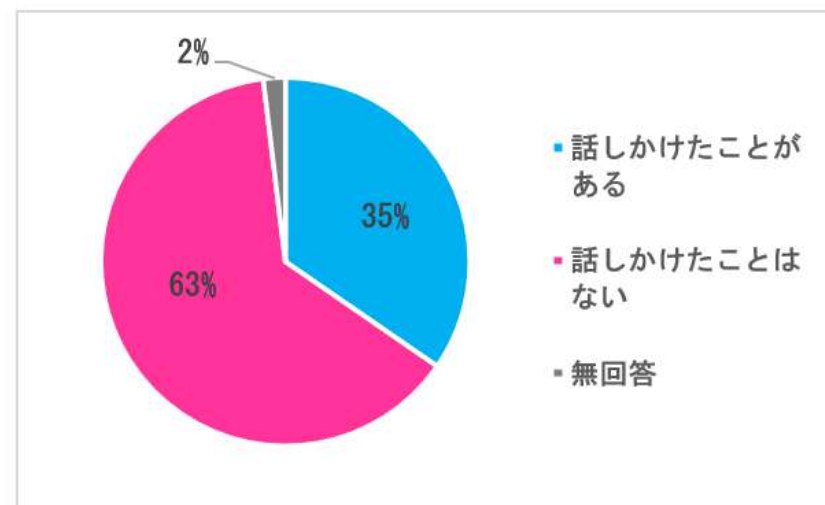
計 52



○問5 自分から、地区に住んでいる外国人に、話しかけたことがありますか。

選択肢	回答数
話しかけたことがある	18
話しかけたことはない	33
無回答	1

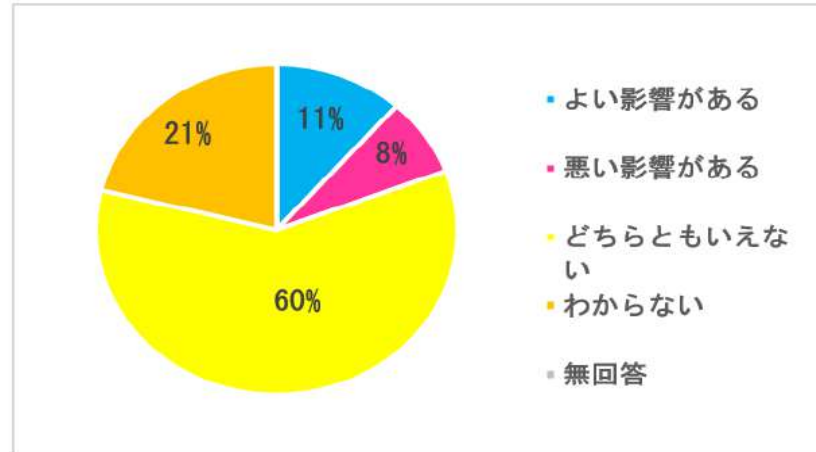
計 52



○問6-1 外国人が増えることについてどのような影響があると思いますか？

選択肢	回答数
よい影響がある	6
悪い影響がある	4
どちらともいえない	31
わからない	11
無回答	0

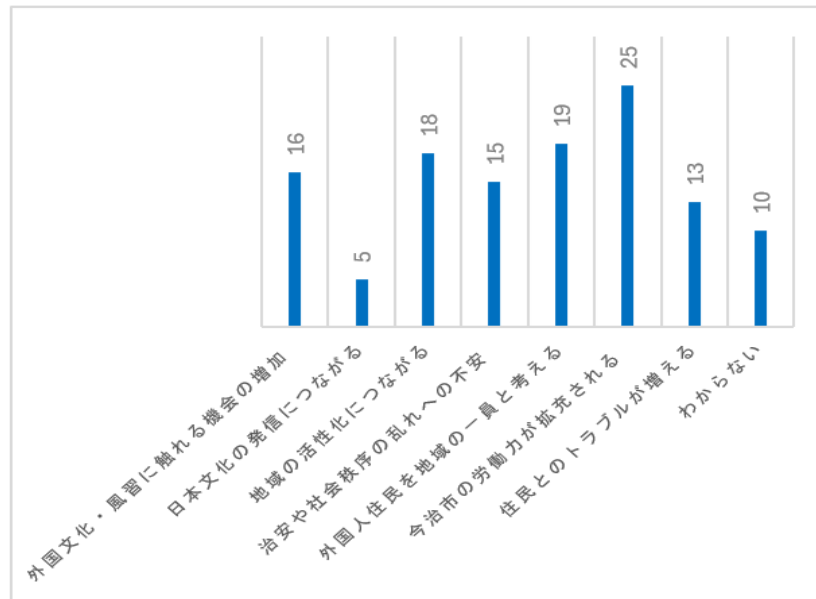
計 52



○問6-2 今後、外国人住民が増えるとどのような状況になるとと思いますか？（複数回答可）

選択肢	回答数
外国文化・風習に触れる機会の増加	16
日本文化の発信につながる	5
地域の活性化につながる	18
治安や社会秩序の乱れへの不安	15
外国人住民を地域の一員と考える	19
今治市の労働力が拡充される	25
住民とのトラブルが増える	13
わからない	10

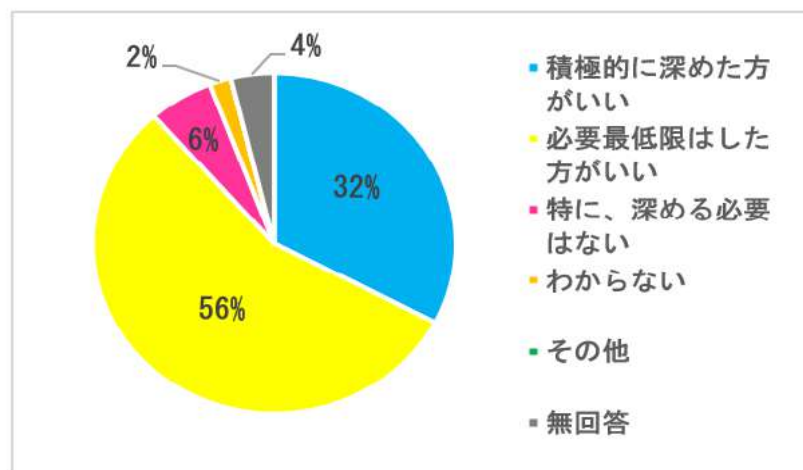
計 121



○問7 外国人住民との関わりは深めるべきだと思いますか？

選択肢	回答数
積極的に深めた方がいい	17
必要最低限はした方がいい	29
特に、深める必要はない	3
わからない	1
その他	0
無回答	2

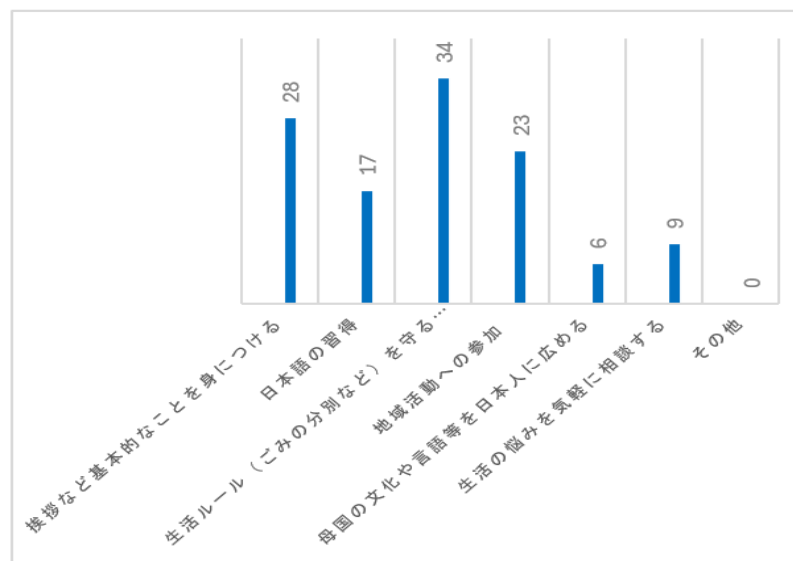
計 52



○問8 外国人住民に求めることは何ですか？（複数回答可）

選択肢	回答数
挨拶など基本的なことを身につける	28
日本語の習得	17
生活ルール（ごみの分別など）を守ること	34
地域活動への参加	23
母国の文化や言語等を日本人に広める	6
生活の悩みを気軽に相談する	9
その他	0

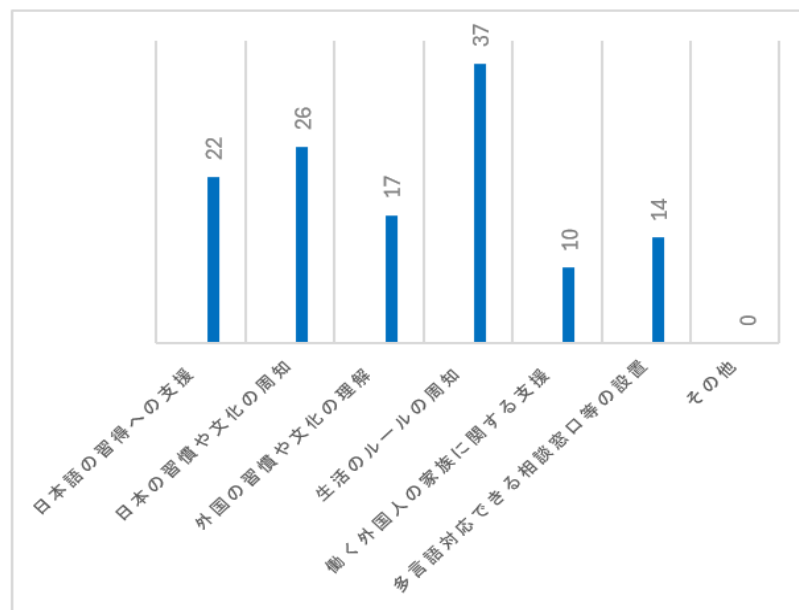
計 117



○問9 地域に外国人が居住するのに必要と考えることは何ですか？（複数回答可）

選択肢	回答数
日本語の習得への支援	22
日本の習慣や文化の周知	26
外国の習慣や文化の理解	17
生活のルールの周知	37
働く外国人の家族に関する支援	10
多言語対応できる相談窓口等の設置	14
その他	0

計 126



○問10 外国人住民に関して、何かございましたら、自由に記載ください。

（例：困ったこと、うまくいった事例など）

ゴミの分別方法

近隣に外国の方々が出て、会ったときはあいさつをしています。男性3人。個人的には、もっと関わりを深めたいです。逆に近隣の若い方（日本人）がその外国の方を嫌う（勤務先に文句を言う）人がいて、困っています。

最初は思いが伝わらなかったけど、一度思いが伝わったら、ジェスチャーを交えながら、なんとなく分かりました。

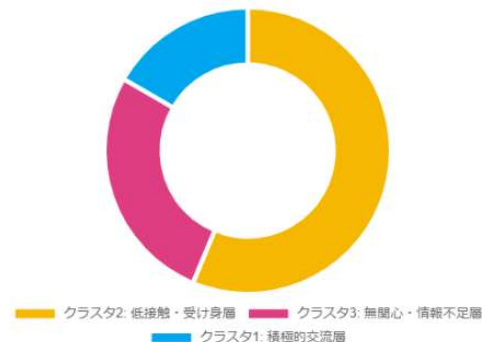
最近、民家を購入した外国の方がいますが、まだ住んでいません。よい関係になるよう努めたいと思います。

2 分析

浮かび上がった3つの意識グループ

今治市の自治会役員の皆様の回答を分析した結果、外国人住民との関わり方や意識において、大きく3つの特徴的なグループ（クラスタ）に分類されることが明らかになりました。このインフォグラフィックでは、それぞれのグループの姿を詳しく見ていきます。

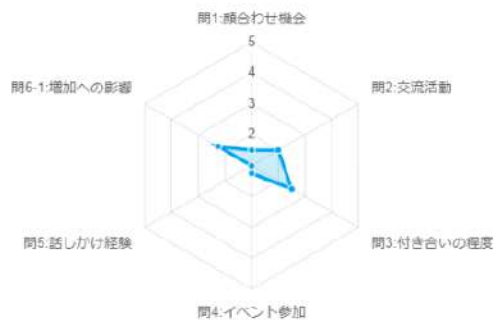
自治会役員のクラスタ構成 (51名)



クラスタ1: 積極的交流層

8名 (15.7%)

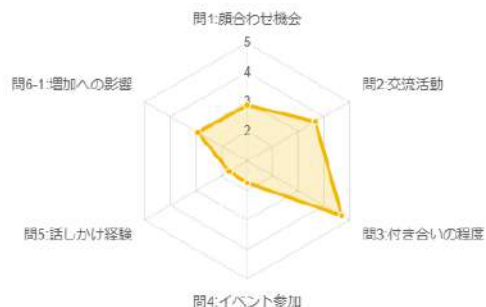
外国人住民との交流に最も積極的で、多文化共生に肯定的な少数派グループ。自ら話しかけた経験があり、イベントへの参加も「している」と認識しています。



クラスタ2: 低接触・受け身層

27名 (52.9%) - 最多数派

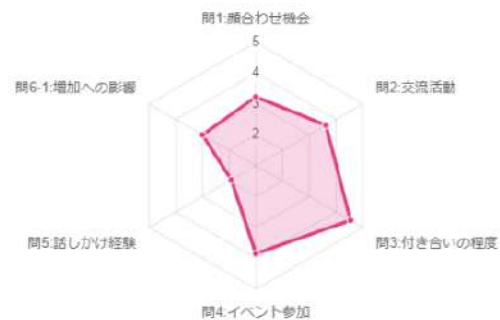
外国人住民との接触や交流が少なく、関与に受け身な最大グループ。現状維持を望む傾向があり、多文化共生への具体的なイメージが湧いていない可能性があります。



クラスタ3: 無関心・情報不足層

13名 (25.5%)

接触が少ない点はクラスタ2と共通ですが、イベント参加状況を「わからない」と回答するなど、情報不足や無関心が特徴のグループです。



浮かび上がった3つの意識グループ

今治市の自治会役員の皆様の回答を分析した結果、外国人住民との関わり方や意識において、大きく3つの特徴的なグループ（クラスタ）に分類されることが明らかになりました。このインフォグラフィックでは、それぞれのグループの姿を詳しく見ていきます。

自治会役員のクラスタ構成 (51名)

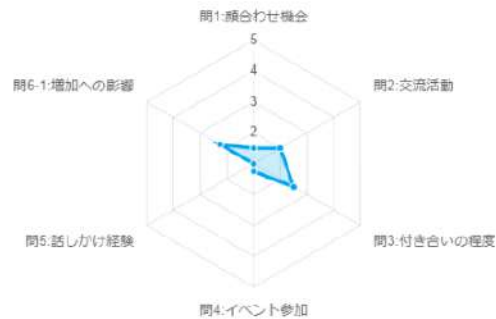


■ クラスタ2: 低接触・受け身層
 ■ クラスタ3: 無関心・情報不足層
 ■ クラスタ1: 積極的交流層

クラスタ1: 積極的交流層

8名 (15.7%)

外国人住民との交流に最も積極的で、多文化共生に肯定的な少数派グループ。自ら話しかけた経験があり、イベントへの参加も「している」と認識しています。



クラスタ2: 低接触・受け身層

27名 (52.9%) - 最多数派

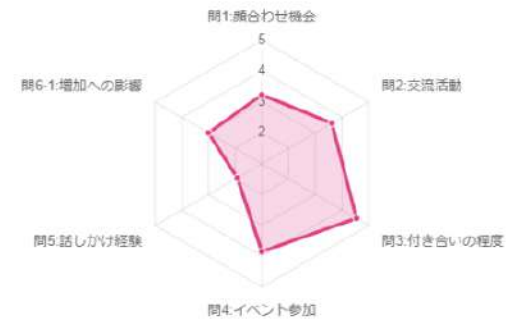
外国人住民との接触や交流が少なく、関与に受け身な最大グループ。現状維持を望む傾向があり、多文化共生への具体的なイメージが湧いていない可能性があります。



クラスタ3: 無関心・情報不足層

13名 (25.5%)



接触が少ない点はクラスタ2と共通ですが、イベント参加状況を「わからない」と回答するなど、情報不足や無関心さが特徴のグループです。





クラスタを分ける意識の違い

順序ロジスティック回帰分析により、どのような意識がクラスタの傾向に影響を与えているかが見えてきました。「積極的交流層」と「低接触・受け身層／無関心・情報不足層」とでは、重視する点に統計的に有意な違いがあります。

「積極的交流層」がより重視する傾向 ($p < 0.05$)

-  **挨拶など基本的なことの習得 (問8-1)**
円滑な交流の第一歩として、基本的なマナーを重視しています。
-  **多言語対応の相談窓口設置 (問9-6)**
外国人住民の生活課題に寄り添い、具体的な支援の必要性を認識しています。

「低接触・受け身層／無関心層」がより重視する傾向 ($p < 0.05$)

-  **生活ルールの周知 (問9-4)**
ゴミの分別など、生活習慣の違いに強い課題意識を持っています。
-  **外国の習慣・文化の理解 (問9-3)**
異文化理解の必要性を感じつつも、行動には結びついていない状況です。

多数派「低接触・受け身層」へのアプローチ

自治会役員の半数以上を占める「低接触・受け身層」の関与を促すことが、多文化共生推進の鍵となります。彼らの意識と行動を変えるためには、段階的で具体的なアプローチが必要です。

1

不安や懸念の深掘りと解消

自由記述の分析や追加調査で「なぜ交流しないのか」を具体的に把握し、ゴミ問題など特定の不安に対して多言語でのルール周知といった解決策を提示します。



2

「自分ごと」としてのメリット提示

地域の担い手不足解消やイベント活性化など、自治会運営における具体的なメリットと多文化共生を結びつけ、重要性を実感してもらいます。



3

段階的な情報提供と機会創出

最初から積極的な交流を求めず、まずは啓発動画の視聴や小規模な交流会から始め、心理的なハードルを下げていくことが効果的です。

3 ヒアリング調査

1 調査の方法

本調査は、本市職員が、外国人を雇用している企業や関連団体等の状況を把握することを目的として実施したものである。

令和7年4月1日から同年7月11日までの期間に、本市職員3名で構成する調査チームが、対象企業・団体に事前に連絡・調整のうえ訪問し、面談形式によるヒアリングを行った。

調査対象は、産業分野や事業規模等に偏りが生じないように、外国人雇用に関する情報をもとにランダムに抽出した事業所を中心とし、可能な範囲で多様な業種・地域を含むよう配慮した。ヒアリングでは、外国人従業員の受入状況、日本語教育や生活支援、地域との関係づくり、課題認識および今後の取組意向等について意見聴取を行い、得られた内容を記録・整理のうえ分析した。

2 調査のまとめ

調査の結果、造船・製造・建設・介護・繊維など幅広い分野で外国人材の受け入れが進み、地域経済を支える重要な戦力となっていることが明らかになった。

一方で、共通の課題として、日本語教育支援の不足、家族帯同に伴う住居や教育支援体制の不備、地域との交流・理解促進の難しさなどが挙げられた。また、企業・行政・監理団体間の情報共有体制が十分でなく、制度改正や支援施策に関する理解にばらつきが見られた。

一部の企業や団体では、自主的に日本語教室や交流活動を実施するなど先進的な取組も見られ、特に設立準備中の日本語学校があるなど、教育・企業・地域を結ぶ新たな支援拠点づくりの動きも確認された。

総じて、本市の外国人雇用は個々の努力によって支えられているものの、全体としての支援体制や地域定着の仕組みは依然として整備途上である。今後は、企業・地域・行政が連携し、外国人住民を「地域の一員」として受け入れる基盤づくりを進めることが求められる。

3 ヒアリング概要

訪問日時	企業・団体・機関名	ヒアリングの概要	主な課題・課題感・意向
4月1日	造船関連企業 O社	技能実習生を30年受入。特定技能2号合格者も輩出。外国人が笑顔で暮らせるまちづくりに共感。	特定技能者の転籍増加。家族帯同支援の未整備。移動手段(mobiやライドシェア含む。)確保の課題。
4月9日	N病院	介護分野でインドネシア人実習・特定技能者受入。日本語教育はオンライン委託。	日本語教育支援が現場負担。寮環境や宗教配慮が必要。母国食材購入環境の不足。
4月9日	造船関連企業 M社	造船艦装業。外国人28名雇用。自社日本語教室や文化交流を実施。	外国人資格取得支援・通訳体制不足。地域イベント参加機会の拡充要望。
4月10日	W監理組合	SKDY関連多数。優良監理団体。フィリピン・ベトナム・インドネシア人材を管理。	住居確保(年間100軒必要)。休日管理難。家族帯同増に向け学校・支援体制整備が必要。
4月11日	造船関連企業Sd社・N社・Sk社	造船系企業。技能実習・特定技能者計60名以上。自主的に清掃・交流実施。	特定技能試験の職種制約。自転車・保険制度の問題。家族帯同に伴う住居・地域支援課題。
4月11日	特定非営利活動法人 創作クラブ Grian(伯方町)	外国人・障がい児を含む住民主体の共生活動。福祉と観光を融合。	日本語教師不足。学校給食のハラル対応。宗教配慮の課題。
4月11日	吉海地区合同協議(県・企業・自治会)	外国人地域リーダー養成事業の説明・意見交換。	特定2号増への地域受入不安。交流会継続の仕組み不足。

訪問日時	企業・団体・機関名	ヒアリングの概要	主な課題・課題感・意向
4月14日	造船会社 I社	外国人技能者については、関連企業で受入継続。高度人材も在籍。	家族支援・母親の日本語教育。育成就労制度への不透明感。
4月15日	今治市社会福祉協議会	多文化ソーシャルワーク研修・交流イベントを実施。地域福祉活動計画に位置付け。	各種団体の明確な役割や目的の共有化。
4月16日	造船関連企業 K社	フィリピン人中心。特定技能1号多数。自社で日本語教育と寮整備。	借家契約拒否など地域受入の壁。家族帯同時の就労支援課題。
4月17日	今治明德短期大学	留学生170名（ネパール・ミャンマー等）。日本語力・生活指導に苦慮。	アルバイト・就職支援不足。地元企業マッチング体制の強化要望。
4月17日	HAKUNA MATATA	「やさしい日本語」普及、外国人相談、交流事業を実施。	助成依存による継続困難。活動拠点・人材不足。柔軟な交流拠点が必要。
4月17日	日本財団（Web協議）	今治市施策を共有。民間連携・支援ネットワーク化を提案。	外国人相談窓口の多言語・一元化が必要。民間連携推進の要望。
4月18日	建設会社 W社	建設業。技能実習・高度人材受入。女性活躍推進企業。	小規模企業の支援負担。送り出し機関の質の差。アフリカ人材増への備え。
4月18日	人材紹介業 A社	外国人採用支援、人材紹介業。県事業に関与。	行政・企業・送り出し機関間の情報連携不足。定着支援強化の必要。

訪問日時	企業・団体・機関名	ヒアリングの概要	主な課題・課題感・意向
4月21日	海運会社 S社	外国人船員・航海士雇用。家族帯同者増加傾向。	配偶者（母親）日本語教育支援。地域生活支援の不足。
4月22日	今治タオル工業組合	外国人実習生・特定技能者雇用。留学生雇用も模索。	タオル業界への特定技能受入が業界の悲願。日本語教育と人材定着が課題。
4月23日	今治商工会議所	外国人雇用企業への支援意向調査。	制度理解が不足している企業が多いと認識。地元中小企業への支援拡充を希望。
4月24日	今治市 海事都市推進課	海事産業×多文化共生の政策調整。庁内連携を強化中。	市全体の方針共有・横断調整が不足している。
4月25日	日本語学校 E社	特定技能2号・帯同家族等を対象にした 新日本語教育機関 を設立予定。監理団体OB・JICA経験者が中心。	人材定着を支える教育拠点の設立を目指す意向。課題は教員確保・財政基盤・制度認可・行政連携体制。市とのパートナーシップを構築希望。
5月9日	愛媛県中小企業繊維産業協議会	繊維業界の特定技能外国人の受入状況を共有。自治会・企業合同で地域説明会を実施。	外国人労働者の地域参加不足。自治会との連携体制づくりが必要。5/15～19に追加説明会開催予定。
5月9日	支援機関 K社	外国人生活支援アプリ「K社アプリ」の機能説明。求人・日本語学習・医療通訳など統合支援。	外国人生活支援のDX化を提案。市の連携・予算化を令和8年度に向け検討。
5月13日	ベトナム料理店 B店	ベトナム人元留学生夫婦が起業。飲食店運営。保育園児を育てつつ地域定着。	外国人家族の住宅・出産支援不足。生活情報提供の充実要望。外国人の起業支援強化希望。

訪問日時	企業・団体・機関名	ヒアリングの概要	主な課題・課題感・意向
5月13日	F 高校	外国人留学生や帰国子女を含む高校教育の現場調査。	日本語教育支援と地域交流機会の拡充。地域企業との接点づくりが課題。
5月14日	外国人支援企業 K社	外国人雇用・就労相談窓口業務を担当。企業・外国人双方の相談対応。	県内企業の制度理解不足。相談体制の強化と情報共有を求む。
5月15日 ～19日	吉海・九王・新町地区自治会説明会	外国人雇用企業と地域住民の意見交換。	ごみ出し・防災など地域ルール理解の促進が課題。外国人の自治会参加促進を希望。
5月21日	愛媛県（外国人材地域リーダー育成事業）	今治市でモデル事業実施予定。企業向け説明会5/26開催。外国人リーダー3名育成計画。	帯同家族・配偶者支援を重視。企業・行政・地域の三者連携推進を確認。
5月25日	今治商工会議所（再訪）	企業の外国人雇用状況を再確認。	中小企業の外国人採用意欲は高いが制度理解に遅れ。研修会の開催要望。
5月26日	愛媛県主催：企業説明会（外国人材受入）	今治地域の企業向け説明会を開催。	特定技能2号制度や家族帯同支援の情報共有。
5月30日	日本語学校 E社	日本語教育機関設立準備が進展。監理団体・企業OB・大学関係者が連携。	市内での拠点確保を最終調整中。設立意向は強く、「企業と地域を結ぶ教育ハブ」を目指す。

訪問日時	企業・団体・機関名	ヒアリングの概要	主な課題・課題感・意向
6月3日	造船会社 I社 海運会社 S社	「技術・人文知識・国際業務」外国人の家族帯同が進まない理由。	外国人を受け入れる体制（教育・医療・介護）受入体制の整備が整うと、おそらく帯同家族は増えるのではないかと。
6月3日	明德短期大学	外国人留学生の就職支援	留学生の今治市内での就職希望と今治市内の企業の採用意欲・分野のミスマッチ。
6月5日	介護企業 O社	介護職員として2人採用（フィリピン人・女性）	外国人雇用する場合の費用負担感が重い。また、病気などの際に付き添い必要となる等の事務負担感も大きい。
6月17日	今治市立A小学校	学校現場の現状について聴取。	教育課程外で日本語教室を実施。保護者の日本語理解に差、個別に丁寧に連絡する必要あり。
6月20日	今治市立B中学校	学校現場の現状について聴取。	語学補助員の人的不足。翻訳アプリも使い勝手が悪く役に立たない。教育アプリが多言語化対応・成長過程別対応できておらず使用に支障。
7月8日	日本財団公共事業部	情報交換	財団として団体への補助したく、必要なメニューを調査中。日本語教室等に支援したい。
7月11日	建設会社 S社	ミャンマー人「技術・人文知識・国際業務」2名と懇談。	生活に特に支障はない。市に期待したいことは交流会の実施。

4 施策への反映

反映させた施策	反映させた点	ヒアリングでの根拠・反映点
1-1 必要な人に必要なサービスや情報が届く仕組みの構築	「プッシュ型で情報発信できる体制を整える」	企業・団体から「外国人に行政情報が届きにくい」「制度理解に差がある」との指摘（N病院・造船関連企業M社・商工会議所等）。DX化の必要性（K社アプリ）も反映。
1-2 外国人住民の生活相談体制の充実	「相談できる体制の充実と周知」	監理団体・企業（W監理組合・造船関連企業O社等）からの「生活相談の窓口が分かりづらい」意見を踏まえた。
1-3 地域社会への参画と協働の推進	「共に生きる社会づくりを推進」	自治会・企業合同会議（吉海地区）での「外国人の地域参加が少ない」課題に対応。地域説明会（5月実施）の方向性を反映。
1-4 行政情報等の多言語化とやさしい日本語化	「多言語やさしい日本語での情報発信」	HAKUNA MATATAや社会福祉協議会が実践している「やさしい日本語」活動を政策化。外国人への情報伝達改善ニーズを反映。
1-5 教育・子育て・医療・介護等の支援	「外国にルーツを持つ子どもの母語保持」「居住環境の確保」	日本語学校E社、母親・子どもの教育支援（造船会社I社・明德短大・海運会社S社）などの指摘を反映。
2-2 身近な生活ルールの周知と啓発	「地域や企業を通じて周知と啓発」	自治会ヒアリングでの「ごみ出し・防災ルール理解不足」指摘を反映。5月の地域説明会内容と一致。

反映させた施策	反映させた点	ヒアリングでの根拠・反映点
3-1 外国人材の受入れ支援	「企業・団体の円滑な受入れ支援」	造船・建設・繊維業などの企業（造船関連企業M社・K社・O社）からの人材管理負担や制度理解不足を踏まえた。
3-2 定着促進とキャリア形成支援	「留学生の地元就職促進・キャリアアップ支援」	明德短大・タオル業界企業・商工会議所からの「地元就職マッチング不足」指摘を反映。特別講習支援は企業ニーズ（造船関係）に基づく。
4-1 日本語学習機会の確保と母語保持	「生活に必要な日本語能力を身につける環境整備」	日本語学校E社、企業の社内日本語教室（造船関連企業K社・M社）等の事例を施策化。
4-2 食・アート・スポーツ・音楽などをKeyに交流促進	「文化を通じた多文化交流の促進」	HAKUNA MATATAや創作クラブGrianなどが実施する交流活動を体系化。
4-4 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及	「翻訳アプリ等のICT活用」	支援機関K社との面談で提案されたアプリ型支援を反映。
4-5 ゆかりのある外国人・在外邦人との連携交流	「今治家の一員として関係強化」	市外・海外に広がる元留学生・ALTとのネットワーク構築方針は、調査中に出た関係者意見を踏まえた。

4 パブリックコメント

1 方法

- 1 募集期間
令和8年1月13日（火）から2月24日（火）まで 43日間
- 2 意見提出者の条件
 - (1)今治市に在住する者
 - (2)今治市内に事務所・事業所を有する個人及び法人
 - (3)今治市内の事務所・事業所に通勤する者
 - (4)今治市内の学校に在学中の者
- 3 意見提出方法
 - ・別途定めた「意見提出様式」に記入し市役所まで持参・郵送・ファクシミリ・電子メールにて提出
 - ・今治でのひら市役所(オンライン申請)の意見提出フォームによる提出

2 結果

- 1 提出者数 19名
- 2 提出意見数 62件 これを項目別にまとめると概ね23の意見に集約

3 意見の概要と本市の考え方

No	関連箇所	意見の概要	本市の考え方
1	P4	今治市は造船のまちで、昔から外国人が多い。なぜ今多文化共生推進プランなのか。	本市は造船業をはじめとする産業を背景に、古くから外国人と共に歩んできたまちであり、地域の中で自然な交流が積み重ねられてきました。一方で、近年は外国人住民の国籍や在留資格、生活スタイルが多様化し、地域での暮らしや関わり方も変化しています。こうした中、これまでの経験や取組を土台としつつ、外国人住民と日本人住民の双方が、より安心して暮らし続けるための共通の考え方や施策の方向性を、あらためて整理し、共有する必要が生じてきました。本プランは、外国人住民を新たに増やすことを目的とするものではなく、すでに地域で共に生活する人々が、互いを理解し、支え合いながら暮らせる環境を整えるための指針として策定するものです。これまで築いてきた本市の共生の歴史を継承しつつ、時代の変化に対応した「秩序ある共生社会」の実現を目指してまいります。
2	P4	計画策定の背景や必要性について、市民への説明が不足している。身近なところでの説明や丁寧な周知を行うべき。(同様6件)	本市では、多文化共生の推進に向け、担当組織の設置以降、関係機関・団体へのヒアリングやアンケート調査の実施などを通じて、地域の実情や課題の把握に継続的に取り組んでまいりました。また、本プラン(案)の策定にあたっては、市民委員の皆さまからなる「今治市多文化共生推進プラン検討懇話会」を設置し、多様な立場や視点からのご意見を丁寧に伺いしながら、慎重に検討を重ねてきたところです。さらに、市民団体等の会合において機会を捉えてプランの趣旨や内容について説明を行うとともに、市議会においても、本プランについて答弁を行い、考え方や取組状況について説明してまいりました。一方で、ご指摘のとおり、これらの取組が必ずしも十分に市民の皆さまへ行き届いていなかった点については、真摯に受け止めております。今後は、本プランに基づき、より多くの市民の皆さまに内容をご理解いただけるよう、地域における出前講座の実施や広報媒体を活用した分かりやすい情報発信に一層努めてまいります。
3	P4	「JICAアフリカ・ホームタウン」について盛り込むべき。(同様1件)	「JICAアフリカ・ホームタウン」は、国際理解や相互交流の促進を目的としたものであり、SNS等で一部に流布されたような、移民政策の推進や特別な在留資格の付与を目的とする取組ではございません。しかしながら、事実とは異なる情報が拡散したことにより、市民の皆さまに不安や誤解を招く結果となったことについては、重く受け止めております。本件については、個別の事業であることに加え、主催者であるJICAにおいて既に事業の撤回が公表されていることから、本プランへの追記は行わないこととしております。一方で、市民の皆さまに不安や混乱が生じた事実を踏まえ、今後は、事業の趣旨や内容について、より丁寧に分かりやすい情報提供に努めるとともに、誤解が生じた場合には、適切かつ速やかな説明を行ってまいります。本件に限らず、個別の事業や取組に関しては、その内容や影響を踏まえながら、施策の中で適宜対応し、市民の皆さまの理解と安心の確保に努めてまいります。
4	P4、P25-27	外国人受入が先行し、生活基盤整備や地域の合意形成が後回しになっているように感じる。	外国人労働者の受入れ総数や制度の構築に関する責任は、政府にあります。ご指摘のとおり、これまでの政府の受入れ方針が場当たり的であったことは否定できません。本来、外国人住民の増加に対応した生活基盤の整備を進める責任も政府にあることから、今後は一時的・対症療法的な対応にとどまることなく、全国どこにおいても秩序ある外国人との共生社会が実現されるよう、全国市長会の場などを通じて国に対し要請してまいります。

No	関連箇所	意見の概要	本市の考え方
5	P4-5、P25-27、P39、P58	多文化共生施策に関する責任の所在が不明確ではないか。将来的に外国人住民が増え続けた場合の対策が示されていない。(同様3件)	本プランは、計画期間を5年間とするものであり、将来的に外国人住民が増加した場合の本市の長期的なまちの姿を示すものではありません。あくまで、当該5年間における本市の多文化共生施策の方向性を示すものです。外国人受入施策に関する最終的な責任は、国民の安全と秩序ある社会の維持を担う日本国政府にあります。本市が進めようとしている多文化共生施策は、政府の外国人労働者受入施策に起因して地域に生じ得る混乱を未然に防ぐことを目的としたものであり、外国人受入そのものに関する責任の所在が市にあるものではありません。
6	P5、P15、P18、P25-27	地域の受入人数の制限を設けるべき。将来像が見えない。(同様4件)	在留資格の付与や外国人の受入人数の管理につきましては、国の制度に基づいて行われるものであり、地方自治体はその人数を直接的に管理・調整できる性質のものではありません。本市は、国の制度のもとで適法に在住する外国人住民と日本人住民が、地域の一員として共に安心して暮らすことができる環境を整備する立場として、本プラン(案)を策定しております。今後は、外国人住民の増加傾向を踏まえ、相談体制の充実、分かりやすい情報提供、日本語教育、防災、生活ルールの周知・啓発などに取り組み、地域におけるトラブルの未然防止に努めてまいります。引き続き国の動向を注視しつつ、本プランに基づいた情報提供や相談対応を行い、市民の皆さまの不安の軽減と、安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。
7	P5、P15、P64	予算規模が示されておらず、多文化共生施策の費用や財源、税負担が不明。多文化共生施策に多額の税金が使われるのではないか不安がある。(同様4件)	本プランは、「秩序ある共生社会の実現」を目指し、本市が取り組む施策の方向性や基本的な考え方を示す指針として策定するものであり、現時点において、個々の事業に係る財源や予算の確保をお約束するものではありません。財政面については、基本的には既存事業を活用し、国・県の補助制度等も活用しながら取り組むこととしています。
8	P7	多文化共生だけでなく、高齢者・障がい者等についても、地域で支え合える拠点づくりを進めてほしい。	ご提案のとおり、共生社会の実現にあたっては、多文化共生のみならず、高齢者福祉、障がい者施策、子育て支援など、様々な分野を横断的に捉えて取り組むことが重要であると認識しております。いただいたご意見を参考にしながら、今後も各分野の個別計画との整合を図りつつ、それぞれの施策を着実に推進し、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりに取り組んでまいります。
9	P10	「やさしい日本語」での情報発信を推進していくと、日本の子どもの学力が落ちるのではないか。	本プランにおいて推進する「やさしい日本語」は、主に行政情報や防災、生活ルールなど、日常生活に必要な情報を外国人に分かりやすく伝えるための手法であり、学校教育における指導言語や学習内容を簡略化するものではありません。また、日本人の子どもに対する教育水準や学習指導要領に基づく教育内容を変更するものでもありません。学校教育の現場においては、引き続き、年齢や発達段階に応じた適切な日本語指導や学習指導が行われることが前提と考えています。「やさしい日本語」は、教育の質を下げるものではなく、誤解やトラブルを防ぐための補助的な手段として位置付けています。本市としましては、「やさしい日本語」を外国人に対して適切な場面で活用しつつ、日本語教育の充実や学力向上に向けた取組との両立を図り、外国人住民と日本人住民の双方が安心して生活できる環境づくりに努めてまいります。

No	関連箇所	意見の概要	本市の考え方
10	P23、P25-26、P28、P31、P33	地域住民の不満や要望に対する具体的な対応がない。地域の現場の負担軽減策や責任の所在が不明確ではないか。誰がどの手順で是正するのか、苦情・近隣トラブルへの具体的な対応や責任主体が不明。事業者が協力しない場合も想定し、是正措置などの強制力を伴う仕組みを明確にしてほしい。(同様5件)	本プランは、「秩序ある共生社会の実現」を目指し、本市が取り組む施策の方向性や基本的な考え方を示す指針として策定するものであり、特定の行為を義務付けたり、強制力を伴ったりするものではありません。生活ルールにつきましては、外国人住民と地域住民の双方が安心して暮らすことができるよう、「見える化」を図るとともに、地域、企業、監理団体、登録支援機関等と連携しながら、分かりやすい周知・啓発に取り組んでまいります。また、外国人住民に対しては、外国人相談窓口による相談体制の充実や関係機関との連携強化を図り、日常生活における不安やトラブルを未然に防ぐための意識啓発に努めてまいります。
11	P24-25	日本人の不安度や負担感については、数値化する予定はあるか。または、どのように把握するのか。	日本人住民の不安や負担感について把握すべきとのご意見につきましては、地域における安心や秩序を維持するうえで重要な視点であると受け止めております。本プランは、「秩序ある共生社会の実現」を目指すための取組の方向性や基本的な考え方を示す指針として策定するものであり、市が外国人住民の受入や排除をすることを目的としたものではありません。このため、日本人住民の不安度や負担感を数値化することは現時点では想定しておりません。一方で、市民の皆さまが感じる不安や課題の声は、施策を進めるうえで重要な要素であると認識しており、今後も、相談窓口への声、地域や関係団体との意見交換、出前講座の実施等を通じて、実態の把握に努めてまいります。引き続き、市民の皆さまの声に耳を傾けながら、本プランに基づく取組が地域の安心や負担軽減につながるよう努めてまいります。
12	P24、P35、P53-54	外国人住民も今治には必要。日本人にやさしい施策は、外国人にもやさしい施策だと考える。外国人住民との交流が大切。偏見の少ない子ども世代からの理解促進を進めてほしい。	本プランでは、外国人住民を地域社会を共に支える一員として位置付け、地域における参画と協働の機会を広げていくことを重視しています。具体的には、地域活動への参加促進に加え、モデル地区における取組の実施、地域のキーパーソンの発掘・育成、交流イベント等を通じて、日常的な「顔の見える関係づくり」を進めてまいります。また、相互理解の促進や差別の解消に向け、啓発活動や研修等に取り組み、特定の立場や背景に対する偏見のない、誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進してまいります。今後も、交流機会の創出や継続的な啓発を通じて、外国人住民と日本人住民の相互理解を一層深め、地域のつながりを大切にした共生社会の実現に取り組んでまいります。
13	P25	日本語が不十分なまま受入が進むと、生活トラブルが増えることが想定される。そのため、日本語教育は施策の一つとしてではなく、受入の前提条件として位置付けるべき。	日本語能力が十分でないまま生活を始めた場合、意思疎通の行き違いから不安やトラブルにつながるおそれがあることご指摘につきましては、本市としても重要な課題であると認識しております。一方で、在留資格の付与や受入要件につきましては国の制度に基づいて行われるものであり、地方自治体が日本語能力を受入れの前提条件として定めることはできない仕組みとなっております。本プランでは、こうした制度的な前提を踏まえつつ、地域での生活を円滑にするための支援や環境整備を市の役割として位置付けております。今後も、日本語教育の充実を重要な柱の一つとして位置付けつつ、関係機関と連携しながら、生活トラブルの未然防止と、外国人住民と日本人住民の双方が安心して暮らせる地域環境の整備に努めてまいります。

No	関連箇所	意見の概要	本市の考え方
14	P25、P44、P47	安価な労働力確保のための外国人労働者よりも、日本人若者の雇用や賃金改善を優先すべきではないか。(同様5件)	本市では、若者の定住促進を重要な課題として認識しております。一方で、現状においては人口減少による人手不足が深刻な産業分野があり、外国人が地域経済を支えている側面もございます。産業分野においては、外国人を受け入れる企業等が関係法令を遵守し、人権尊重の視点を持って、適切な雇用・就労環境の整備に取り組むことを重視しております。また、生活オリエンテーションの実施や日本語学習機会の提供など、外国人住民が地域社会に円滑に適應できるよう支援する取組を位置付けております。あわせて、若年層の雇用促進についても、関係機関と連携し、就労におけるミスマッチの解消や、将来を見据えたキャリア形成支援を通じて、地域産業や社会の持続性の確保につながる取組を進めてまいります。今後は、本プランに基づき、受入企業等への周知や連携を一層進めるとともに、地域全体の理解を深めながら、持続可能な地域づくりに向けた取組を推進してまいります。
15	P23-25	企業任せの外国人受入には限界があり、地域に負担が集中している。地域の負担軽減策がない。	ご指摘のとおり、外国人住民の生活全般について、受入企業がすべての責任を負うことには限界があり、ごみ出しのルールや地域活動への参加などをめぐって、地域住民に負担が生じている場合もあります。本プランは、言葉や文化の違いから生じる地域住民と外国人住民とのトラブルを未然に防ぎ、地域における円滑な共生を図ることを目的とするものです。
16	P29、P37-38	学校現場の負担や学級崩壊、宗教・食文化・土葬等の文化的摩擦への懸念がある。特に、母語保持やインターナショナルスクール支援は、日本語習得を妨げ、日本社会への適應を阻害するのではないか。日本で生活する以上、日本語を優先すべき。(同様4件)	本プランは、日本の法令や地域ルールを前提としつつ、違いを認め合い、地域の秩序と安心を守りながら共に暮らすことのできる環境づくりを目的としています。母語保持については、その人のアイデンティティ形成に深く関わるものであり、子どもが家庭で用いてきた言語や文化的背景を尊重することが、心身の安定や健全な成長につながるという考え方に基づき、位置付けております。子どもの母語を否定することは、結果として子ども自身の存在や経験を否定することにつながりかねないとの認識によるものです。なお、これは日本語教育を軽視したり、阻害したりすることを目的とするものではありません。家庭において母語を通じて身に付けた知識や考える力、学習習慣等は、日本語の学びを支える基盤となるものと考えております。いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考とさせていただき、教育現場や関係機関と連携しながら、日本語指導体制の充実や、子ども一人ひとりの状況に応じた適切な支援の在り方について、引き続き検討してまいります。いただいたご意見を参考とさせていただき、P38(1-5-6母語による子育ての権利の尊重とインターナショナルスクールの設置支援)に、母語保持の説明を追記しました。
17	PI9-22、P33、P36、P55	日本語学習や通訳に税金を使うことへの疑問があるが、一方で、言語の壁はトラブルの要因でもある。受入企業が責任をもって日本語教育や生活オリエンテーション等を徹底してほしい。翻訳アプリ等を活用してコミュニケーションを確保してほしい。(同様1件)	本プランは、「秩序ある共生社会の実現」を目指し、本市が取り組む施策の方向性や基本的な考え方を示す指針として策定するものであり、特定の行為を義務付けたり、強制力を伴ったりするものではありません。生活ルールにつきましては、外国人住民と地域住民の双方が安心して暮らすことができるよう、内容の「見える化」を図るとともに、地域、企業、監理団体、登録支援機関等と連携し、分かりやすい周知・啓発に取り組んでまいります。また、外国人住民に対しては、外国人相談窓口による相談体制の充実や関係機関との連携強化を進め、日常生活における不安やトラブルを未然に防ぐための意識啓発に努めてまいります。

No	関連箇所	意見の概要	本市の考え方
18	P28、 P31-34	外国人向け相談窓口はあるが、日本人住民が外国人とのトラブルを相談できる窓口が分かりにくい。	これまでと同様に、内容に応じて、国・県・市・警察などの関係機関が設置する適切な相談窓口へご相談いただきますようお願いいたします。
19	P35、 P52-53、 P55	キーパーソンの発掘は、外国人住民と地域をつなぐ架け橋的な存在として重要。しかし、言葉の壁があるため、外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及が、準備段階から必要。公民館やオンラインの活用など誰でも自由に学べる機会があると参加しやすい。	キーパーソンが外国人住民と地域をつなぐ重要な役割を担うとのご意見につきましては、本市としても同様に認識しております。その基盤づくりとして、本プランでは、多言語化の推進に加え、「やさしい日本語」や翻訳アプリ等のICTを活用したコミュニケーション手段の普及を重視しております。いただいたご意見を今後の取組の参考としながら、キーパーソンに限らず、誰もが参加しやすく、学びや交流の機会を得られる環境づくりを進め、地域における円滑なつながりの形成に取り組んでまいります。いただいたご意見を参考とさせていただき、P52（4-1-1地域日本語教室の充実）に、オンライン実施について追記しました。また、P53（4-2-2地域活動への外国人住民の参加促進）に公民館等での、だれもが参加しやすい学びの機会の創出について追記しました。
20	P39、P40 、P43	外国人の税・保険料未納の増加や回収困難が心配。未納防止策を強化してほしい。（同様2件）	本プランは、国における保険料や税の未納防止等に向けた適正化の取組を前提としつつ、生活・地域レベルにおいて、制度内容の周知や未加入・未納を防ぐための啓発を進めるものです。特に、帰国後の納税義務や社会保険料の還付制度等については、十分な周知が行き届いていないことが課題であると認識しております。今後は、関係機関や受入企業等と連携しながら、外国人住民にとって分かりやすい情報提供の充実に努めてまいります。事業の実施にあたっては、ICTの活用等により業務の効率化や負担軽減を図りつつ、効果的な取組を進めてまいります。引き続き、制度周知と関係機関との連携を通じて、制度の適正な運用とトラブルの未然防止に努め、市民の皆さまの理解と安心につながる取組を推進してまいります。いただいたご意見を参考とさせていただき、P40（2-2身近なルールなどの周知と啓発）、P43（2-2-2生活支援アプリなどを用いたプッシュ型の情報発信）に、税等の未納が発生しないように啓発を行う旨の文言を追記しました。
21	P39、 P41-43	治安悪化や犯罪、交通事故等への不安がある。外国人住民にも同じルールを徹底し、違反への厳格対応や防犯・交通安全対策を強化してほしい。犯罪を犯した場合は自国に強制送還を。（同様3件）	本プランは、「秩序ある共生社会の実現」を目指し、本市が取り組む施策の方向性や基本的な考え方を示す指針として策定するものであり、特定の行為を義務付けたり、強制力を伴うものではありません。外国人住民と日本人住民の双方が安全・安心に暮らすことのできる地域社会の構築を目的として、防災、交通安全、防犯に関する情報提供や学習機会の提供、意識啓発などに取り組んでいくものです。今後も、日常生活における身近な生活ルールについて、分かりやすい情報提供と周知・啓発を継続的に行うことで、相互理解の促進を図り、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

No	関連箇所	意見の概要	本市の考え方
22	P50、P54、P63	<p>すべての人の人権を尊重し、相互理解を深め、多文化共生のまちづくりに向けた機運の醸成を図る、とあるが、まずは日本人のよりよい生活が大事ではないのか。日本人への配慮がない。 (同様1件)</p>	<p>本プランにおける多文化共生の取組は、日本人住民の生活の質を損なったり、後回しにしたりするものではありません。むしろ、外国人住民の増加という現状を踏まえ、生活ルールの周知や円滑なコミュニケーション、相互理解を進めることにより、地域における不安やトラブルを未然に防ぎ、日本人住民を含む地域全体の安心で安定した暮らしを守ることを目的としています。人権の尊重や相互理解は、特定の人だけを守るためのものではなく、地域に暮らすすべての人が不当な不安や対立を抱えることなく生活するための基盤となる考え方です。多文化共生の取組を進めることは、日本人住民がこれまで築いてきた地域の秩序や安心を維持・向上させることにもつながるものと考えております。本市といたしましては、日本人住民の暮らしの安心と向上を大切にしながら、その前提として、外国人住民を含めた地域全体のルール遵守や相互理解を促進し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見を参考とさせていただき、P54（4-3-3共に生きる社会の実現に向けた取組）について、外国人の記載を削除し、文言を「共に生きる社会の実現に向けた取組」に修正しました。</p>
23	P63	<p>「監理団体・支援機関・企業・地域コミュニティ等と連携」とあるが、県外の支援機関等を経由している特定技能外国人に対して、誰がどのように周知啓発を行うのかという具体案を示してほしい。</p>	<p>本プランは、「秩序ある共生社会の実現」を目指し、本市が取り組む施策の方向性や基本的な考え方を示す指針として策定するものであり、特定の行為を義務付けたり、強制力を伴うものではありません。なお、本件につきましては、令和7年4月から、特定技能制度に関する「協力確認書」を所属企業が市区町村に提出することが、出入国在留管理庁により定められております。本市においては、当該協力確認書の提出情報に基づき、関係企業に対して必要な周知を行ってまいります。</p> <p>この取扱いは、本プランの策定の有無にかかわらず制度上定められているものであることから、本プランへの記載は予定しておりません。</p>

5 プランの原案の市民説明と意見

1 市民説明の経緯

多文化共生の施策を本格的に展開する前に、市民の皆さまに「多文化共生のこれから」について正しく知っていただくため、市役所内関係各課からの紹介や各団体からの講話・出前講座の依頼により、各会の会合に参加する形式で説明を実施した。

2 市民説明の概要

- 1 実施した期間
令和7年12月23日（火）から 令和8年3月23日（月）まで
- 2 説明した市民団体等の数と説明した市民の数
38団体 1,305名

※また、市政広報番組「こんにちは市役所です」（令和8年2月9日(月)放送分）にて本市の多文化共生施策についての説明を行った。

6 今治市多文化共生推進プラン検討懇話会

	主な議事	主な意見
<p>第1回</p> <p>令和7年9月22日(月) 13:30～16:00</p> <p>今治市役所 特別会議室3号</p>	<p>○市長からの依頼事項について</p> <p>○施策の概要に関する協議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施策展開を外国人住民に偏らせるのではなく、地域社会の中で共に生きる仲間として、多文化共生を考えるべき。 ・「外国人のために何かをしてあげる」という視点ではなく、日本人住民も気持ちよく暮らせる施策とすべき。
<p>第2回</p> <p>令和7年10月8日(水) 14:00～16:00</p> <p>今治市役所 特別会議室3号</p>	<p>○多文化共生社会調査の結果について</p> <p>○施策に関する詳細検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進体制を考えるうえで、国際交流協会の担うべき役割が増大するが、陣容の拡大等が必要ではないか。 ・国籍にかかわらず共通の趣味や関心を通じて自然と交流できる「場」づくりが重要。
<p>第3回</p> <p>令和7年10月31日(金) 13:30～15:30</p> <p>今治市役所 特別会議室3号</p>	<p>○推進体制に関する詳細検討</p> <p>○取りまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・首相が外国人の受入れと秩序ある共生社会の実現に向けた方針を示そうとしているため、連動すべき。 ・外国人労働者をグリップしているのは監理団体であり、監理団体との連携も大切。

【委員構成】計16名

教育関係団体2名、商工関係団体4名、福祉・外国人支援団体3名、自治会関係者2名、外国人住民2名、外国人雇用団体2名、今治市国際交流協会1名